

科目名	哲学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	村田 貴信	関連する資格		

授業概要

歴史や自然、社会や世界、そしてなによりもまず自分自身について、立ち止まって見つめなおしてみる機縁になるように、以下の二点を支軸にして講義を展開する。

- (1) 自己と世界とにともに関わる人知の精髓を哲学史の展開のなかに探る。
- (2) ものごとを広く（多面的に）深く（根源的に）考えることの意味と意義とを理解する。

到達目標

- (1) 哲学の根本問題について考えてみる。
- (2) 哲学の対象と方法とにかんする基礎的な理解を得る。

成績評価方法

期末定期試験で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							100
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 導入： 講義内容ならびに講義の進め方の一般的説明 【予習】テキスト(pp. 1-2)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
2) 人間と哲学(1)： 知・行・信 【予習】テキスト(p. 3)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
3) 人間と哲学(2)： 知・行・信と人間 【予習】テキスト(p. 4)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
4) 理性の運命(1)： 自覚 【予習】テキスト(pp. 5-6)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
5) 理性の運命(2)： 自覚と形而上学 【予習】テキスト(p. 7)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
6) 哲学の方法(1)： 超越論的論理学 【予習】テキスト(p. 8)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
7) 哲学の方法(2)： 超越論的演繹 【予習】テキスト(pp. 9-10)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
8) 哲学の方法(3)： コペルニクスの転回 【予習】テキスト(p. 11)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
9) 哲学の対象(1)： 現象と物自体 【予習】テキスト(p. 12)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
10) 哲学の対象(2)： 自由の可能性 【予習】テキスト(pp. 13-14)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
11) 哲学の対象(3)： 道徳の可能性 【予習】テキスト(p. 15)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
12) 歴史と人間(1)： 人間の使命 【予習】テキスト(p. 16)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
13) 歴史と人間(2)： 精神の自由 【予習】テキスト(pp. 17-18)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
14) 世界と人間： 永遠平和の可能性 【予習】テキスト(p. 19)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
15) 総括： 講義全体のまとめ 【予習】テキスト(p. 20)精読(120分)【復習】テキスト再読(60分)	テキスト音読 質疑応答
授業外学習	
週単位ごとの授業計画に示した項目・概要に沿ってテキストを精読(予習)・再読(復習)する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト： カント『啓蒙とは何か 他四篇』(岩波文庫)、岩波書店、1974年(改訳)	人権論、いのちの科学、人間看護学、人間関係論

課題に対するフィードバック

テキスト読解深度を音読・質疑応答で確認する。

備考

期末定期試験時に辞書を使用したい場合は紙の辞書を用意すること。

科目名	人間らしさとは何か			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	溝田 順子	関連する資格		

授業概要

人類の誕生から人間社会の形成に至るまでの過程を学び、人間の「いのち」がどのように育まれてきたか、人間らしさとは何かを学ぶ。  
 それぞれの発達段階における心身機能の変化や多発する疾患、老化に伴う機能低下が及ぼす生活について理解する。  
 また、人の生涯を「生老病死」の思想からとらえ、医療が人々の生涯を通じて人間形成にどのように関わるべきかを学習する。

到達目標

- ・人の誕生を説明できる
- ・人の成長・発達について理解できる
- ・老化に伴う生活の変化と、高齢者に多い疾患について説明できる
- ・人間らしさについて自分の考えをまとめることができ、人間をめぐる課題を討議できる

成績評価方法

授業時随時行う小レポート・小テストおよび期末試験の総合評価

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○		○			50
小テスト、授業内レポート	○	○	○	○			30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○			20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 成長発達とは何か 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
2) 人間とは何か 人間らしさとは 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
3) 人間の体の構造と機能 - 1 【予習】配付資料を見ておく（60分） 【復習】小テスト（30分）	小テスト
4) 人間の体の構造と機能 - 2 【予習】配付資料を見ておく（60分） 【復習】小テスト（30分）	小テスト
5) 人間の健康・病気・発達 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
6) 乳幼児期の発達と機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	グループワーク 乳児期を取り巻く環境
7) 学童期の発達と心身機能、多い疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 学童期を取り巻く環境と支援
8) 思春期・青年期の発達と心身機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
9) 思春期・青年期に多発する疾患 【予習】各自作成したレポートを見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
10) 成人期の発達と心身機能 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
11) 成人期に多発する疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 成人期における環境
12) 老年期の心身機能と特徴 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
13) 老化に伴う生活上の変化と対応 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	グループワーク 老年期における環境
14) 老年期に多い疾患 【予習】配付資料を見ておく（30分） 【復習】小レポート作成（30分）	小レポート
15) 人の発達と課題 【予習】各自作成したレポートを見ておく（30分） 【復習】レポート作成（60分）	レポート
授業外学習	
6)7)9)11)13)では、各発達段階における課題とは何か、授業内容を基に自分の意見を小レポートにまとめ提出する。 3)4)では、授業で講義した内容を小テストをする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
配付資料 参考図書 新看護学15（精神看護） 医学書院 発達と老化の理解 中央法規	人体の構造と機能（看護）

課題に対するフィードバック

小テストは解答と説明を行う。レポートについては翌週コメント記載し返却する。またグループワークに活用する

備考

科目名	日本語論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	黒崎 貴史	関連する資格		

授業概要

日本語を母語とする我々にとって、日本語は「使えて当然なもの」である。しかし、なぜ我々は日本語を自由に扱うことができるのだろうか。誰でも使えるからこそ、ことば（言語）には様々な不思議さや面白さが潜んでいる。『話すとき』『聞くとき』『書くとき』『見るとき』、という4つの大きなトピックに分け、日本語を客観的に観察・考察する。また、言語の背景には、その言語を使用する人々の生活がある。我々を取り巻く社会的・文化的要因と日本語がどのように関連し合っているのか、という問題についても考察する。

到達目標

1. 身近な日本語を客観的に観察することができる。
2. 日本語の不思議さや面白さに気づき、自らの視点で考えることができる。
3. 日本語について多角的に考察する態度を養う。

成績評価方法

出席を含む授業態度、ワークシート、リフレクションシート、定期試験（レポート）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 導入：ガイダンス，言語とは？ 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(1)
2) 日本語の輪郭 【予習】0分，【復習】30分	リフレクションシート(1) ワークシート(2)
3) 日本語を話すとき(1)：心地良いリズム 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(3)
4) 日本語を話すとき(2)：ことばは乱れているか 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(4)
5) 日本語を話すとき(3)：言い間違い 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(5)
6) 日本語を話すとき(4)：ことばの奥にある真意 【予習】0分，【復習】30分	リフレクションシート(2) ワークシート(6)
7) 日本語を聞くとき(1)：聞き間違い 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(7)
8) 日本語を聞くとき(2)：キャラクター語 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(8)
9) 日本語を聞くとき(3)：音・名前の印象 【予習】0分，【復習】30分	リフレクションシート(3) ワークシート(9)
10) 日本語を書くとき：様々な表記 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(10)
11) 日本語を見るとき：町の中にある日本語 【予習】0分，【復習】30分	リフレクションシート(4) ワークシート(11)
12) 社会と日本語(1)：生まれることば・消えることば 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(12)
13) 社会と日本語(2)：ことばと属性 【予習】0分，【復習】30分	ワークシート(13)
14) 社会と日本語(3)：ことばと医療 【予習】0分，【復習】30分	リフレクションシート(5) ワークシート(14)
15) まとめ 【予習】0分，【復習】30分	
授業外学習	
<p>大きなトピックが切り替わるタイミングで，授業内容に関するリフレクションシートを作成してもらいます。作成したものは翌週の授業で提出してもらいます。そのため，毎授業後は各自で授業の復習を行ってください。リフレクションシートの内容は，授業内で指示します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは特になし。資料は適宜プリントを配布する。参考書は授業中に適宜指示する。</p>	

課題に対するフィードバック

毎授業でワークシートに記入してもらいます。記入されたワークシートは回収後、内容をチェックして翌週返却し、個別に書き込みをしたり全体に対してコメントを加える等の形でフィードバックします。  
また、リフレクションシートの内容についても、翌週の授業でいくつか紹介しコメントを加えます。

備考

科目名	日本語の実践			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	武市 眞弘	関連する資格		

授業概要

本授業は、社会で通用する日本語コミュニケーション能力をはじめ、文章作成能力を育成することを目的とする。敬語や俗語、文のねじれなどの表現の技術に加えて、手紙や報告書、ビジネス文書、論文といったさまざまな文体を実践的に習得する。授業では、悪文の例や敬語の添削問題など、表現に関する練習問題も数多く取り入れ、同時に論理的な文章の書き方も繰り返し訓練する。

到達目標

日常生活で使用する文体から大学生活の中で必要な論文の文体まで自由に使い分けられるようになる。

成績評価方法

出・欠席、授業時間内での評価、小試験の成績、学期末テストの得点の総和。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 日本語・漢語・カタカナ語 *漢字音, 日本漢語など 【予習】 pp.1-4 (40分) 【復習】 30分	
2) 同音・同訓異義語, ABC略語, 助数詞 【予習】 pp.5-8 (50分) 【復習】 20分	
3) 漢語・四字熟語, 外来語 【予習】 pp.13-17 (40分) 【復習】 40分	
4) 主述の対応, 修飾・被修飾の関係など 【予習】 pp.17-21 (50分) 【復習】 20分	小テスト
5) 日本語の構文法と助詞 【予習】 pp.25-29 (40分) 【復習】 40分	
6) 話の展開: 序論・本論・結論 【予習】 pp.29-34 (40分) 【復習】 40分	小テスト
7) 説明の順序: 巨視的から微視的へ 【予習】 pp.35-39 (50分) 【復習】 20分	小テスト
8) 敬語の種類, 敬意の伝わる表現 【予習】 pp.39-45 (50分) 【復習】 20分	
9) 敬語の誤用と訂正 【予習】 pp.46-50 (40分) 【復習】 40分	
10) 文章表現法: ( ) 要約, ( ) 論作文 【予習】 pp.50-61 (50分) 【復習】 20分	小テスト
11) 文章表現法: ( ) 手紙, ( ) 案内文, ( ) ビジネス文書 【予習】 pp.62-75 (40分) 【復習】 40分	
12) 分析と考察 ( ) グラフ・表の分析 【予習】 pp.75-80 (40分) 【復習】 40分	小テスト
13) 分析と考察 ( ) レポート・論文の書き方 【予習】 pp.82-86 (40分) 【復習】 40分	小テスト
14) 履歴書等の書き方 【復習】 漢字漢語, カタカナ語, 敬語表現など (80分)	
15) まとめ (期末テストの予告) 【復習】 ABC略語, 正しい文表現など (80分)	
授業外学習	
*合計6回, 授業開始時に「練習問題」の小テストを行う。そのつど辞書などで調べて予習してくることを。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト: 米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート改訂版』(2010, 風間書房) 1,000円+税	

課題に対するフィードバック

小テストおよび宿題は提出したものを点検し評価して、次回授業の初めに返すので、誤りの指摘については正解を習得してほしい。

備考

科目名	日本文化論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

総論では「文化とは何か」について述べた上で、比較文化論的な視点から日本文化の大づかみな特徴を述べる。  
 4以下の各論では、日本の文化の様ざまな側面をとりあげて、文化との関連で日本社会の構造的な特性を理解してもらうようにする。  
 ただし、4以下の各論は、オムニバス講義のため、開講の順番が入れ替わることがある。

到達目標

文化とは何かについて理解する。  
 日本の文化を、外国の文化と比較して考察する。  
 留学生など外国人に、日本文化の特性を説明できるようになる。

成績評価方法

各テーマ回のレポートと期末提出させる最終レポートの成績による。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							25
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 文化とは何か	授業内レポート
2) 日本の文化の特徴 : テレビCM	授業内レポート
3) 日本の文化の特徴 : 自動販売機	授業内レポート
4) 日本の文化の特徴 : 祭り	授業内レポート
5) 日本の文化の特徴 : トレンディドラマ	授業内レポート
6) 日本の文化の特徴 : ホームドラマ	授業内レポート
7) 日本の伝統文化・華道	
8) 日本の伝統文化・華道	
9) 日本の伝統文化・茶道	
10) 日本の伝統文化・茶道	
11) 日本の伝統文化・茶道	
12) 宗教と社会：仏教	
13) 宗教と社会：仏教	
14) 宗教と社会：仏教	
15) 総括討論	授業内レポート
授業外学習	
<p>最終課題として、定期試験代わりのレポートを課します。          講義で学んだ内容、視聴したDVDの内容をよく理解し、日本文化に対する考察を深める。          （様々な日本文化について調べる、体験する。など）</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使用しない。          参考書は、各講義担当者が講義の際に紹介する。</p>	<p>フロンティアとは何か、日本語の科学          社会学概論、社会福祉学概論          社会心理学、経済・経営入門</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	文学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	村上 林造	関連する資格		

授業概要

日本近代文学の中からいくつか作品を取り上げ、その魅力を味わうとともに、文学作品としての価値について考える。また、文学作品を通じて、人の人生や生き方、考え方などを学び、豊かな感性を磨く。

到達目標

文学作品を深く味わう感性を養い、人間の生き方とあり方について深く考える力を培う。自分の意見を他者の前で発言するとともに、他者の意見を聞いて理解し、対話的關係を作る力を養う。

成績評価方法

出席 = 原則全回出席（真にやむを得ない場合以外は欠席を認めない）  
 毎時間授業前レポート、授業後レポートを求め、未提出3回で欠格。その他、隔週で作文課題をだし、作文提出を求める。授業は自由討議の形式であるから、授業での発言は、非常に重要な評価対象となる。最終レポートは非常に字数が多いから、その執筆にはかなりの労力と気力が必要。授業前レポート15回、授業後レポート15回、作文課題7回のほか大量字数の最終レポートという、非常に重い課題を求められる授業であることをよく考慮し、その覚悟をもって受講を決心していただきたい。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							50	
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート							30	
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 予習：次の時間に扱う作品を読み、自分の解釈、感想をレポートにまとめ、講師にメールで送信する（1時間）。	授業後レポート
2) 明治時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
3) 明治時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
4) 明治時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
5) 大正時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
6) 大正時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
7) 大正時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
8) 昭和時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
9) 昭和時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
10) 昭和時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
11) 昭和時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
12) 平成時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
13) 平成時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート
14) 平成時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。【予習】次時の作品を読み、自分の解釈を予習レポートにまとめ、レポート2点を講師にメール送信する（1時間）。	授業前レポート、授業での発言、授業後レポート、作文課題
15) 平成時代の文学作品による自由討議 【復習】本時の授業を踏まえて、自分の作品解釈を復習レポートにまとめる（2時間）。	授業前レポート、授業での発言
授業外学習	
<p>毎回課題作品を事前に熟読し、作品解釈（あるいは感想）を授業前レポートとして提出する。また授業後には毎回授業後レポートを提出する。期限遅れのレポート提出は認めない。未提出3回で欠格（単位不認定）であるから、厳密に期限を守ってレポートを出すことが、単位修得の必須条件である。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
毎時間プリントを配布する。	なし

課題に対するフィードバック

毎時間の授業プリントに、全員のレポートを掲載し、配布する。

備考

授業にはレポートで自分の解釈を示すのはもちろん、授業中に意欲的、積極的な発言を求め、評価する。90分の授業をただ受身で聞いているだけの者は、受講を遠慮していただきたい。（もちろん、授業中の居眠りやスマホいじり、内職等は厳禁である。）

科目名	心の科学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

看護・保健領域の専門職として働くにあたり、臨床現場で役立つであろう知識を中心に、心理学（基礎心理学・応用心理学）の基礎的知識について学ぶ。

到達目標

- 1．看護・保健領域で、心理学の知見を活かし、専門的関わりの質を高める工夫をすることができる。
- 2．心理的支援の理念や方法を知り、チームアプローチに活かすことができる。
- 3．心理学的知見を活かした援助を行う方法を理解できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							60	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度							20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、心理学とは何か	レポート
2) 学習	小テスト
3) 感覚・知覚・認知	小テスト
4) 記憶・思考・知能	小テスト
5) 記憶・思考・知能	小テスト
6) 動機・欲求・情動	小テスト
7) 発達	小テスト
8) 発達	小テスト
9) 集団と社会	小テスト
10) ストレスマネジメント	小テスト
11) パーソナリティとアセスメント	小テスト
12) 心理的支援の方法と実際	小テスト
13) 心理的支援の方法と実際	小テスト、グループワーク
14) 心理的支援の方法と実際	小テスト、グループワーク
15) 心理専門職とのチームアプローチ、まとめ	小テスト
授業外学習	
<p>講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。 小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】レジメを配布します。 【参考書】青木智子 医療と福祉のための心理学 北樹出版、 上利一郎他 新・看護心理学 倍風館</p>	コミュニケーション論

課題に対するフィードバック

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	憲法・人権論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	藪本 知二（大学）	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

判例の展開に留意しながら、日本国憲法の基本原理ならびに基本的人権（包括的基本権、平等権、自由権、参政権、社会権）および統治機構（国会、内閣、裁判所）について概説する。

到達目標

- 立憲主義の意義を理解する。
- 主要な人権の内容を理解する。
- 統治機構の概要を理解する。

成績評価方法

期末定期試験（筆記試験）、小テストおよび授業態度・参加度について、下記の評価割合に従って評点を付ける

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							55
小テスト、授業内レポート	○	○					30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度	○	○	○		○		15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 憲法と国家<国家の三要素> 【予習】国家の3要素とその内容について調べておく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
2) 立憲主義の意義 <憲法とは何か> 【予習】憲法という言葉を手掛かりにして憲法の意味を考える（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
3) 立憲主義の意義 <人権の種類と内容> 【予習】人権の種類とその内容について調べておく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
4) 人権の享有主体 【予習】テキストTheme1、2および14を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
5) 幸福追求権 【予習】テキストTheme3および4を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
6) 法の下での平等 【予習】テキストTheme5を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
7) 法の下での平等 【予習】テキストTheme6を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
8) 精神的自由権 【予習】テキストTheme7を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
9) 精神的自由権 【予習】テキストTheme8および9を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
10) 社会権 【予習】テキストTheme11を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
11) 人身の自由 【予習】テキストTheme13を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
12) 裁判制度 【予習】テキストTheme19を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
13) 裁判制度 【予習】テキストTheme19（特に裁判員裁判）を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
14) 参政権と国会・内閣 【予習】テキストTheme16，17および18を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	小テスト
15) 憲法保障<違憲審査制> 【予習】テキストTheme20を事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【小テスト
授業外学習	
図書館を活用して、予習および復習をするとともに、自分のノートを作成してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行『いちばんやさしい憲法入門[第5版]』（有斐閣、2017年）。 その他参考となる文献は、適宜授業中に紹介します。	法学

課題に対するフィードバック

小テストの解答は、当日または次回に解説する。

備考

科目名	法学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	藪本 知二(大学)	関連する資格		

授業概要

社会生活や相談援助活動における法の役割・機能を念頭に、民法等の基本的な法の基礎知識について概説する。また、民法などの法や法を実現する仕組みが権利擁護にどのように関わっているかについても概説する。

到達目標

社会生活における法の作用や役割を理解する。  
 相談援助活動と法の関わりを理解する。  
 民法等の基礎的な解釈・適用能力を身につける。  
 権利擁護の仕組みについて理解する。

成績評価方法

期末定期試験(筆記試験)、小テストおよび授業態度・参加度について、下記の評価割合に従って評点を付ける。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							55
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 契約法（1） 【予習】テキスト42～49ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
2) 契約法（2） 【予習】テキスト2～9、157～158、170～172ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
3) 契約法（3） 【予習】テキスト9～14、158～160ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
4) 日常生活自立支援事業 予習】テキスト117～130ページを事前に読んでおく（30分） 習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【復	小テスト
5) 成年後見制度の基礎 【予習】テキスト91～94ページを事前に読んでおく（30分） 復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【	小テスト
6) 法定後見 【予習】テキスト94～102ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
7) 法定後見 【予習】テキスト94～102ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
8) 任意後見 【予習】テキスト102～106ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
9) 成年後見制度の実際 【予習】テキスト109～115、131～141、151～154ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
10) 婚姻と夫婦の権利義務 【予習】テキスト55～58、107～109ページを事前に読んでおく（30分） 【復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）		小テスト
11) 離婚と子どもの保護 【予習】テキスト58～61ページを事前に読んでおく（30分） 復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【	小テスト
12) 親子関係と子どもの保護 【予習】テキスト61～65ページを事前に読んでおく（30分） 復習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【	小テスト
13) 児童福祉法 予習】テキスト106～107ページを事前に読んでおく（30分） 復習】本日の授業内容をノートにまとめる（30分）	【	小テスト
14) 児童虐待 予習】テキスト146～147ページを事前に読んでおく（30分） 習】本日の授業内容をノートにまとめる（30分）	【復	小テスト
15) 相続 予習】テキスト65～74ページを事前に読んでおく（30分） 習】本日の授業内容をノートにまとめる（60分）	【復	小テスト
授業外学習		
図書館を活用して、予習および復習をするとともに、自分のノートを作成してください。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
テキスト 精神保健福祉士・社会福祉士養成基礎セミナー編集委員会（編）『法学 権利擁護と成年後見』（へるす出版、2009年） 参考文献 授業中に適宜紹介する。	憲法・人権論	

課題に対するフィードバック

小テストの解答は、当日または次回に解説する。

備考

科目名	現代社会の教育			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

**授業概要**

少子化・人口減少の時代を迎え、地域における大学の存在意義が変わってきている。政策的な後押しもあり、多くの大学が生涯学習や地域への開放に取り組むことになった。その一つとして文部科学省を中心に、平成25年度から大学を地域における知の拠点にする事業（COC事業）が展開されている。本講義では以下の3点を中心に扱う。少子化・人口減少時代における教育の課題について理解を深める。大学開放に関する基本的な知識を習得するために、生涯教育と大学開放に関する最新情報や各地域・各学校での取り組み例を学ぶ。そのうえで、本学や山口県内での取り組みの現状を分析し、本学と地域社会との新たななかかわり方を企画立案することをねらいとする。

**到達目標**

少子化・人口減少の時代における教育の課題について理解できる。  
 大学開放の基本的な事項について理解できる。  
 大学と地域社会とのかかわり方の現状と課題について理解できる。  
 大学での学びとボランティア活動との関係が理解できる。  
 生涯学習時代における大学のあり方が構想できる。

**成績評価方法**

出席状況、テキスト内容の分担紹介、小レポート、授業への参加度、調査レポート、期末レポートの成績で総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 発表分担	個人ワーク グループワーク
2) 少子化・人口減少社会における教育の課題	グループワーク プレゼンテーション
3) 少子化・人口減少社会における教育の課題	グループワーク プレゼンテーション
4) 少子化・人口減少社会における教育の課題	グループワーク プレゼンテーション
5) 地（知）の拠点となる大学開放	グループワーク プレゼンテーション
6) 学生教育と社会人教育の融合をめざす大学開放	グループワーク プレゼンテーション
7) 大学公開講座による地域貢献	グループワーク プレゼンテーション
8) 長寿社会対応の生涯学習	グループワーク プレゼンテーション
9) 地域生涯学習の推進を図る大学開放	グループワーク プレゼンテーション
10) メディアを利用した大学教育の開放	グループワーク プレゼンテーション
11) メディアを利用した大学教育の開放	グループワーク プレゼンテーション
12) 地域学を進める大学開放	グループワーク プレゼンテーション
13) 地域における大学連携のシステムづくり	グループワーク プレゼンテーション
14) これからの大学開放の進め方	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
発表担当者は、発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上杉孝實、香川正弘、河村能夫（編集）「大学はコミュニティの知の拠点となれるか：少子化・人口減少時代の生涯学習」ミネルヴァ書房、2016年（推薦図書：希望者のみ販売）</li> <li>参考文献は、授業中に適宜紹介する。</li> </ul>	ボランティアと社会 教育社会学 教育方法の研究

課題に対するフィードバック

備考

本講義は福祉心理学科の社会人学生、および市民との合同授業として夜間に開講する。

科目名	地域社会学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	瀬崎 譲廣	関連する資格		

授業概要

私たちの生活は、地域で営まれます。戦後の高度経済成長は、私たちの暮らしを物質的に豊かにすると同時に、日々の暮らしの地域社会への依存度を低下させたかのように思われました。しかし、近年、防災や子育てなどの観点から地域社会への関心が高まっています。児童虐待や孤独死といった問題も、一見地域社会とは関係ないように思われますが、その背景として「都市化」などの地域社会の変容を見逃すことはできません。

また、戦後の社会変化の中で、村落社会も大きく変化しました。村落社会では高齢化が著しく進行し、村社会の機能を維持することが難しくなる「限界集落」などの問題も起きています。農業就業者の平均年齢が65歳以上になり、農業の持続可能性も、食料自給率の問題とともに、課題となっています。

この授業では、地域社会（農村・都市）を分析するための社会学の視点を学ぶとともに、今日の地域社会が抱える諸問題について紹介します。

到達目標

地域社会の特徴を社会的に理解するための視点を獲得する  
戦後社会の変容と、今日の地域社会が抱える問題への理解を深める

成績評価方法

講義の出席状況、講義中に課す小レポート等および定期試験によって評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							80
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーリング 社会学の地域概念	
2) 社会学の地域概念 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
3) イエとムラ 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
4) 近世農村と現代の連続性 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	グループワーク
5) ムラによる資源管理 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
6) ムラによる資源管理 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
7) 農村の変化と過疎 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	グループワーク
8) 災害と地域社会 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
9) 災害と地域社会 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
10) 商店街と地域社会 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
11) 町内会と地域社会の変化 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	グループワーク
12) 近代家族と地域社会 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
13) 近代家族と地域社会 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
14) 地域社会の課題とまちづくり 予習：特に課さない / 復習：小レポート（60分程度） 小レポートは次回コメントを付けて返却。	
15) 授業全体のまとめ	
授業外学習	
特に課しませんが、授業に関連することで興味を持ったことや分からないことなど、自分で積極的に調べることを期待します。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：用いない 参考書：授業の中で適宜紹介する	

課題に対するフィードバック

小レポートには次回コメントを付けて返却。または、提出された小レポートをふまえた授業を行う。

備考

授業のなかで、資料等の読解に関連して質問を適宜行います。積極的な参加、発言を期待します。

科目名	ボランティアと社会						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	白石 義孝、伊藤 一統		関連する資格				
<b>授業概要</b> ボランティアの意義と実情について学び、現代社会におけるボランタリーセクターの重要性について理解することを目的とする。 ボランティアの思想や歴史的経緯、様々な活動の実態など、基礎的な知識について概説するとともに、現代社会の状況について解説し、ボランティア活動への注目の高まり、またその行為に参加しようとするものの存在の背景を考察する。活動の実際を知ってもらうために、実際の活動を行っている方から直接話を聞く機会も設けたい。							
<b>到達目標</b> ・ ボランティアについての正確な理解 ・ ボランタリーセクターの重要性の認識と各自のボランティア意識の高揚 ・ ボランティア活動への参加				<b>成績評価方法</b> 定期試験・小テスト（レポートの場合あり） リサーチ課題 ボランティア活動体験レポート			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							30

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) パート1（知識編）ボランティア活動やNPOへの理解を深める 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
2) パート1（知識編）ボランティア活動やNPOへの理解を深める 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
3) パート1（知識編）ボランティア活動やNPOへの理解を深める 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
4) パート1（知識編）ボランティア活動やNPOへの理解を深める 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
5) パート1（知識編）ボランティア活動やNPOへの理解を深める 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク プレゼンテーション 個人小レポート
6) パート2（実際編）国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
7) パート2（実際編）国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
8) パート2（実際編）国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
9) パート2（実際編）国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
10) パート2（実際編）国内外、および宇部市周辺で実際に行われているボランティア活動やNPOについて知る 予習：テキストに目を通す 復習：授業で提示した課題に取り組む	グループワーク及びプレゼンテーション、中間支援センターへの訪問取材レポート
11) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する 予習：ボランティア活動先の情報収集 復習：レポート作成	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
12) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する 予習：ボランティア活動先の情報収集 復習：レポート作成	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
13) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する 予習：ボランティア活動先の情報収集 復習：レポート作成	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
14) パート3（参加編） 自らもボランティア活動に参加し、体験レポートを作成し、報告する 予習：ボランティア活動先の情報収集 復習：レポート作成	ボランティア実習（学校支援・福祉施設・地域環境保全・市民ワークショップへの参加など）
15) 総括 予習：授業中に紹介した課題について事前調査する 復習：期末レポート作成	個人ワークによる全体の振り返り
授業外学習	
毎回の授業で紹介したキーワードを自筆でノートにまとめておく。 ボランティア実習の写真撮影時には個人情報保護に配慮する。（担当者の許可を得るなど）	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 「テキスト市民活動論【第2版】」大阪ボランティア協会 ・ ボランティアに関する書籍・学術雑誌全般 ・ NPOに関する書籍・学術雑誌全般 その他、特に推奨する参考文献については講義中で適宜紹介する。	教職に関する科目、社会学に関する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	生物学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	山本 芳実	関連する資格		

授業概要

生物学は急速な進展を続けており、その成果として遺伝子組換え作物や新薬の創出、遺伝子診断、着床前診断にみられるように、従来に増して格段に我々の生活に大きな影響を与えるようになってきている。本講義では、高校までの生物をベースに、生体の持つ機能や遺伝の仕組み、生命を維持する機構、生物の多様性、進化等について学ぶ。

到達目標

- 1、生物学における基礎的な知識の理解ができる。
- 2、様々な生命科学に関係する事象を生物学の視点から考える事ができる。

成績評価方法

期末定期試験、授業内レポート、授業外レポート、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生物学と生命科学 「予習」現代生物学の課題を考える（30分） 「復習」小レポート作成（60分）	授業外レポート課題
2) 遺伝子とは 「予習」遺伝子に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
3) タンパク質と遺伝 「予習」タンパク質と遺伝に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
4) 遺伝子のはたらき 「予習」遺伝子のはたらきに関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
5) ゲノム科学とは 「予習」ゲノム科学に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	グループワーク
6) 遺伝子のバイオテクノロジー 「予習」遺伝子のバイオテクノロジーに関して予習する（30分） 「復習」小レポート作成（60分）	授業外レポート課題
7) 細胞 「予習」細胞に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
8) 代謝とエネルギー代謝 「予習」代謝とエネルギー代謝に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
9) 細胞分裂と生命の連続性 「予習」細胞分裂と生命の連続性に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
10) 遺伝と遺伝子 「予習」遺伝と遺伝子に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
11) 受精と発生 「予習」受精と発生に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
12) 発生のしくみ 「予習」発生のしくみに関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください60分）	
13) 進化と系統分類学 「予習」進化と系統分類学に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください60分）	
14) 分子進化とヒトの進化 「予習」分子進化とヒトの進化に関して予習する（30分） 「復習」講義資料を復習してください（60分）	
15) まとめ及び予備 「予習」疑問点があればまとめておく（30分）	
授業外学習	
授業終了後、講義ファイルのコピーを渡しますので講義資料を復習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「生きもののからくりー分子から生命までー」改訂版、中村和行・山本芳実・祐村恵彦共編、培風館	

課題に対するフィードバック

小レポートは翌週にコメントします。

備考

科目名	化学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	山城 安啓		関連する資格				
<b>授業概要</b> 生化学を学ぶ上での基礎となる有機化学、無機化学について学びを深めるとともに、さらにその知識を基盤とし未来の医療・福祉を担う人間として自然科学の立場から自ら考える力をつけさせる。							
<b>到達目標</b> 化学の基礎的知識を説明できる 無機化合物の特性を説明できる 有機化合物の特性を説明できる ヒトの構成成分と反応系、疾病状態を化学的に理解し、臨床に応用する能力を身につける			<b>成績評価方法</b> 十分な出席回数を基に、期末試験で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							90
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス、物質の特性 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
2) 物質の三態 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
3) 液体・溶液の性質 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
4) 原子の構造 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
5) 化学反応 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
6) 酸と塩基 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
7) 化学結合 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
8) 無機物質 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
9) 有機化合物、脂肪族炭化水素 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
10) 酸素・窒素などを含む有機化合物 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
11) 芳香族化合物 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
12) 脂肪酸 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
13) アミノ酸とタンパク質 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
14) 糖質、核酸 【予習】高校生の教科書等で関連項目を予習しておいてください(30分)。 【復習】配布資料や参考書を用いて復習しておいてください(60分)。	授業内課題
15) 総括 【復習】過去の小テストを復習しておいてください(90分)。	
授業外学習	
授業計画に沿って、講義を進めて行きます。 授業開始時、毎回小テスト(前回講義内容)があります。講義資料、参考書等を利用し復習して下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 基礎 化学 医学書院	生化学

課題に対するフィードバック

各人が授業内課題で作成した問題は、次の週の小テストに活用し、試験後に解説を行う。

備考

科目名	物理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	松本 治彦		関連する資格				
<b>授業概要</b> この科目はディプロマポリシーのうち、「人への関心と学問の理解」を達成するために「諸科学への興味関心と理解」を深める授業です。 物理学ではオートクレーブのメカニズム、点滴・輸血時の液体の比重など看護の現場で必要となる様々な事例を取り上げて物理学の理解を深め、科学的なものの考え方を身につける。 また、看護師の国家試験に出題されている物理系の問題について紹介する。授業では、「物体の運動」、「運動量と仕事」、「熱と気体の運動」など物理学の基本を復習しながら「患者の移動」、「比熱の計算」、「血圧」などについて学ぶ。グループ討議を設定している。自分の意見を主張して積極的に参加する。							
<b>到達目標</b> 看護の現場で物理的なメカニズムを的確につかんで行動する。看護師国家試験の物理系の問題を解く。			<b>成績評価方法</b> 質問カードの内容、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 物理学の概要 予習；物理学資料の全般を概観する（30分）。復習；今後受講する内容の確認をする（30分）。	
2) 2011.3.11福島原発事故特別バージョン・放射線 予習；放射線について基本的な事項を調べておく（30分）。復習；福島事故の要点を整理しておく（30分）。	
3) 物体の運動、患者の移動、トルク、作用反作用・摩擦・運動量・仕事・衝撃力・骨折・牽引 予習；トルクのことについて事前に調べておく（30分）。復習；運動の三法則について整理しておく（30分）。	
4) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議の結果、生じた疑問点の解決に使ってください（1時間）。	グループ討議、要点整理
5) 熱と気体の運動、比熱計算、氷枕、熱移動 予習；熱の移動について事前に学習しておいてください（30分）。復習；熱量の計算式を理解しておくこと（30分）。	
6) 圧力、表面張力、密度、比重 予習；圧力の全般を学習しておくこと（30分）。復習；様々な圧力の問題について理解すること（30分）。	
7) 血圧、吸引装置、酸素ポンペ、連結ピン 予習；血圧と酸素ポンペについて事前に学習しておくこと（30分）。復習；酸素ポンペに関する計算を理解しておくこと（30分）。	
8) 要点整理（グループ討議とレポート1提出準備） 予習、復習はグループ討議で生じた疑問点の解決とレポート作成に使ってください。（1時間）	グループ討議、レポの要点整理
9) 比重計、オートクレーブ、水銀体温計、濃度の表し方と物質の溶け方 予習；濃度計算について事前学習しておくこと（30分）。復習；オートクレーブの役割と濃度計算をマスターしておくこと（30分）。	レポート提出
10) 熱力学、音波、浸透圧、人工透析、心拍数、サイレン 予習；救急車のサイレンと位置関係を事前に調べておくこと（30分）。復習；浸透圧について理解を深めること（30分）。	
11) ファイバースコープ、サーモグラフィ、電気 予習；ファイバースコープについて事前に調べておくこと（30分）。復習；電気メスのメカニズムについて理解しておくこと（30分）。	
12) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議で生じた疑問点の解決のために有効に使う（1時間）。	グループ討議
13) 看護師国家試験の物理系問題の出題例 予習；過去の国家試験の問題を概観しておくこと（30分）。復習；計算問題のパターンをつかむこと（30分）。	
14) 要点整理（グループ討議） 予習、復習はグループ討議で生じた疑問点の解決に有効に使う（1時間）。	グループ討議、要点整理
15) まとめ	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。看護実習の時に、物理学で学んだことを活かしてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	物理学の基礎

課題に対するフィードバック

備考

科目名	地球の現在・過去・未来			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

この科目はディプロマポリシーのうち、「人への関心と学問の理解」を達成するために「諸科学への興味関心と理解」を深める授業です。この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします。

この授業の最も重要なことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えることです。グループ討議の時間を設定しています。この討議では自分の意見を主張して積極的に参加してください。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

到達目標

自然科学系に関する新聞記事の内容を読んで自分の意見と対比して評価する。  
グループ協議を通じてコミュニケーション能力をはっきりする。

成績評価方法

質問・感想カード、レポート、グループ討議の態度と定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 「地球の歴史、何がわかっているの？未来は」 予習；資料の全般を概観する（30分）。復習；資料の全般をもう一度、概観する（30分）。	
2) 「宇宙の始まり」「地球誕生・生物誕生」 予習；宇宙の部分、地球誕生の部分の概観する（30分）。復習；宇宙、地球の部分をもう一度、確認しておく（30分）。	
3) 「人間社会の形成」 予習；生物および人間社会の部分について概観する（30分）。復習；人間社会の形成についてもう一度、確認すること（30分）。	
4) 「熱収支と四季」 予習；熱収支、四季の部分の概観する（30分）。復習；もう一度、熱、四季の内容を確認すること（30分）。	
5) 「水と大気の大循環」 予習；水、大気の部分の概観する（30分）。復習；大循環についてもう一度、確認しておく（30分）。	
6) 「森林消失と生物種絶滅」 予習；森林の部分の概観する（30分）。復習；心理消滅と生物種絶滅の関係をもう一度、確認すること（30分）。	
7) 「オゾン層破壊・PM2.5」 予習；オゾン層とPM2.5について概観する（30分）。復習；オゾンホールとの違い、PM2.5の現状について確認すること（30分）。	
8) 温暖化予測とIPCC」 予習；二酸化炭素と気温上昇の関係について調べておくこと（30分）。復習；温暖化予測の精度、IPCCの組織について確認しておくこと（30分）。	
9) 「周期的変動」 予習、大気と海洋での周期変動について調べておくこと（30分）。復習；周期的変動が及ぼす影響について確認すること（30分）。	
10) 「化石燃料から再生可能エネルギーへ」 予習；化石燃料の現状を調べておくこと（30分）。復習；再生可能エネルギーの状況を確認しておくこと（30分）。	
11) 「炭素社会から水素社会に」 予習；水素社会について調べておくこと（30分）。復習；水素社会への移行期間について、問題点を調べる（30分）。	
12) 要点整理（グループ討議とレポート提出準備） 予習；11回までの資料をもう一度、見直すこと（30分）。復習；グループ討議で生じた疑問点を解決して、レポートを作成する（1時間）。	グループ討議と要点の確認、レポート作成
13) 「未来予測」 予習；未来の様々な予測について調べておくこと（30分）。復習；未来予測についてもう一度、整理しておくこと（30分）。	レポート提出
14) 「天気予報と災害への備え」 予習；異常気象の定義について調べておくこと（30分）。復習；災害への備えと避難方法について再確認しておくこと（30分）。	
15) 「まとめ」	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。新聞を読む習慣をつけてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使用しない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	自然災害、ビジネス情報

課題に対するフィードバック

備考

科目名	データの科学的な見方						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	前期			
担当者名	松本 治彦		関連する資格				
<b>授業概要</b> <p>この科目はディプロマポリシーのうち、「柔軟な思考と表現力」を身に付けるために、また「看護師・保健師としての基礎的思考方法」を学ぶための授業です。</p> <p>授業ではまず、統計学の歴史について深く学び、統計学や確率の歩んだ道を振り返ってみる。その上で、統計学の様々な用語を理解して統計学を将来の仕事の道具として使いこなせるようにする。統計学は現状把握と予測のためと見られているが、じつは限られたデータを使って全体の因果関係を探る学問です。統計学を通じて得た情報から「ピンとくる」カンを働かせるのに大いに役立たせてください。</p> <p>到達目標は、統計値の科学的意味を的確につかむ、グループ討議を通じてコミュニケーション能力を高めることです。ITが普及した現在、膨大な情報の中から自分の必要な情報を選別し、それを整理する能力が必要である。また統計処理した数値の意味を理解する能力も必要になっている。</p> <p>看護研究や保健研究では、データ処理に統計の知識が必要になってくる。この授業の到達目標は、導き出した統計値の科学的な意味を理解することである。そのために、まず基本的な統計値の意味をしっかりと理解した上で、統計図、統計表の見方を学習する。そうして区間推定や検定を通じてデータの科学的な見方を身につけていく。グループ討議を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。</p>							
<b>到達目標</b> 統計学の基本的な言葉の意味、統計値の科学的意味を的確につかむ。			<b>成績評価方法</b> 質問カードの内容、小テスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 統計学の歴史 その1 予習；資料の全般を概観する（30分）。復習；歴史の部分についてもう一度、確認すること（30分）。	各自で自分の現在の力を判断する。
2) 統計学の歴史 その2 予習；歴史の部分について深く思考する（30分）。復習；歴史の部分を整頓しておくこと（30分）。	
3) 統計学の考え方、データの科学的な見方（具体的事例） 予習；統計学の考え方、データの科学的見方の部分を概観する（30分）。復習；考え方について再確認しておくこと（30分）。	
4) 統計データのまとめ方（度数分布・分割表・図示法） 予習；図表の部分について概観する（30分）。復習；度数分布表のチェックをしておくこと（30分）。	
5) 集団を表す代表値（平均、分散、標準偏差など） 予習；代表値の部分を概観する（30分）。復習；平均値、分散、標準偏差について整理しておくこと（30分）。	
6) 正規分布、区間推定1（母集団、標本とは） 予習；正規分布の部分を概観する（30分）。復習；正規分布、区間推定について確認しておくこと（30分）。	
7) 区間推定2（t分布表） 予習；区間推定とt分布について調べておくこと（30分）。復習；t分布表の見方をマスターしておくこと（30分）。	
8) 統計的検定1（帰無仮説、有意水準など） 予習；統計的検定の部分を概観する（30分）。復習；帰無仮説、有意水準などの用語の意味を確認しておくこと（30分）。	
9) 統計的検定2（両側検定、片側検定、t検） 予習；検定について深く思考しておくこと（30分）。復習；検定の目的について再度、整理しておくこと（30分）。	
10) 母平均の検定 予習；母平均と標本平均の違いを確認しておくこと（30分）。復習；母平均の検定の手順を、もう一度、確認すること（30分）。	
11) 要点整理（グループ討議とレポート1提出準備） ここまでの部分をグループで話し合いながら、整理する。そして、疑問点を解決して、レポートを作成する（1時間）。	グループ討議と要点の確認
12) 2つの集団における平均の差の検定と相関・回帰直線 予習；2つの集団の検定について概観する（30分）。復習；相関と回帰直線について、整理しておくこと（30分）	レポート提出
13) もっと難しい統計学、疫学と統計学 予習；疫学と統計との関係について調べておくこと（30分）。復習；難しい統計学のことについて整理しておくこと（30分）。	
14) 看護師および保健師国家試験で出題されている計算問題の解説 予習；看護師・保健師の国家試験のうち、計算問題の傾向を調べておくこと（30分）。復習；計算問題をもう一度、確認すること（30分）。	
15) 「まとめ」	
授業外学習	
授業計画に沿って、資料の該当単元を熟読してきてください。 講義資料を復習して下さい。保健師国家試験の過去問のうち、統計学の基礎問題が確実に解けるように自宅でも計算問題、基礎的な言葉の意味を再確認してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストは使わない。資料はウェブ上よりダウンロードしてください。	数学の基礎 保健統計学

課題に対するフィードバック

備考

科目名	いのちの科学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	前期
担当者名	祐村 稔子	関連する資格		

授業概要

今日、生命科学の進歩は著しく、医療、農業、工業など多方面でわれわれに多くの恩恵を与える一方で、様々な課題も提起している。本講義では、これらの問題点を、それぞれが自らの知識と感性で考え解決する力を養うことを目的に、前半で生命のなりたちを分子のレベルで解説し、後半では、人体の成り立ちと統合の仕組み、脳のはたらき、免疫、病気、老化、バイオテクノロジー、先端医療など、専門分野と関連の深いテーマについて解説する。

到達目標

1. いのち（生命）のなりたちを分子のレベルで理解する。
2. 人体のなりたちと統合のしくみを理解する。
3. いのちをめぐる現代の課題について正しく理解し各自の考えを述べることができる。

成績評価方法

出席状況、レポート、最終試験により総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							4
宿題、授業外レポート							26
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生命とその起源：あなたもムシも大腸菌も生きている 【復習】小レポート作成（15分）	小レポート
2) 生命の最小単位「細胞」：細胞の構造と機能 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
3) 生命を演ずる分子たち1：生体内で働く分子たち 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
4) 生命を演ずる分子たち2：まずは脂質ありき 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
5) 生命を演ずる分子たち3：タンパク質は働き者 小レポート作成（15分）	宿題小レポート
6) 生命を演ずる分子たち4：生命の設計図：遺伝子とその働き 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
7) 病気との闘い1：DNAの傷害と修復 がんの生物学 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
8) 遺伝子組換え技術とその応用 レポート作成（15分）	宿題小レポート
9) 病気との闘い2：ヒトの遺伝と遺伝病 先端医療と生命倫理、 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
10) 生命活動の基礎：エネルギーの産生と物質代謝 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
11) 生命は動く、細胞は動く：細胞骨格と細胞運動 【復習】小レポート作成（15分）	宿題小レポート
12) 免疫のしくみ、ホルモンの働き レポート作成（15分）	宿題小レポート
13) 神経と脳の働き レポート作成（15分）	宿題小レポート
14) 生殖と発生 老化と寿命 レポート作成（15分）	宿題小レポート
15) 生命と地球環境 【復習】小レポート作成（15分）	小レポート
授業外学習	
毎回、授業に関連した参考資料を配布します。これを読んだの考察や感想、あるいは簡単な課題に関しての小レポートを宿題とします。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：伊藤明夫著「いのちの科学」（培風館）	人体の構造と機能 生物学の基礎

課題に対するフィードバック

小レポートへのコメント集を配布

備考

生命科学の入門として、幅広い知識と興味を持っていただけることを希望します。

科目名	健康と音楽			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	後期
担当者名	村上 玲子	関連する資格		

授業概要

人間は、声を出して歌う、リズムカルに動く、身体の様々な部所を使って音を出すことや表現することが可能で、非常に音楽的な存在である。また、音楽は人の心や身体と密接に結びつき、音楽を聴く、演奏する、楽しむといった活動は、病める心を癒し、身体や精神機能の健康を保ち回復するといった要素がある。人がなぜ歌ったり奏でたりするのか、音や音楽が人間にもたらすものは何かについて理解する。また、日常生活の中で音楽を上手く使うことによって、健康を取り戻したり、維持する方法について実際に音楽活動を実践しながら学ぶ。

到達目標

人間と音楽のかかわりについて説明できる。  
音や音楽の特性や役割についての述べることができる。  
生活の中で健康増進や維持を目的とした音楽の活用法を工夫し実践できる。

成績評価方法

授業時の小レポートと課題レポート  
授業への意欲・態度

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート							40	
宿題、授業外レポート							40	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習							10	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 人間の健康と音楽の関わり 【予習】生活の中で、音楽とどのように関わっているかについて調べておく（30分） 【復習】人間の生活に音楽が深くかかわっている事例をまとめる（20分）	授業内レポート
2) 心の健康と音楽の役割及び特性、音楽がもたらす不思議な効果とは、音楽が心身を癒すメカニズム 【予習】身の回りで使われている音楽の事例を調べておく（30分） 【復習】音楽の特性をまとめておく（20分）	授業内レポート
3) ストレスと音楽 クラシック音楽とヒーリングミュージック 【予習】ストレスについて調べる（30分） 【復習】音楽を使ったストレス解消法の事例をまとめておく（20分）	授業内レポート
4) 音楽療法とは 音楽療法の歴史・目的・適応範囲・実践 【予習】音楽療法について調べる（30分） 【復習】配布プリントを復習する（20分）	授業内レポート
5) 宮沢賢治作「セロ弾きのゴーシュ」と音楽療法 音楽療法の視点から作品分析 【予習】音楽療法について配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	授業外レポート
6) 音楽療法とオーラルフレイル（口腔機能の低下）について 【予習】オーラルフレイルについて調べる（30分） 【復習】例曲を使って歌唱活動を実践してみる（30分）	授業内レポート
7) ジブリがいっぱい 宮崎アニメと共に歩んだ久石譲の音楽の世界 【予習】宮崎駿、久石譲について調べる（30分） 【復習】鑑賞曲の感想レポート作成（20分）	授業内レポート
8) クラシック音楽がつくる快適な人生 生活に密着した音楽、動物たちが奏でるクラシック音楽 【予習】スーラシアン音楽について調べる（30分） 【復習】鑑賞曲の感想レポート作成（20分）	授業内レポート
9) 世界を魅了する魂のピアニスト フジコ・ヘミングの時間 【予習】ピアニスト「フジコ・ヘミング」について調べる（30分） 【復習】感想レポート作成（60分）	授業外レポート
10) ミュージカル鑑賞 ミュージカル鑑賞から音楽の効力を探る 【予習】音楽療法、音楽の特性について配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】感想レポートの作成（20分）	授業内レポート
11) ミュージカル鑑賞 ミュージカル鑑賞から音楽の効力を探る 【予習】音楽療法、音楽の特性について配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	授業外レポート
12) 音楽と人間の生活 クリスマスと音楽「クリスマス音楽に触れて」 【予習】人間の生活と音楽の関わりについて配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】小レポート（20分）	授業内レポート
13) 盲目のピアニスト辻井伸行と音楽 辻井伸行の世界と音楽表現 【予習】ピアニスト辻井伸行について調べる（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	授業外レポート
14) オペラ鑑賞 人間の表現と音楽 音楽の力について 【予習】音楽療法、音楽の特性について配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】感想レポート作成（20分）	授業内レポート
15) オペラ鑑賞 人間の表現と音楽 音楽の力について 【予習】音楽療法、音楽の特性について配布プリントを読んでおく（30分） 【復習】小レポート作成（60分）	授業外レポート
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは利用しない。講義資料を配布する。</p> <p>参考書 * 渡辺 茂夫著、音楽健康法、1995年、誠文堂新光社 * 芋坂良二編著、新訂環境音楽、1992年、大日本図書 * 村井靖児著、こころに効く音楽、1997年、保健同人社 * 谷口高士著、音は心の中で音楽になる、2000年、北大路書房</p>	

課題に対するフィードバック

授業内及び授業外で出した小レポート課題については、翌週にコメントを付けて返却する。

備考

科目名	健康スポーツ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実技	選択	2	1年	前期
担当者名	友定 保博	関連する資格		

**授業概要**

これからの社会生活の様々な場面で適用できるコーディネーショントレーニングを中心に、老若男女ができる健康づくり運動の方法や知識・技能を養うこと。  
 なお、練習・習得にあたっては、グループでの関係性を深め、メンバー間での助け合いや相互指導など、全員が協力して課題を達成すること。

**到達目標**

到達目標  
 生涯にわたる健康づくりのための運動の意義について理解し、グループで助け合って、自ら進んで周りの人と楽しく実施できるようになること。

**成績評価方法**

成績評価は、個人だけでなく所属グループの活動状況（授業参加の意欲等）も観察評価を行います。最終試験は授業で取り上げた課題（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジーなど）について各個人の振り返り記録と、グループメンバー間の相互評価をもとに実施します。

**成績評価方法**

定期試験 試験・理解（30）  
 宿題、授業外レポート 関心・意欲（10）  
 授業態度・授業参加度 関心・意欲（10）態度（10）  
 グループワーク 関心・意欲（15）技能・表現（15）態度（10）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	30						30
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート			10				10
授業態度・授業参加度			10		10		20
プレゼンテーション							
グループワーク			15	15	10		40
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	講義 オリエンテーション（シラバス説明・グルーピング）	アイスブレイク
2)	実技 子どもの運動遊び再体験（1）鬼遊び・陣取り遊び グループでの準備運動づくり	
3)	実技 子どもの運動遊び再体験（2）陣取り遊び ダブルダッチへの挑戦	睡眠・食習慣と運動に関する 調査用紙（1週間）の配布
4)	実技 コーディネーショントレーニング（3）マリオネット 復習 マリオネットの練習	
5)	講義 生活リズムを整える意味（調査結果からみた問題点） 復習 マリオネットの練習、タグ・ラグビーのルール理解 課題 「自分の生活リズムの問題点と改善策」の作成・提出	調査結果の解説 タグ・ラグビーの紹介ビデオ
6)	実技 しっぽ取り遊びから競技スポーツ（タグ・ラグビー） 復習 マリオネット、タグ・ラグビーのルール	
7)	実技 タグ・ラグビーの基礎技術 身体操作（鬼ごっこ）+陣取り（タッチダウン）	
8)	実技 タグ・ラグビーのゲームと作戦 課題 チームの作戦づくり（一人一案を持ち寄る）	
9)	実技 老人向けのシナプソロジーを知る 自分が指導者になってできるように記録（メモ）をとりながら視聴する。	シナプソロジー紹介ビデオ
10)	講義 準備運動 シナプソロジー（メンバーは交代で指導者になる） タグ・ラグビーのリーグ戦 課題 チームの作戦づくり・練習計画案の作成	
11)	実技 準備運動（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー） タグ・ラグビーのリーグ戦 課題 チームの作戦づくり・練習計画案の作成	
12)	実技 準備運動（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー） タグ・ラグビーのリーグ戦 課題 チームの作戦づくり・練習計画案の作成	
13)	実技 準備運動（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー）、チームの達成 度調べ（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー）、タグ・ラグビー のリーグ戦 課題 チームの作戦づくり・練習計画案の作成	
14)	講義 準備運動（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー） タグ・ラグビーのリーグ戦	
15)	実技 準備運動（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソロジー）、 チーム・個人の達成度調べ（マリオネット・ダブルダッチ・シナプソ ロジー）、タグ・ラグビーのゲーム	
授業外学習		
生活調査（1週間）の実施 ゲーム作戦図の作成		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
実技・講義ともにプリント資料の配布ならびにビデオ教材の視 聴を用いて実施する。		

課題に対するフィードバック

課題「自分の生活リズムの問題点と改善策」については、コメントをつけて返却する。

備考

講義・実技の日程は、天候上の理由で変更する場合がある。  
実施場所変更の場合は、掲示板上にて通知する。

科目名	子どもの発達と学習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	三島 瑞穂		関連する資格				
<b>授業概要</b> 保健師や養護教諭，教師が児童期・思春期の子どもと関わる際に必要な知識の習得を目的とする。幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程と学習の過程を、学習心理学や教育心理学の知見を取り入れながら学ぶ。現場で学習の援助や発達の理解をその発達の背景や環境を踏まえて対処する力を身につける。発達障害、学習障害へ支援の工夫を考えることができるよう、その特徴と対処について学ぶ。							
<b>到達目標</b> 1. 幼児児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 2. 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 3. 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 4. 主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて理解している。 5. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 6. 加えて発達障害、学習障害の幼児、及び生徒の発達の特徴を理解し、学校における支援の在り方を考えることができる。			<b>成績評価方法</b> 毎回の授業の最後に提出するレポート（100％）。 1回目は授業に対する意欲、2回目～15回目は授業内容の理解と自分なりの考察が求められる。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							5
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 発達メカニズムの理解 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
2) 知性と認知の発達、知能の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
3) 社会性の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	
4) 児童期の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	映像を用いた学習
5) 思春期・青年期の発達 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	
6) 認知と学習 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
7) 学習の理論 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
8) 教育における学習理論の応用 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
9) 動機づけ 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
10) 教育評価 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
11) 学校現場で学習障害を背景とした学習の困難さの理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
12) 学校現場で発達障害（自閉症スペクトラム）を背景とした学習の困難さの理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
13) 学校現場で発達障害（ADHD）を背景とした学習に対する理解と教育支援 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
14) 学校の集団生活が子どもの心的発達に与える影響 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	小レポートの作成
15) 教員との関わりが子どもの心的発達に与える影響 復習：概念に関して習熟するよう、関連する文献に当たる（30分）	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書・参考資料の内容を元に、独自のテキストを作成する。 発達と学習 (Next教科書シリーズ) 内藤 佳津雄 (編集),? 北村 世都 (編集),? 市川 優一郎 (編集) 弘文堂。発達と学習 (教職教養講座) 子安 増生 (著),? 明和 政子 (著),? 稲垣 恭子 (監修),? 高見 茂 田中 耕治 & 1 その他 協同出版。	心理学関連の科目

課題に対するフィードバック

小レポートは翌週、授業の中でコメントをする。授業外レポートについては、最後の授業で資料配布とコメントを行う。

備考

科目名	エッセンシャルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	前期
担当者名	池田 守	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

総合的な英語運用能力の育成に焦点を当てた授業を展開する。その方法として、色々なタスクを通し、1)英文読解、2)英文法、3)リスニング、4)スピーキング、5)ライティングの指導を行う。  
この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEIC (Listening & Reading)テストで450点、上級クラスは550点を目標に授業を展開する。

到達目標

- ・ TOEIC (Listening & Reading)テスト(公開又はIP)で450点以上のスコアをとる力を身に付けることができる。
- ・ 読解力を向上させることができる。
- ・ コミュニケーション能力を向上させることができる。

成績評価方法

定期試験(中間・期末) -----60%  
小テスト・授業内レポート-----20%  
宿題-----20%  
で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) Unit 1 Welcome to Japan 予習] 教科書 pp.16～17の問題に解答しておく(60分)	[ 英語で自己紹介
2) Unit 2 That Sounds Like Fun [予習] 教科書 pp.22～23の問題に解答しておく(60分) [復習] be動詞および一般動詞の語順について復習しておく(30分)	30-word composition
3) Unit 3 We Leave on Friday Morning [予習] 教科書 pp.28～29の問題に解答しておく(60分) [復習] 代名詞の働きおよび代名詞の格変化について復習しておく(30分)	宿題(1)
4) Unit 4 You Know a Lot About Trains 予習] 教科書 pp.34～35の問題に解答しておく(60分) 復習] 時を表す前置詞について復習しておく(30分)	[ pair work
5) Unit 5 I Don't Want to Leave 予習] 教科書 pp.40～41の問題に解答しておく(60分) 復習] 文型について復習しておく(30分)	[ 小テスト(1)
6) Unit 6 You're Working Late [予習] 教科書 pp.46～47の問題に解答しておく(60分) 復習] 一般動詞の変化および疑問文、否定文について復習しておく(30分)	[ ディクテーション
7) Unit 7 I'm Sure He'll Understand [予習] 教科書 pp.52～53の問題に解答しておく(60分) 復習] 進行形について復習しておく(30分)	[ 50-word composition
8) Mid-Term Exam (中間テスト) [復習] これまでに学んだことをすべて復習しておく。	これまでに学んだことを自主的に復習する。
9) Unit 8 I'll Remember That 予習] 教科書 pp.58～59の問題に解答しておく(60分) 復習] 未来形について復習しておく(30分)	[ グループワーク
10) Unit 9 Hiro Forgot [予習] 教科書 pp.64～65の問題に解答しておく(60分) 復習] 助動詞について復習しておく(30分)	[ 授業内レポート
11) Unit 10 How Have You Been? 予習] 教科書 pp.70～71の問題に解答しておく(60分) 復習] 不定詞および動名詞について復習しておく(30分)	[ 宿題(2)
12) Unit 11 While They're Here 予習] 教科書 pp.76～77の問題に解答しておく(60分) 復習] 完了形について復習しておく(30分)	[ 50-word composition
13) Unit 12 How Was Tennis? [予習] 教科書 pp.82～83の問題に解答しておく(60分) [復習] 接続詞について復習しておく(30分)	小テスト(2)
14) Unit 13 What Do You Mean? 予習] 教科書 pp.88～89の問題に解答しておく(60分) 復習] 形容詞の比較級および最上級の使用について復習しておく(30分)	[ pair work
15) Unit 14 Well, What Are You Waiting For? 予習] 教科書 pp.94～95の問題に解答しておく(60分) 復習] 受動態について復習しておく(30分)	[ ディクテーション
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す予習および復習をしておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト: English First Basic. Robert Hickling, Misato Usukura, 2018年, 金星堂 参考書: 『総合英語 Forest第7版』. 石黒昭博(監), 桐原書店	アドバンストイングリッシュ ライセンスイングリッシュ

課題に対するフィードバック

宿題および小テストは翌週コメントをつけ返す。

備考

TOEIC (Listening & Reading)テスト(公開又はIP)を受験し、規定のスコアに達すれば単位を認定する。

科目名	エッセンシャルイングリッシュ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	1年	前期			
担当者名	内海 俊祐 (大学)		関連する資格				
<b>授業概要</b> 日常生活や異文化理解、職場や地域社会を話題としたリーディング及びライティングをパラグラフ単位で理解する能力を身に付けさせる。さらに、視聴覚資料の活用及び語彙、語法理解を深めることにより、スピーキング及びリスニング能力の向上を図り、現在の世界に不可欠とされる英語によるコミュニケーション能力を育成する。また、この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEICの450点を、上級クラスは550点を目標に授業を展開する。							
<b>到達目標</b> 異文化を理解し、英語でコミュニケーションを図ることが出来る。 TOEICテスト(公開テストまたはIP)で550点以上のスコアをとる力を身に付ける。			<b>成績評価方法</b> 定期試験(中間・期末)、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) TOEICの特徴についての説明、異文化理解と英語を学ぶことの意味 マークシートでTOEICパート1の小テストを行う。 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share 前期間中に英語で口頭発表をしてもらう。
2) リスニング問題 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 写真を用いた問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 応答文選択問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 会話文問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 説明文問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 発表とディスカッション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) リーディング問題 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) 穴埋め問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) 間違い指摘問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) 一般読解問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) 総合演習 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) 英語運用能力向上のための方法論 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) まとめディスカッション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 総括 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
Score Booster for the TOEIC L&R Test Biginner 早川幸治・岸洋一著 金星堂	アドバンストイングリッシュ

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	アドバンストイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	後期
担当者名	池田 守	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

現代社会に関する情報を取り扱った英文を取り上げ、総合的な英語力を身に付けさせる授業を展開する。  
 その方法として：パラグラフ・リーディングの練習を行う。内容を把握する練習を行う。リスニングの練習を行う。  
 英作文の練習を行う。  
 この講義は学生の英語レベルにより初級、上級クラス編成を行い、初級クラスはTOEIC (Listening & Reading)テストで500点、上級クラスは600点を目標に授業を展開する。

到達目標

- ・ TOEIC(Listening & Reading)テストで500点以上のスコアをとる英語力を身に付けることができる。
- ・ 英語の読解力を向上させることができる。
- ・ 書く力を向上させることができる。
- ・ 聞く力を向上させることができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----60%  
 小テスト・授業内レポート----20%  
 宿題-----20%  
 で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) Unit 1 Our Aging Society [予習] 教科書 pp.7~8の問題に解答しておく(60分)	リスニングによる英文完成問題に取り組む。
2) Unit 3 Sport [予習] 教科書 pp.19~20の問題に解答しておく(60分) [復習] 動詞の時制について復習しておく(30分)	宿題(1)
3) Unit 4 Foreign Workers [予習] 教科書 pp.25~26の問題に解答しておく(60分) [復習] 進行形について復習しておく(30分)	30-word composition
4) Unit 5 Lifestyles [予習] 教科書 pp.31~32の問題に解答しておく(60分) [復習] 完了時制について復習しておく(30分)	グループワーク
5) Unit 6 Sizes [予習] 教科書 pp.37~38の問題に解答しておく(60分) [復習] 冠詞および代名詞について復習しておく(30分)	小テスト(1)
6) Unit 8 Weather and Global Warming [予習] 教科書 pp.49~50の問題に解答しておく(60分) [復習] 可算名詞および不可算名詞について復習しておく(30分)	30-word composition
7) Unit 9 Recycling [予習] 教科書 pp.55~56の問題に解答しておく(60分) [復習] 形容詞の比較級および最上級の使い方について復習しておく(30分)	ディクテーションの練習を行う。
8) Mid-Term Exam [復習] これまでに学んだことを復習しておく。	これまでに学んだことを自主的に復習する。
9) Unit 11 Crumbling Britain [予習] 教科書 pp.67~68の問題に解答しておく(60分) [復習] 前置詞および接続詞について復習しておく(30分)	宿題(2)
10) Unit 12 Advertizing [予習] 教科書 pp.73~74の問題に解答しておく(60分) [復習] 助動詞について復習しておく(30分)	50-word composition
11) TOEIC (Listening & Reading) Test 問題練習( ) [予習] 新しい単語および表現を辞書で調べておく(60分) [復習] 助動詞について復習しておく(30分)	グループワーク
12) Unit 13 Technology and Us [予習] 教科書 pp.79~80の問題に解答しておく(60分) [復習] 前回の授業で学んだ新しい単語および表現を復習しておく(30分)	小テスト(2)
13) Unit 14 Cars: Transport or Status [予習] 教科書 pp.85~86の問題に解答しておく(60分) [復習] 使役動詞について復習しておく(30分)	リスニングによる英文完成問題に取り組む。
14) Unit 15 Our Education [予習] 教科書 pp.91~92の問題に解答しておく(60分) [復習] 関係代名詞および関係副詞について復習しておく(30分)	50-word composition
15) TOEIC (Listening & Reading) Test 問題練習( ) [予習] 新しい単語および表現を辞書で調べておく(60分) [復習] 仮定法について復習しておく(30分)	グループワーク
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す練習問題に解答しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト: English Indicator 2 (Pre-Intermediate). Terry O'Brien, 他. 2017年、南雲堂 参考書: 『総合英語 Forest 第7版』 石黒昭博(監)、桐原書店	

課題に対するフィードバック

宿題および小テストは翌週コメントをつけ返す。

備考

TOEIC TEST (Listening & Reading) を受験し、規定のスコアに達すれば、単位を認定する。

科目名	アドバンストイングリッシュ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	1年	後期			
担当者名	内海 俊祐 (大学)		関連する資格				
<b>授業概要</b> 少子高齢化社会、環境問題、介護問題等グローバルな問題に関する英文を読み、自分の考えや意見をレポートにまとめる方を身に付けさせる。さらに、この講義においては、作成したレポートをもとにしてプレゼンテーションを行い、より高度で、実践的なコミュニケーション能力を育成する。この講義は学生の英語レベルにより初級、上級のクラス編成を行い、初級クラスはTOEICの500点を、上級クラスは600点を目標に授業を展開する。							
<b>到達目標</b> TOEICテスト(公開テストまたはIP)で600点以上のスコアをとることができる。 異文化を理解し、英語でコミュニケーションを図ることができる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験(中間・期末)、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) TOEICの特徴についての説明、異文化理解と英語を学ぶことの意味 マークシートでTOEICパート2の小テストを行う。 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share 後期間中にレポートを提出してもらおう。
2) リスニング問題 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 写真を用いた問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 応答文選択問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 会話文問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 説明文問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 発表とディスカッション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) リーディング問題 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) 穴埋め問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) 間違い指摘問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) 一般読解問題の解き方 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) 総合演習 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) 英語運用能力向上のための方法論 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) まとめディスカッション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 総括 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate 番場直之・小山克明 著 金星堂 別途、各自でTOEICの問題集を購入してもらいたい。	

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	オーラルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	1年	後期
担当者名	ドワード N. ナットン	関連する資格		

授業概要

日常的なコミュニケーションの場においては、リスニングの力が重要な役割を果たしている。ビデオやテープ等の視聴覚資料等の活用により、英語の音に興味を持たせ、リスニング力の向上を図り、英語による発話意欲を刺激する。リスニング力と発話意欲を向上させることにより、コミュニケーションを円滑にしていく能力を育成する。具体的には、オフィスや地域社会及び海外旅行等に必要とされる英会話力を身に付けさせる。さらに、海外からの旅行者に英語を用いた口頭による日本文化や生活習慣の説明、観光案内を行う発信型の英会話力を身に付けさせる。

到達目標

- 知識・理解の観点（具体的に説明できる。）
- 思考・判断の観点（内容を要約できる。）
- 関心・意欲の観点（考えを表現する。）
- 態度・価値観の観点（討議に参加できる。）
- 技能・表現の観点（相手に反応できる）

成績評価方法

STUDENTS ATTENDING THIS COURSE WILL BE EVALUATED ACCORDING TO THEIR CLASS PARTICIPATION, ATTENDANCE AND TEST RESULTS.  
〔授業態度・出席と試験結果に従って評価する。〕

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ORIENTATION AND SELF-INTRODUCTIONS. [オリエンテーションと自己紹介] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	CLASS OUTLINE AND PAIR WORK.
2) GREETINGS. [挨拶] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
3) WHERE ARE YOU FROM? [どこから来ましたか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
4) WHAT TIME IS IT? [何時ですか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
5) WHAT'S YOUR JOB? [あなたの仕事は何ですか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
6) RENTING A FLAT. [アパートを借りる] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
7) SHOPPING. [買い物] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
8) CAN YOU HELP ME? [手伝ってもらえますか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
9) AN AMERICAN RESTAURANT. [アメリカンレストラン] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
10) AT CUSTOMS. [税関で] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
11) MEDICAL PROBLEMS. [医療の問題] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M) 【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
12) TALKING ABOUT THE FAMILY. [家族について話す] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
13) WHAT CAN YOU DO? [何ができますか] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
14) HOLIDAYS. [休日] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
15) AT THE POST OFFICE. [郵便局で] 【予習】TOPIC ORIENTED RESEARCH (30M)【復習】READING AND PRONUNCIATION PRACTICE. (30M)	PAIR WORK AND ESL ACTIVITIES.
授業外学習	
授業の予習復習をする。授業前に分からない単語を調べてくる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
STUDENTS WILL BE PROVIDED WITH HANDOUTS TO COVER ALL PLANNED TEACHING ACTIVITIES. STUDENTS ARE ASKED TO ENSURE THEY BRING ENGLISH /JAPANESE AND JAPANESE / ENGLISH DICTONARIES TO CLASS. [学生はすべての計画された指導活動を学習するために教材（印刷物）を配布される。授業に英和・和英辞典を必ず持参することを求める。]	

課題に対するフィードバック

翌週の授業で質問応答。

備考

科目名	メディカルイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	2年	前期
担当者名	池田 守	関連する資格		

授業概要

看護師が言語を異にする患者及びドクターとコミュニケーションを図るために必要な基礎的英語力を育成する。  
その方法として： 患者への動作の指示、介助、説明に不可欠な英語の語彙及び表現を身に付けさせる。 医療器具、体の部位、痛み等に対する英語を身に付けさせる。さらに、 英語を使うドクターの指示、患者の要求を聞き取るためのリスニングの練習を行う。

到達目標

- ・ 基礎的な医療関連の英文を理解することができる。
- ・ 言語を異にする患者やドクターと英語を用いてコミュニケーションを図ることができる。
- ・ 英語の語彙を拡大することができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----60%  
小テスト、授業内レポート-----20%  
宿題-----20%  
で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) Chapter 1 WHAT IS A NURSE? [予習] 教科書 pp.8～9の問題に解答しておく(60分)	30-word composition
2) Chapter 2 THE HISTORY OF NURSING 予習] 教科書 pp.16～17の問題に解答しておく(60分) [復習] 患者への指示に必要な英語表現を復習しておく(30分)	[ テキストの大意を把握する。
3) Chapter 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP 予習] 教科書 pp.24～25の問題に解答しておく(60分) 復習] 医療器具、体の部位に関する英語表現を復習しておく(30分)	[ pair work
4) Chapter 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT 予習] 教科書 pp.32～33の問題に解答しておく(60分) 復習] 病歴を表す英語表現を復習しておく(30分)	[ 宿題(1)
5) 配布資料を用い、看護現場に必要な英語表現を学ぶ( ) 予習] 配布資料中の日本語を英語にしておく(60分) 復習] 怪我の原因、痛みに関する英語表現を復習しておく(30分)	[ グループワーク
6) Chapter 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT ( ) 予習] 教科書 pp.40～41の問題に解答しておく(60分) 復習] 症状を説明する英語の復習をしておく(30分)	[ 30-word composition
7) Chapter 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT ( ) 予習] 教科書 pp.44～45の問題に解答しておく(60分) 復習] 入院患者への質問に関する英語表現を復習しておく(30分)	[ 英語を聞き、大意を把握する。
8) Mid-Term Exam (中間テスト) [復習] これまで学んできたことを全て復習しておく。	これまで学んだことを自主的に復習する。
9) Chapter 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP 予習] 教科書 pp.48～49の問題に解答しておく(60分) [復習] 患者が示す反応に関する英語表現を復習しておく(30分)	[ pair work
10) 配布資料を用い、看護現場に必要な英語表現を学ぶ( ) 予習] 配布資料中の日本語を英語にしておく(60分) 復習] 看護師が医師に質問する場面における英語を復習しておく(30分)	[ 宿題(2)
11) Chapter 7 RELATED PROFESSIONALS 予習] 教科書 pp.56～57の問題に解答しておく(60分) 復習] 注射、手術、投薬の場面での英語表現を復習しておく(30分)	[ 50-word composition
12) 配布資料を用い、看護現場に必要な英語表現を学ぶ( ) 予習] 配布資料中の日本語を英語にしておく(60分) 復習] 血液検査に関する英語表現を復習しておく(30分)	[ グループワーク
13) Chapter 8 NURSES AND THE HOSPITAL 予習] 教科書 pp.64～65の問題に解答しておく(60分) [復習] 患者への提案、声かけに関する英語表現を復習しておく(30分)	[ 救急救命士が行う医療行為の範囲を調べる。
14) Chapter 9 NURSES IN THE COMMUNITY [予習] 教科書 pp. 72～73の問題に解答しておく(60分) [復習] 内科、外科等、科の英語名を復習しておく(30分)	50-word composition
15) Chapter 10 NURSING IN THE FUTURE [予習] 教科書 pp.80～81の問題に解答しておく(60分) [復習] VPDの英語名および接種の時期について復習しておく(30分)	pair work
授業外学習	
<p>「授業計画と概要」に示す予習および復習をしておくこと。 配布する資料の指定部分について、毎回、出席確認を兼ねた小テストを実施するので、この部分の予習もしておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト: English for Nursing Students. Marilyn W. Edmonds et al., 2016, 南雲堂 参考書: 『現場ですぐに役立つ! 看護・医療スタッフの英語』 . 山中マーガレット, 2017, 朝日出版社</p>	<p>スペシフィックイングリッシュ</p>

課題に対するフィードバック

宿題および小テストは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	メディカルイングリッシュ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	1	2年	前期			
担当者名	内海 俊祐 (大学)		関連する資格				
<b>授業概要</b> 看護師が言語を異にする患者及び医師とコミュニケーションを図るために必要な基礎的英語力を育成する。その方策として、患者への動作の指示や介助、説明に不可欠な用語及び表現を身につける。さらに、医療器具、体の部位、痛み等に対する英語を身に付け、患者及び医師への対応に必要なとされる英語の知識を深める。							
<b>到達目標</b> 言語を異にする患者及び医師とコミュニケーションを図ることが出来る。 基礎的な医療関連の英文を理解する能力を身に付ける。 外国における医療・看護への関心が高まる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験 (中間・期末)、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験 (中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 看護関係の英語の特徴について テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
2) 国際医療に占める英語の位置 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 英語関連の資格試験 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 病院における英語の使い方についての説明 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 英語による患者とのコミュニケーション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 英語による医師とのコミュニケーション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 英語による同僚とのコミュニケーション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) 英語による患者の家族とのコミュニケーション テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9) 状況別の英語の使い方についての説明 1 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
10) 状況別の英語の使い方についての説明 2 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
11) 状況別の英語の使い方についての説明 3 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
12) 状況別の英語の使い方についての説明 4 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
13) 状況別の英語の使い方についての説明 5 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
14) 状況別の英語の使い方についての説明 6 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
15) 総括 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
看護英語の練習帳 インプットからアウトプットへ 宮田学 (編集), 井上真紀 (著) 萌文書林	スペシフィックイングリッシュ

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	ライセンスイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	1年	前期
担当者名	内海 俊祐 (大学)	関連する資格		

授業概要

自学自習を通し、公的資格にチャレンジし、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標

- ・国際コミュニケーション協会が実施する「TOEIC (公開またはIP) 試験」で450点以上のスコアを取ることができる。
- ・財団法人日本英語検定協会が実施する「実用英語検定試験」で2級以上の公的資格を取ることができる。

成績評価方法

合格基準に達し、単位認定を希望する学生は、本学が指定する単位認定申込書に必要事項を記入し、合格証あるいは得点票を添えて、担当教員に提出する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)								
小テスト、授業内レポート								
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) (TOEICや実用英語検定試験等の受験に必要な学習内容を以下列挙する) 動詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
2) 前置詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
3) 文法(1) ...関係代名詞及び関係副詞を学ぶ。	
4) 文法(2) ...英語の時制を学ぶ。	
5) 文法(3) ...仮定法を学ぶ。	
6) 文法(4) ...分詞構文を学ぶ。	
7) リスニング(1) ...写真を見て、正しい説明を聞き取る練習をする。	
8) リスニング(2) ...対話を聞き、正しい応答を学ぶ。	
9) リスニング(3) ...説明文を聞き、内容を把握する。	
10) 英文読解(1) ...ボトムアップ方式で英文を把握する。	
11) 英文読解(2) ...速読直解の練習をする。	
12) 英文読解(3) ...スキミングの練習をする。	
13) 英文読解(4) ...スキッピングの練習をする。	
14) TOEICテストの模擬練習をする。	
15) 実用英語検定2級の模擬練習をする。	
授業外学習	
TOEICや実用英語検定試験等を受験する際、問題傾向に十分に慣れておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書：本学の図書館にTOEICテストおよび実用英語検定試験受験のための説明書や問題集を多数取り揃えています。活用してください。	エッセンシャルイングリッシュ アドバンスイングリッシュ オーラルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

備考

補習指導を行うので、申し出ること。

科目名	ライセンスイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	1年	後期
担当者名	内海 俊祐 (大学)	関連する資格		

授業概要

自学自習を通し、公的資格にチャレンジし、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標

- ・国際コミュニケーション協会が実施する「TOEIC（公開またはIP）試験」で450点以上のスコアを取ることができる。
- ・財団法人日本英語検定協会が実施する「実用英語検定試験」で2級以上の公的資格を取ることができる。

成績評価方法

合格基準に達し、単位認定を希望する学生は、本学が指定する単位認定申込書に必要事項を記入し、合格証あるいは得点票を添えて、担当教員に提出する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) (TOEICや実用英語検定試験等の受験に必要な学習内容を以下列挙する) 動詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
2) 前置詞を中心としたイディオムを学ぶ。	
3) 文法(1) --- 関係代名詞及び関係副詞を学ぶ。	
4) 文法(2) --- 英語の時制を学ぶ。	
5) 文法(3) --- 仮定法を学ぶ。	
6) 文法(4) --- 分詞構文を学ぶ。	
7) リスニング(1) --- 写真を見て、正しい説明を聞き取る練習をする。	
8) リスニング(2) --- 対話を聞き、正しい応答を学ぶ。	
9) リスニング(3) --- 説明文を聞き、内容を把握する。	
10) 英文読解(1) --- ボトムアップ方式で英文を解釈する。	
11) 英文読解(2) --- 速読直解の練習をする。	
12) 英文読解(3) --- スキミングの練習をする。	
13) 英文読解(4) --- スキャニングの練習をする。	
14) TOEICテストの模擬練習をする。	
15) 実用英語検定2級の模擬練習をする。	
授業外学習	
TOEICや実用英語検定試験等を受験する際、問題傾向に十分に慣れておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書： 本学の図書館に、TOEICテストおよび実用英語検定試験受験のための説明書や問題集を多数取り揃えています。活用してください。	TOEIC入門 TOEIC指導 オーラルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

備考

補習指導を行うので、申し出ること。

科目名	海外英語研修			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	1年	前期
担当者名	内海 俊祐 (大学)	関連する資格		

授業概要

海外での研修や旅行あるいはインターンシップで必要とされる英語によるコミュニケーション能力を育成するために、夏季および春季の海外英語研修を実施する。研修先のセンターでは、英語母語者から週8時間以上の語学指導を受け、さらに、現地の文化および社会をよりよく知るために、スポーツへの参加、自然環境の視察およびフィールドトリップを行う。また、以上の内容の研修が円滑に行われるために、海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。

到達目標

異文化および自文化を理解することが出来る。  
英語による実践的コミュニケーション能力を身に付ける。  
異文化との共生への関心が高まる。

成績評価方法

事前指導、海外研修、海外研修レポート、事後指導への参加状況を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)	アクティブラーニング
<p>海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。事前指導の内容は下記の通りである。</p> <p>1) 日本語と英語の比較</p> <p>2) 日本文化と欧米の比較</p> <p>3) 異文化体験の意義</p> <p>4) 海外から日本にEメールを送る</p> <p>5) 欧米事情</p> <p>6) 環境関連の英語</p> <p>7) 福祉関連の英語</p> <p>8) 9) 日本文化紹介のための英語 (日本人と閉鎖性/日本人と国際化/日本の特徴/日本についての情報の伝え方)</p> <p>10) 11) 12) 13) 海外生活のための英語 (日常会話の慣用表現/英会話のスピード/生活習慣の差異/状況別の英語表現/英会話の注意点/英語のまま理解することについて)</p> <p>14) まとめとディスカッション</p> <p>15) 総括</p> <p>ガイダンスに臨む場合は時間をかけて各自準備をし、ガイダンス後は内容を振り返る時間を取る。</p>	グループワーク
授業外学習	
渡航先の地理・文化・生活様式などを調べておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>毎回プリント類を配布する</p> <p>参考書：『日本を語る』、日鉄ヒューマンデベロップメント著、1995年、アルク</p>	オーラルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を個別に伝える。

備考

この授業の単位は海外研修への参加を要件とする。

科目名	海外英語研修			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	1	1年	後期
担当者名	内海 俊祐 (大学)	関連する資格		

授業概要

海外での研修や旅行あるいはインターンシップで必要とされる英語によるコミュニケーション能力を育成するために、夏季および春季の海外英語研修を実施する。研修先のセンターでは、英語母語者から週8時間以上の語学指導を受け、さらに、現地の文化および社会をよりよく知るために、スポーツへの参加、自然環境の視察およびフィールドトリップを行う。また、以上の内容の研修が円滑に行われるために、海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。

到達目標

異文化および自文化を理解することが出来る。  
 英語による実践的コミュニケーション能力を身に付ける。  
 異文化との共生への関心が高まる。

成績評価方法

事前指導、海外研修、海外研修レポート、事後指導への参加状況を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)(実習)	アクティブラーニング
<p>海外生活の諸問題を取り上げながら事前指導を行う。事前指導の内容は下記の通りである。</p> <p>1) 日本語と英語の比較</p> <p>2) 日本文化と欧米の比較</p> <p>3) 異文化体験の意義</p> <p>4) 海外から日本にEメールを送る</p> <p>5) 欧米事情</p> <p>6) 環境関連の英語</p> <p>7) 福祉関連の英語</p> <p>8) 9) 日本文化紹介のための英語 (日本人と閉鎖性/日本人と国際化/日本の特徴/日本についての情報の伝え方)</p> <p>10) 11) 12) 13) 海外生活のための英語 (日常会話の慣用表現/英会話のスピード/生活習慣の差異/状況別の英語表現/英会話の注意点/英語のまま理解することについて)</p> <p>14) まとめとディスカッション</p> <p>15) 総括</p> <p>ガイダンスに臨む場合は時間をかけて各自準備をし、ガイダンス後は内容を振り返る時間を取ること。</p>	グループワーク
授業外学習	
渡航先の地理・文化・生活様式などを調べておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>毎回プリント類を配布する</p> <p>参考書：『日本を語る』、日鉄ヒューマンデベロップメント著、1995年、アルク</p>	オーラルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を個別に伝える。

備考

この授業の単位は海外研修への参加を要件とする。

科目名	スペシフィックイングリッシュ			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	4年	後期
担当者名	池田 守	関連する資格		

授業概要

具体的な看護の事例研究を題材に取り上げ、看護に関する英文読解および英作文の力を身に付けさせる。  
その方法として：「情報収集」「アセスメント」「計画立案」「実施」「評価」という一連の看護過程を英語で読む。「患者プロフィール」や「看護計画」を英語で書く練習をする。レポートや論文のアブストラクトを英語で読み、論文の構成について指導する。

到達目標

- ・看護に関するボキャブラリーを拡大することができる。
- ・読解力を向上させることができる。
- ・「患者プロフィール」や「看護計画」等を英語で書くことができる。
- ・英語のレポートや論文の構成を理解することができる。

成績評価方法

定期試験（中間・期末）-----60%  
小テスト、授業内レポート-----20%  
宿題、授業外レポート-----20%  
で、評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) Unit 1 Risk for Injury: How to Maintain Safety [予習] 教科書 p.3の問題に解答しておく(60分)	テキストの「大意把握」に取り組む。
2) Unit 2 Self-care Deficit: How to Practice Bathing and Hygiene [予習] 教科書 p.9の問題に解答しておく(60分) [復習] 運動機能障害に関する看護計画を復習しておく(30分)	宿題(1)
3) Unit 3 Respiratory Disorders: How to Relieve Respiratory Distress [予習] 教科書 p.15の問題に解答しておく(60分) [復習] 入浴・清潔行動計画に関する看護計画を復習しておく(30分)	50-word composition
4) Unit 4 Fluid Volume Deficit: How to Maintain Fluid Balance [予習] 教科書 p.21の問題に解答しておく(60分) [復習] 気管支喘息による呼吸障害に関する看護計画を復習しておく(30分)	小テスト(1)
5) 「患者プロフィール」を英語で書く練習を行う。 [予習] 教科書 p.31、p.33の単語の意味を調べておく(60分) [復習] 下痢等による体液量不足に関する看護計画を復習しておく(30分)	患者に関する「主観的情報」を考える。
6) Unit 5 Insomnia: How to Promote Rest and Sleep [予習] 教科書 p.27の問題に解答しておく(60分) [復習] 前回の「患者プロフィール」の復習をしておく(30分)	患者に関する「客観的情報」を考える。
7) Unit 7 Healthy Dietary Practice: How to Gain Adequate Weight [予習] 教科書 p.39の問題に解答しておく(60分) [復習] 不眠に関する看護計画を復習しておく(30分)	グループワーク
8) Mid-term Exam (中間テスト) [復習] これまでに学んだことをすべて復習しておく	これまでに学んだことを自主的に復習する。
9) Unit 11 Impaired Skin Integrity: How to Manage Burn Care [予習] 教科書 p.63の問題に解答しておく(60分) [復習] 摂食障害に関する看護計画を復習しておく(30分)	新単語および表現のリストを作成する。
10) 「看護計画」を英語で各練習を行う。 [予習] 教科書 p.43、p.47の尿閉に関する単語の意味を調べておく(60分) [復習] 熱傷による皮膚統合性障害に関する看護計画を復習しておく(30分)	50-word composition
11) Unit 12 Visual Alterations: How to Adjust to Visual Disorder [予習] 教科書 p.69の問題に解答しておく(60分) [復習] 尿閉に関する看護計画の復習をしておく(30分)	宿題(2)
12) レポート、論文のアブストラクトを英語で読む。 [予習] 糖尿病に関する配布資料を読んでおく(60分) [復習] 白内障による視力低下に関する看護計画を復習しえおく(30分)	グループワーク
13) 資料を用い、レポート、論文の構成について指導する。 [予習] HIV患者の看護を担当する看護師の論文を読んでおく(60分) [復習] 糖尿病に関する論文のアブストラクトを復習しておく(30分)	小テスト(2)
14) Unit 13 Surgical Client: How to Cope with Anxiety [予習] 教科書 p.75の問題に解答しておく(60分) [復習] HIV患者の看護に当たる看護師の論文の復習をしておく(30分)	授業内レポート
15) Unit 15 Lifestyle-related Diseases: How to Encourage Health-seeking Behaviors [予習] 教科書 p.87の問題に解答しておく(60分) [復習] 手術前後の不安・心配に関する看護計画を復習しておく(30分)	50-word composition
授業外学習	
各授業の前までに、「授業計画と概要」に示す各Unitの英文の概要を把握しておくこと。また、配布される資料の内容を次回の授業までに予習しておくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：Nursing Case Studies. Yoshihito Sugita, Richard R. Caraker, 2016, 成美堂 参考書：『現場ですぐに役立つ！看護・医療スタッフの英語』. 山中マーガレット, 2017, 朝日出版社 『看護の現場ですぐ役立つ看護研究のポイント』. 大口祐矢, 2017, 秀和システム	メディカルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

宿題および小テストは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	中国語の基本			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	佟 軍	関連する資格		

授業概要

中国語の発音すなわち、ピンイン文字（中国語表音ローマ字）で表記された発音を習得することに力を注ぐ。本講義では最初に、自分で作ったピンイン発音ソフトを併用し、声調（四声）、単母音、子音、複合母音及び鼻母音の発音を学習し、グループ学習などを通して中国語の発音基礎能力を身に付けさせる。ついで、テキストの会話短文及び単語の発音の習熟を目指す。並行して基礎的文法も学ぶ。

到達目標

中国語の発音基礎となるピンインを習得し、正しく発音することができる。  
 具体例で基本的な文法についての説明できる。  
 極簡単な日常会話ができる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 1) ガイダンス：授業概要	
2) ピンインの発音：単母音、二重母音、三重母音 【予習】配布プリントP1～P2(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
3) ピンインの発音：鼻母音 【予習】配布プリントP1～P2(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
4) ピンインの発音：子音 【予習】配布プリントP2～P3(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	
5) ピンインの発音：声調 【予習】配布プリントP1～P3(15分)【復習】ピンインの発音練習(30分)	第1回小テスト
6) 第1課：本文「?是中国人??」 【予習】教科書P13～P14(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
7) 第1課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P15～P16(15分)【復習】トレーニング1の完成(30分)	グループワーク
8) 第2課：本文「?是什??」 【予習】教科書P17～P18(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
9) 第2課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P19～P20(15分)【復習】トレーニング2の完成(30分)	グループワーク
10) 第3課：本文「?去?儿?」 【予習】教科書P21～P22(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
11) 第3課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P23～P24(15分)【復習】トレーニング3の完成(30分)	第2回小テスト
12) 第4課：本文「?个包多少??」 【予習】教科書P25～P26(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
13) 第4課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P27～P28(15分)【復習】トレーニング4の完成(30分)	グループワーク
14) 第5課：本文「??上有事??」 【予習】教科書P29～P30(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
15) 第5課の文法及び各種のトレーニング 【予習】教科書P31～P32(15分)【復習】トレーニング5の完成(30分)	第3回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書： 『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、2013年、白水社、2,200円 参考書： 『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、1,985円	中国語の応用

課題に対するフィードバック

小テストペーパーは翌週添削をつけて返す

備考

科目名	中国語の応用			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	後期
担当者名	柊 軍	関連する資格		

授業概要

中国語の基本で学習したことに引き続いて、活用度の高いテキストの会話短文を学習するとともに中国語発音の基礎とするピンインの能力を高める。また、基礎的文法を学び、繰り返し発音練習、各種のトレーニング及びグループ学習などを通して、「読む・書く・聞く・話す」四つの能力のうち、特に「聞く・話す」に重点を置きながら、簡単な日常会話ができる語学力を習得させる。

到達目標

繰り返し発音練習により中国語を正しく発音することができる  
中国語の文法基礎および語彙力をアップすることができる。  
中国語基礎能力を習得し、簡単な自己紹介できるようになる。

成績評価方法

定期試験、小テスト、授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							35
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 第6課：本文「?吃?了??」 【予習】教科書P33～P34(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
2) 第6課の各種のトレーニング 【予習】教科書P35～P36(15分)【復習】トレーニング6の完成(30分)	グループワーク
3) 第7課：本文「?家有几口人?」 【予習】教科書P37～P38(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
4) 第7課の各種のトレーニング 【予習】教科書P39～P40(15分)【復習】トレーニング7の完成(30分)	グループワーク
5) 第8課：本文「?从几点?始打工?」 【予習】教科書P41～P42(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
6) 第8課の各種のトレーニング 【予習】教科書P43～P44(15分)【復習】トレーニング8の完成(30分)	グループワーク
7) 第9課：本文「?去?美国??」 【予習】教科書P45～P46(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
8) 第9課の各種のトレーニング 【予習】教科書P47～P48(15分)【復習】トレーニング9の完成(30分)	第1回小テスト
9) 第10課：本文「?会唱歌??」 【予習】教科書P49～P50(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
10) 第10課の各種のトレーニング 【予習】教科書P51～P52(15分)【復習】トレーニング10の完成(30分)	グループワーク
11) 第11課：本文「?在干什??」 【予習】教科書P53～P54(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
12) 第11課の各種のトレーニング 【予習】教科書P55～P56(15分)【復習】トレーニング11の完成(30分)	グループワーク
13) 第12課：本文「祝?旅途愉快!」 【予習】教科書P57～P58(15分)【復習】テキストの発音練習(30分)	
14) 第12課の各種のトレーニング 【予習】教科書P59～P60(15分)【復習】トレーニング12の完成(30分)	グループワーク
15) 総括 【予習】第6課～第12課の単語・本文(60分)【復習】第6課～第12課の文法・トレーニング(90分)	第2回小テスト
授業外学習	
授業内容について復習、本文と単語の発音を繰り返し練習すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教科書：『中国語 はじめの一步 最新2訂版』尹景春・竹島毅著、2013年、白水社、2,200円 参考書：『よくわかる中国語入門』三野昭一著、2004年、同学社、1,985円	中国語の基本

課題に対するフィードバック

小テストペーパーは翌週添削をつけて返す

備考

科目名	情報処理の基礎						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	1年	後期			
担当者名	柘 軍		関連する資格				
<b>授業概要</b> 高度情報社会をよりよく生きていくためには、コンピュータやインターネットについて、単に操作ができるというだけでは不十分であり、その本質・仕組みなどをよく認識し、活用していくことが大切である。本授業では、まず、情報、情報処理及び情報社会について説明し、デジタル情報表現の基礎となる二進法、コンピュータ内部の情報の表し方などを学習する。次には、コンピュータの構造と動作仕組み、コンピュータのハードウェア・ソフトウェア、プログラミング言語と情報処理手法（アルゴリズム）、コンピュータネットワークの基本概念などを取り扱う。最後に情報セキュリティについての対策、暗号化技術を説明する。							
<b>到達目標</b> 情報、情報処理についての基本概念・知識を習得できる コンピュータの全体像をつかみ、理解を深めることができる。 情報化社会について認識できる。 情報セキュリティの重要性・対策について学習できる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験、小テスト、授業への意欲・態度				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス：授業概要	
2) 情報とは 【予習】情報の定義を調べる(30分)【復習】第1章内容(30分)	グループワーク
3) コンピュータと情報社会 【予習】プリントP4～P6(30分)【復習】第2章内容(30分)	グループワーク
4) アナログ情報とデジタル情報 【予習】プリントP7～P9(30分)【復習】第3章内容(30分)	グループワーク
5) 二進数の世界 【予習】プリントP10～P11(30分)【復習】第4章内容(30分)	小テスト
6) コンピュータ内部での情報の表し方 【予習】プリントP12～P13(30分)【復習】情報の単位、情報の表し方(30分)	小テスト
7) コンピュータ内部での情報の表し方 【予習】プリントP14～P15(30分)【復習】コード体系、整数と小数点の表現方法(30分)	小テスト
8) コンピュータのしくみ・特徴・種類 【予習】プリントP16～P17(30分)【復習】第6章内容(30分)	小テスト
9) コンピュータのハードウェアI 【予習】プリントP18～P20(30分)【復習】コンピュータの構成と機能、各装置の役割、CPUの役割と処理速度(30分)	小テスト
10) コンピュータのハードウェア 【予習】プリントP21～P23(30分)【復習】メモリの種類、メインメモリの役割、キャッシュメモリとVRAM(ビデオメモリ)(30分)	小テスト
11) コンピュータのハードウェア 【予習】プリントP24～P29(30分)【復習】入出力装置、入出力インターフェース(30分)	小テスト
12) コンピュータのハードウェア 【予習】プリントP30～P32(30分)【復習】ネットワーク機器(30分)	小テスト
13) コンピュータのソフトウェア 【予習】プリントP33～P35(30分)【復習】第8章内容(30分)	小テスト
14) プログラミング言語と言語処理システム 【予習】プリントP36～P39(30分)【復習】第9章内容(30分)	小テスト
15) 情報セキュリティ 【予習】プリントP40～P42(30分)【復習】第10章内容(30分)	小テスト
授業外学習	
授業の最後に、前回の授業内容について的小テストがあり、講義資料などを復習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキストは使わない。プリントを配布する。  参考書：『教養・コンピュータ[第3版]』吉田敬一、共立出版、  『情報処理論』山本 恒 他、同文書院、  『情報処理概論』山下敬彦、共立出版</p>	情報処理演習

課題に対するフィードバック

小テストなどの共通な間違いについて授業で説明する

備考

科目名	情報処理演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	1年	後期
担当者名	鷹岡 亮	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

健康情報管理の実践のための具体的技法を情報処理機器の活用を中心に学びます。その際、「対象者にメッセージを分かりやすく伝えられること」を目標に、コンピュータを中心とした情報機器を医療機関、地域において情報管理の道具として使いこなすだけでなく、コミュニケーションや学習の道具としても使える技能を習得します。具体的には、自己紹介、絵本やイラスト等による医療情報の作成、医療等データの処理・加工・表示などを対象にして、毎回、手と頭をフル回転して頂く授業を目指します。

到達目標

ある対象を他者に分かりやすく工夫して説明することができること。  
 自己紹介や絵本課題を通して、パワーポイント(Powerpoint)の基本操作を習得できること。  
 成績表や医療データを処理する活動を通して、基本的な関数を中心としたエクセル(Excel)の基本操作を習得することができること。  
 レポート課題を通して、パワーポイントで図を作成し、エクセルでデータを分析・表現し、それらの図や表・グラフを活用してワード(Word)でレポートを書くことができること。

成績評価方法

毎回の授業時の課題作業や演習課題の作業点と最終テストにより総合的に判断する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							20
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							15
グループワーク							
演習							45
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ・授業オリエンテーション(授業計画・授業評価) ・架空の勤務先を対象にして1分間自己紹介に挑戦してみよう。 【予習】シラバスを読む(15分)【復習】自己紹介ポイントを省察する(15分)	・自分を覚えてもらうための自己紹介の内容を考える。 ・自己紹介をプレゼンする。
2) ・Powerpointが何たるかを理解しよう。・Powerpointを活用して自己PRスライドを作成しよう。【予習】Powerpointで「できること」を調べてみる(15分) 【復習】自己PRスライドの修正点を考え具体化する(15分)	・自己PRの内容を考える。 ・自己PRを分かりやすく工夫してPowerpointで表現する。
3) ・電子絵本のストーリーを考えよう。・電子絵本で使えるようなPowerpointのスキルを身につけよう。【予習】Web上で電子絵本を調べて見てみる(15分) 【復習】電子絵本のストーリーを付加・修正する(30分)	・電子絵本のストーリーを考える。
4) ・Powerpointを活用して電子絵本を作成しよう(その1)。 【予習】電子絵本スライドのイメージを創っておく(15分)【復習】次週すべき電子絵本スライドの作業を具体化する(30分)	・読者に響く言葉の使い方を考えてスライドで工夫して表現する。
5) ・Powerpointを活用して電子絵本を作成しよう(その2)。 【予習】Web上で創りたいスライドのスキルを調べておく(30分)【復習】電子絵本の完成度をあげる(90分)	・アニメーション等を活用して電子絵本らしい表現を考える。
6) ・電子絵本展覧会を実施しよう。 【予習】電子絵本のアニメーションの付け方・誤字脱字等を確認して適宜修正しておく(30分)【復習】他者の電子絵本作成の良さをまとめておく(15分)	・他者評価を通してPowerpointのスキルを習得し、また伝わる表現を学ぶ。
7) ・Powerpointを活用したドリル問題(質問応答スライド)を作ろう。 【予習】Web上のドリル問題を調べておく(15分)【復習】ドリル問題が作成できる場面や対象をまとめておく(15分)	・Powerpointの特徴を踏まえて質問応答の問題を考え、回答の表現方法を考える。
8) ・Excelの基本操作を理解しよう。・関数を使ってより簡単に数の合計を求めよう。 【予習】Powerpointで「できること」を調べてみる(15分) 【復習】今日学んだ関数をWeb上で検索して使い方を復習する(15分)	・Excelを活用してこれまでの計算方法を改善する方法について考える。
9) ・鷹岡塾の実力テスト成績処理に挑戦しよう。 【予習】成績処理で必要となる機能を考えてみる(15分) 【復習】今日学んだ関数をWeb上で検索して使い方を復習する(15分)	・Excelを活用してこれまでの計算方法を改善する方法について考える。
10) ・仲間へのアンケート調査に挑戦しよう。・Excelでグラフの書き方を理解しよう。 【予習】アンケート調査項目を5つ考えてくる(30分) 【復習】グラフの書き方をWeb上で検索してその使い方を復習する(15分)	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
11) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう(その1)。～IF関数を学ぼう～ 【予習】IF関数の使い方をWeb上で調べて理解してくる(15分)【復習】IF関数を使用する例を3つWeb上で検索して理解する(30分)	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
12) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう(その2)。～RANK関数や絶対参照を学ぼう～ 【予習】RANK関数の使い方をWeb上で調べて理解してくる(15分) 【復習】RANK関数を使用する例を3つWeb上で検索して理解する(30分)	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
13) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう(その3)。～SUMIF関数を学ぼう～ 【予習】SUMIF関数の使い方をWeb上で調べて理解してくる(15分)【復習】SUMIF関数を使用する例を3つWeb上で検索して理解する(30分)	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
14) ・Excelの関数を活用して課題を解決しよう(その4)。～COUNTIF関数を学ぼう～ 【予習】COUNTIF関数の使い方をWeb上で調べて理解してくる(15分)【復習】COUNTIF関数を使用する例を3つWeb上で検索して理解する(30分)	・Excelを活用してこれまで処理方法を改善する方法について考える。
15) ・Powerpoint, Excel, Wordを活用した課題に挑戦しよう。【予習】Powerpoint, Excel, Wordを活用したレポートの書き方をWeb上で調べて理解してくる(30分)【復習】課題回答で他者に分かりやすく理解してもらうポイントについまとめる(30分)	・課題の回答を読み手に分かりやすく伝えるためのWord等での表現方法を考える。
授業外学習	
予習は必要ありませんが、授業時に授業外学習用の課題を提出する場合があります。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキストや参考書は利用しません。必要に応じて、資料配布、Web情報を活用してもらいます。	インターネットの使い方

課題に対するフィードバック

予習課題については、疑問や分からないことを持って授業にのぞんでくれることを期待し、調べてきたこと・考えてきたこと、疑問や分からないことを授業のなかで適宜発表（ペア・グループでの発表含む）してもらおう。また、復習課題については、次の授業のはじめに前の授業の復習をする際に質問したり、改めて考えてもらおう。さらに、スキル習得の復習課題の際には、次の授業のはじめに対象スキルを利用した問題に取り組みさせる。

備考

科目名	インターネットの使い方			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	選択	1	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

現在、多くの情報が電子情報として利用されており、現代社会を生きる我々は、インターネットを利用した基本的な情報収集や情報発信の知識を必ず習得しておかなければならない。本演習では、情報セキュリティの系統的・運用的な課題を理解するとともに、情報リテラシー教育における情報倫理の課題を理解して、社会における一利用者として必要な、情報倫理を身につけることをねらいとする。

到達目標

受け身ではなく、積極的な態度で授業に参画し、教員採用試験で求められている「メディアと教育」分野の知識を修得する。

成績評価方法

課題レポート、授業への取り組み姿勢を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、グループ学習の役割分担等	
2) 情報化社会における情報管理（看護情報学の視点から）	
3) ICTと情報セキュリティについて1 -テーマ検討とキーワードの抽出-	
4) ICTと情報セキュリティについて2 -キーワードの簡易調査・中間報告-	
5) ICTと情報セキュリティについて3 -キーワードの詳細調査、テーマの理解-	
6) ICTと情報セキュリティについて4 -成果報告準備-	
7) ICTと情報セキュリティについて5 -成果報告-	
8) 情報社会とICTについて1 -テーマ検討とキーワードの抽出-	
9) 情報社会とICTについて2 -キーワードの簡易調査・中間報告-	
10) 情報社会とICTについて3 -キーワードの詳細調査、テーマの理解-	
11) 情報社会とICTについて4 -成果報告準備-	
12) 情報社会とICTについて5 -成果報告-	
13) インターネット技術 1 (情報検索)	
14) インターネット技術 2 (電子メール・ソーシャルメディア)	
15) 総括と課題作成	
授業外学習	
授業後、配布したプリントを読み直すこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリントを適宜配布	情報処理演習

課題に対するフィードバック

備考

科目名	人体の構造と機能			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	3	1年	通年(前期)
担当者名	大草 知子	関連する資格		

授業概要

人体を構成している器官や臓器の構造と機能について学び、看護学の最も基礎となる知識を修得する。構造と機能の知識を関連させて考える思考過程を養うために、「ホメオスタシス」という統一テーマのもとに、臓器系統間の関連や相互作用を理論的に学ぶ。

到達目標

1. 人体の構造、固体の構成を遺伝子レベルから器官系レベルまで理解する。
2. 人体の生理機能を解剖学と関連させて学ぶ。
3. 「ホメオスタシス」というテーマのもとに、生命現象、病態生理を理解する。

成績評価方法

- 定期試験  
授業外レポート  
授業態度・授業参加度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生理学とは、生理学に必要な化学の知識 【予習】教科書のCHAPTER 1、2を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 1、2
2) 人体の組織、皮膚と膜 【予習】教科書のCHAPTER 3、4、5を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 3、4
3) 骨の生理学 【予習】教科書のCHAPTER 6、7を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 5
4) 血液：血液の機能、成分、貧血 【予習】教科書のCHAPTER 14を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 6
5) 血液：止血・凝固、血液型、免疫 【予習】教科書のCHAPTER 14、17を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 6
6) 骨格筋：構造、機能 【予習】教科書のCHAPTER 8を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 7
7) 骨格筋：特性、エネルギー化学、神経支配 【予習】教科書のCHAPTER 8を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 7
8) 運動生理学 【予習】教科書のCHAPTER 8を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 8
9) 神経：概説、生理学 【予習】教科書のCHAPTER 10を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 9
10) 神経：末梢神経、中枢神経 【予習】教科書のCHAPTER 11、12を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 9
11) 神経：脳波、反射、髄液 【予習】教科書のCHAPTER 10を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 9
12) 感覚：総論、体性感覚、内臓感覚 【予習】教科書のCHAPTER 12を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 10
13) 感覚：味覚、聴覚・平衡覚 【予習】教科書のCHAPTER 12を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 10
14) 感覚：視覚 【予習】教科書のCHAPTER 12を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 10
15) 総括	
16) 循環器：解剖、電気生理 【予習】教科書のCHAPTER 15を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 11
17) 循環器：心機能、神経調節 【予習】教科書のCHAPTER 16を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 11
18) 呼吸器：生理、肺機能、換気障害 【予習】教科書のCHAPTER 18を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 12
19) 呼吸器：肺胞機能、血液ガス 【予習】教科書のCHAPTER 18を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 12
20) 腎・排泄機構：腎臓の解剖、腎機能 【予習】教科書のCHAPTER 21を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 13

21)	腎・排泄機構：尿細管機能、腎機能の調節、排尿機構 【予習】教科書のCHAPTER 21を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 13
22)	総括	
23)	体液および酸・塩基平衡：体液 【予習】教科書のCHAPTER 22を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 14
24)	体液および酸・塩基平衡：酸・塩基平衡 【予習】教科書のCHAPTER 22を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 14
25)	体液および酸・塩基平衡：体液平衡の障害 【予習】教科書のCHAPTER 22を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 14
26)	消化吸収：消化運動、消化 【予習】教科書のCHAPTER 19を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 15
27)	消化吸収：栄養素の分解と吸収 【予習】教科書のCHAPTER 19、20を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 15
28)	消化吸収：消化管ホルモン 【予習】教科書のCHAPTER 19を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 15
29)	栄養・代謝：栄養素、エネルギー代謝 【予習】教科書のCHAPTER 20を読んでおく(1時間) 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること(1時間)	サブノート項目 16
30)	総括	

#### 授業外学習

授業外学習として、適宜、レポートを提出してもらいます。課題はその都度指示します。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1) 人体の構造と機能サブノート(配布教材) 2) トートラ人体解剖生理学(翻訳版 丸善出版)	生物学の基礎 人間らしさとは何か いのちの科学 薬理・薬剤学 など

#### 課題に対するフィードバック

授業外課題レポートはチェック後返却します。

#### 備考

特別作成教材：「人体の構造と機能サブノート」を配布し、それに沿って講義をします。  
講義には「人体の構造と機能サブノート」およびトートラ人体解剖生理学を持参して下さい。  
聴診器を毎回持参して下さい。


科目名	人体の構造と機能			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	3	1年	通年(後期)
担当者名	大草 知子	関連する資格		

授業概要

人体を構成している器官や臓器の構造と機能について学び、看護学の最も基礎となる知識を修得する。構造と機能の知識を関連させて考える思考過程を養うために、「ホメオスタシス」という統一テーマのもとに、臓器系統間の関連や相互作用を理論的に学ぶ。

到達目標

1. 人体の構造、固体の構成を遺伝子レベルから器官系レベルまで理解する。
2. 人体の生理機能を解剖学と関連させて学ぶ。
3. 「ホメオスタシス」というテーマのもとに、生命現象、病態生理を理解する。

成績評価方法

定期試験  
授業外レポート  
授業態度・授業参加度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 体温とその調節：体温の基礎 【予習】教科書のCHAPTER 20を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 17
2) 体温とその調節：体温調節、発熱 【予習】教科書のCHAPTER 20を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 17
3) 内分泌：定義、視床下部 下垂体 【予習】教科書のCHAPTER 13を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 18
4) 内分泌：副腎、甲状腺、副甲状腺 【予習】教科書のCHAPTER 13を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 18
5) 内分泌：膵臓 【予習】教科書のCHAPTER 13を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 18
6) 内分泌：性腺 【予習】教科書のCHAPTER 13、23を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 18
7) 生殖：性の分化、男性生殖器 【予習】教科書のCHAPTER 23を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 19
8) 生殖：女性生殖器 【予習】教科書のCHAPTER 23を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 19
9) 生殖：女性生殖器、妊娠・出産 【予習】教科書のCHAPTER 23を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 19
10) 総括	
11) 免疫：免疫とは 【予習】教科書のCHAPTER 17を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 20
12) 免疫：免疫機構の詳細 【予習】教科書のCHAPTER 17を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 20
13) 生体リズム 【予習】サブノート項目21を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 21
14) 加齢の生理 【予習】サブノート項目22、教科書の加齢と〇〇系を読んでおく（1時間） 【復習】教科書のチェックポイントを解いて、授業内容を復習すること（1時間）	サブノート項目 22
15) 総括	
授業外学習	
授業外学習として、適宜、レポートを提出してもらいます。課題はその都度指示します。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
1) 人体の構造と機能サブノート（配布教材） 2) トートラ人体解剖生理学（翻訳版 丸善出版）	生物学の基礎 人間らしさとは何か いのちの科学 薬理・薬剤学 など

課題に対するフィードバック

授業外課題レポートはチェック後返却します。

備考

特別作成教材：「人体の構造と機能サポート」を配布し、それに沿って講義をします。  
講義には「人体の構造と機能サポート」およびトートラ人体解剖生理学を持参して下さい。  
聴診器を毎回持参して下さい。

科目名	生涯発達心理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	1年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

人間の発達とは、生涯にわたり、質的・量的に変化していく「連続した過程」として捉えられる。また、各発達の段階には、達成すべき課題があり、それらを遂行していく過程とも捉えられる。本講では、こうした視点をふまえ、出生から死に至るまで、人生で生じる心の変化を概観する。

到達目標

1. 出生から死に至るまで、人間の様々な時期に生じる心の変化・あり様が理解できる。
2. 人生の中で生じる変化を支え、より豊かな人生をおくるための支援が理解できる。

成績評価方法

定期試験、レポート、小テスト、受講態度で評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、生涯発達心理学とは	授業内レポート
2) 発達に関する理論	小テスト
3) 生涯発達心理学の基本的視点	小テスト
4) 乳児期	小テスト
5) 幼児前期	小テスト
6) 幼児後期	小テスト
7) 学童期	小テスト
8) 思春期	小テスト
9) 青年期	小テスト
10) 成人前期	小テスト
11) 成人中期	小テスト
12) 成人中期	小テスト
13) 成人後期	小テスト
14) 死	小テスト
15) 発達の障害、まとめ	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
<p>講義の終わりに、その講義のふりかえるため、講義のポイントをテーマとした小テストを行います。 小テストを中心に復習をくり返すことにより、知識の定着を図って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】レジメを配布する。 【参考書】ガイドライン生涯発達心理学、ナカニシヤ出版 よく分かる発達心理学、ミネルヴァ書房</p>	<p>障害発達心理学 心理学関連科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

オフィスアワー；毎週木曜日3限目(事前に連絡して下さい)

科目名	人間関係論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	1年	後期
担当者名	立川 美香	関連する資格	看護師・保健師・養護教諭	

授業概要

看護職にとって人間関係を築くことは、その職務の前提でもあり、中心にもなっている。多様化する社会の中で、ケアの対象でもある患者の持つ価値観や期待を理解し、尊重することは益々重要となってきた。同時にケアの実践においては、患者との関係はもちろん、他の保健医療専門職・家族・地域社会と密接に連携していくことが不可欠である。本授業では、専門職として重要な人間関係を築いていくための態度や能力を学び、その知識と技法を実践の場で活かす事を目標に展開する。

到達目標

1. 人間関係を構成する自己と他者について、どの様に捉えているの知る。
2. 人間関係を構築するための理論や技法を知る。
3. 保健医療職としての人間関係について知る。
4. グループワークを通して、学生間の良好な人間関係を構築出来る。

成績評価方法

1. 定期試験・・・50点
2. 小テスト・レポート・・・20点
3. グループワーク・・・10点
3. 授業態度・授業参加度・・・20点

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（授業概要） グループワーク	グループワーク プレゼンテーション
2) 第1章 人間関係の中の自己と他者	グループワーク プレゼンテーション
3) 第2章 対人関係と役割	グループワーク プレゼンテーション
4) 第3章 態度と対人行動	グループワーク プレゼンテーション
5) 第4章 集団と個人	グループワーク プレゼンテーション
6) 第5章 コミュニケーション	グループワーク プレゼンテーション
7) 第6章 カウンセリングと心理療法	グループワーク プレゼンテーション
8) 第6章 カウンセリングと心理療法	グループワーク プレゼンテーション
9) 第7章 コーチング	グループワーク プレゼンテーション
10) 第8章 アサーティブ - コミュニケーション	グループワーク プレゼンテーション
11) 第9章 保健医療チームの人間関係	グループワーク プレゼンテーション
12) 第10章 患者を支える人間関係	グループワーク プレゼンテーション
13) 第10章 患者を支える人間関係	グループワーク プレゼンテーション
14) 第11章 家族を含めた人間関係	グループワーク プレゼンテーション
15) 第12章 地域をつくる人間関係	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
1. 事前課題 2. 読書	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 石野ひろの他 編、(株)医学書院	コミュニケーション論 他

課題に対するフィードバック

小レポートはコメントをつけて返す

備考

授業や・グループワークを通して、自己理解を深め、良好な人間関係を構築するのはどうしたら良いのか、考え行動出来るようにする。  
プレゼンテーションの評価は、グループワークの評価に含んでいる。

科目名	コミュニケーション論（カウンセリングを含む）						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	後期			
担当者名	小山 典子、榎本 俊哉		関連する資格				
<b>授業概要</b> 保健・医療・福祉および学校保健の現場で言語・非言語コミュニケーション活動を展開するにあたって、コミュニケーション論を基本にして、他者との人間関係における自己表現方法を学ぶ。また、援助に必要なカウンセリング概念と基礎的な技術と理論的な背景についてロールプレイと講義を組み合わせ学習する。							
<b>到達目標</b> ・保健・医療・福祉におけるコミュニケーションの重要性と必要性について説明できる ・学校現場におけるコミュニケーションの重要性と必要性について説明できる ・他者との人間関係を良好に保つための技術としての自己表現方法がわかる ・専門職としてかかわる中で必要なコミュニケーション技術とカウンセリングの基本がわかる			<b>成績評価方法</b> レポート及び授業参加度で総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) コミュニケーションとは	
2) コミュニケーションを支える心理 【予習】対人援助職としてのコミュニケーションとは何か考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	グループワーク
3) コミュニケーションを動かす心理 【予習】「感情労働」について調べる（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	グループワーク
4) 親子のコミュニケーション（児童期） 【予習】学校現場（児童期）におけるコミュニケーションとは何か考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	
5) 親子のコミュニケーション（思春期） 【予習】学校現場（思春期）におけるコミュニケーションとは何か考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	
6) アサーション（気持ちを伝える言葉の技術） 【予習】アサーションについて調べる（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	
7) カウンセリングの基本1（相談での心構え） 【予習】「共感的理解」の大切さについて考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	
8) カウンセリングの基本2（相談での言葉の技術） 【予習】臨床現場におけるカウンセリング・マインドの重要性について考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	
9) 児童・思春期心身症の看護とカウンセリング 【予習】児童・思春期の心身症にはどのようなものがあるか調べる（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	グループワーク
10) ディスコミュニケーションとは かかわり合いから生じる誤解を解く 【予習】コミュニケーションのすれ違いはどこからくるのか考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	グループワーク
11) 慢性疾患看護とカウンセリング 【予習】糖尿病患者に対する看護アプローチについて調べておく（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	グループワーク
12) 専門職のためのメンタルケア 【予習】専門職へのメンタルケアの必要性について考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	レポート
13) 専門職のためのメンタルケア 【予習】バーンアウトについて調べる（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	レポート
14) コミュニケーションにおける信頼関係と責任 【予習】信頼関係を築く応答について考える（30分） 【復習】講義内容ふりかえりレポート（60分）	レポート
15) 総括	
授業外学習	
地域社会の情報から特に医療・看護における心理学的なアプローチが必要と思われる事例について関心をもつこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：必要に応じて資料を配布する。 参考書：看護臨床における話す・聴く ケアを実らせるポイントとその実際，上野轟，医学書院	

課題に対するフィードバック

レポートにコメントをつけて返す

備考

科目名	微生物・免疫学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	尾家 重治	関連する資格		

授業概要

感染症は迅速で的確な処置が求められる重要な疾患である。講義では、種々の感染症を起こす病原微生物について、それらの生物学的特性と感染症を起こす仕組みを学ぶ。また、生体の感染防御機構である免疫の仕組みを学ぶ。さらに、感染制御の理論と実践についても学ぶ。

到達目標

- (1) 感染症をおこす病原微生物を知る
- (2) 感染防御の仕組みを理解する
- (3) 感染予防の考え方と方法を理解する

成績評価方法

定期試験  
小テスト  
小レポート  
授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 微生物・免疫学の基礎：なぜ学ぶか、感染と感染症、病原微生物とは、微生物の性質、微生物学の歩み【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
2) 細菌の形と特徴：グラム染色法、細菌の基本的な構造、芽胞とは、病原細菌が増殖する条件と代謝【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
3) 病原微生物の種類、常在微生物叢：ゲノムでわかる生物の進化、病原微生物の大きさや特徴【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
4) 感染と感染症：感染症はどのようにして起こるか、微生物の侵入経路、付着・侵入から発症まで、発症後の経過、細菌の毒素【予習】該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
5) 感染に対する生体防御 - 1：免疫とは、自然免疫の仕組み、自動免疫と獲得免疫【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
6) 感染に対する生体防御 - 2：獲得免疫の仕組み、獲得免疫に働く細胞、抗体の構造と働き、T細胞、アレルギー【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
7) 感染症の基礎：感染に見られる一般的な症状、日本で多く見られる感染症【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
8) 滅菌と消毒-1：滅菌と消毒の意味、滅菌法、消毒薬の種類と使い方、感染症の検査と診断-1：細菌感染症、ウイルスの感染症の検査法を学ぶ【予習】該当単元を読む（30分）【復習】重要事項の自己学習（30分）	
9) 滅菌と消毒-2：滅菌と消毒の意味、滅菌法、消毒薬の種類と使い方、感染症の検査と診断-2：細菌感染症、ウイルスの感染症の検査法を学ぶ【予習】該当単元を読む（30分）【復習】重要事項の自己学習（30分）	
10) 感染症の治療：治療に用いられる薬、耐性菌とは何か 感染症への対策：感染症法とは、感染予防策、ワクチン 【予習】該当単元を読む（30分）【復習】重要事項の自己学習（30分）	
11) 細菌感染症 - 1：ブドウ球菌、連鎖球菌、淋菌、緑膿菌、レジオネラ、百日咳菌、腸炎ピブリオ、インフルエンザ菌とその感染症【予習】該当単元を読んでくる（30分）【復習】重要事項の自己学習（30分）	
12) 細菌感染症 - 2：カンピロバクター、ヘリコバクター、結核菌、破傷風菌、デフィシル菌、梅毒トレポネマとその感染症【予習】30分：【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
13) 細胞内寄生細菌感染症：リケッチアとクラミジアの感染症 真菌・原虫感染症：カンジダ、白癬菌、トキソプラズマの感染症 【予習】該当単元を読む（30分）【復習】重要事項の自己学習（30分）	
14) ウイルス感染症 - 1：エボラ出血熱、デング熱、インフルエンザ、ウイルス性胃腸炎、エイズ、ウイルス性肝炎【予習】該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小レポート
15) ウイルス感染症 - 2：ポリオ、狂犬病、日本脳炎、麻疹、風疹、水痘/帯状疱疹、ヘルペス、乳頭腫【予習】該当単元を読んでくる（30分）【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。</li> <li>・ 授業中に板書する要点や配布する資料は重要事項ですので、授業後には必ず整理し、十分に自己学習を行ってください。小テスト、小レポート、定期試験で理解度や学習意欲を評価します。</li> <li>・ 授業で学んだ該当単元の詳細は、テキストを読んで確認するようにしてください。</li> </ul>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 「微生物学」第12版、医学書院  資料プリントの配布	医療安全管理学 公衆衛生看護学 災害看護学

課題に対するフィードバック

- ・小テスト、小レポートは翌週にコメントをつけて返す
- ・小テストの解説を翌週に行う

備考

科目名	病理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	崔 丹	関連する資格		

授業概要

生体の恒常性が乱れ、その結果生じてくる病理学的変化を理解する。循環器系、呼吸器系、消化器系、神経・運動器系など各臓器の病理、また、代謝、炎症、腫瘍などの病理、さらに老年期疾患の特徴と老化のメカニズム、放射線障害とその防御等について学ぶ。疾患の診断、治療方針の決定などに大きく関わる臨床病理学について説明できる。

到達目標

全身諸臓器の正常構造および働きを理解する。  
病理学総論および循環器系、呼吸器系、消化器系、神経・運動器系などの各臓器の代表的疾患を理解し、説明できる。病理および臨床検査の基礎知識や意義を理解する。

成績評価方法

出席状況、授業態度、レポート、筆記試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 病理学で学ぶこと、先天異常と遺伝子異常、病理診断の実際 病理学が医学や医療のなかでどのような役割を担っているかを理解する。	宿題 授業外レポート
2) 細胞・組織の障害と修復 細胞傷害の原因と機序、組織の修復過程について学ぶ。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
3) 循環障害(1) 浮腫・充血・うっ血・出血・血栓症・梗塞などの局所循環障害を理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	小テスト 授業内レポート
4) 循環障害(2)、代謝障害 全身性循環障害及び代謝障害について学習する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	小テスト 授業内レポート
5) 炎症と免疫、移植と再生医療(1) 炎症と免疫について学び、アレルギーについて理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
6) 炎症と免疫、移植と再生医療(2)、感染症 移植と再生医療を学習する。感染症の一般的な特徴について理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
7) 腫瘍(1) : 腫瘍とはなにか、悪性腫瘍と良性腫瘍の違いなにかおよびがん転移の過程とその経路について理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
8) 腫瘍(2)、老化と死 : がんの発生原因や診断・治療についての最新情報を学ぶ。加齢に伴う身体の変化や死にまつわる様々な問題について正しく理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	小テスト 授業内レポート
9) 循環器系の疾患 血管疾患と心疾患について、その定義と病態を理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
10) 血液・造血器系の疾患 リンパ節の代表的疾患や造血系疾患について学ぶ。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
11) 呼吸器系疾患 気管・気管支・肺の疾患の発症機序、診断について理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	小テスト 授業内レポート
12) 消化器系疾患(1) 口腔・食道・胃の疾患について、その定義と病態を理解する。	宿題 授業外レポート
13) 消化器系疾患(2)、内分泌系の疾患 肝・膵の疾患を学ぶ。内分泌系疾患の全身への影響の仕組みを理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	宿題 授業外レポート
14) 腎・泌尿器系、生殖器系及び乳腺の疾患、目・耳・皮膚の疾患 腎・泌尿器系、生殖器系及び乳腺および目・耳・皮膚の疾患について学ぶ。	宿題 授業外レポート
15) 脳・神経・筋肉系の疾患、骨・関節系の疾患 脳・神経・筋肉系および骨・関節系のおもな疾患について理解する。 【予習】テキスト読んでおく(30分)【復習】授業内容をノートにまとめる(60分)	小テスト 授業内レポート
授業外学習	
毎授業後にはレポート提出すること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 病理学 疾病のなりたちと回復の促進 医学書院	

課題に対するフィードバック

小テスト、授業内レポートについては、翌週ポイントを解説する。

備考

科目名	薬理・薬剤学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	1年	後期
担当者名	尾家 重治	関連する資格		

授業概要

薬物が生体に及ぼす影響と薬理作用について学び、臨床で用いられる医薬品の効果と有害作用・副作用、その薬物の適用と投与方法について学ぶ。個々の薬物の基礎知識、薬物の安全性と認可方法についても学ぶ。各種疾患に対して用いられる薬物の適用方法（目的、作用・副作用、効果判定）、化学療法、輸血療法の具体例について学び、薬物療法と患者の生活の質について理解し、薬物療法における看護職の役割を理解する。

到達目標

薬の効果発現までの過程を理解する。  
 薬の作用・副作用について医師と会話できる。  
 看護上留意すべき薬理効果・副作用について理解する。

成績評価方法

定期試験  
 小テスト  
 小レポート  
 授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) からだの中のくすりの動き 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
2) 薬の効果に影響する因子 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
3) くすりのリスク 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
4) 抗感染症薬 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
5) 抗がん薬・免疫治療薬 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
6) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
7) 末梢神経に作用する薬物 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
8) 中枢神経系に作用する薬物 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
9) 心臓・血管系に作用する薬物 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
10) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
11) 代謝に作用する薬物 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
12) 皮膚科用薬・眼科用薬 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小テスト
13) 消毒薬・救急用薬 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	
14) くすりが出るまで物質 【予習】テキストの該当単元を読んでくる（30分） 【復習】授業ノート・資料を整理し自己学習する（30分）	小レポート
15) 総括 【予習】今までの授業ノートを見直してくる（30分） 【復習】理解が不十分な所を中心に自己学習し、試験に備える（30分）	
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。</li> <li>・授業中に板書する要点や配布する資料は重要事項ですので、授業後には必ず整理し、十分に自己学習を行ってください。小テスト、小レポート、定期試験で理解度や学習意欲を評価します。</li> <li>・授業で学んだ該当単元の詳細は、テキストを読んで確認するようにしてください。</li> </ul>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 「薬理学」 医学書院 2,310円  資料プリントの配布	微生物・免疫学 医療安全管理学

課題に対するフィードバック

- ・小テスト、小レポートは翌週にコメントをつけて返す
- ・小テストの解説を翌週に行う

備考

科目名	栄養学（生化学を含む）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	長坂 祐二	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

栄養状態を改善することは、病気からの回復を促進し、病気の発症・進展を予防する。また、栄養療法（栄養素の補給または制限）により特定の疾患の病態を改善することができる。栄養療法は、すべての患者に必要な基本となる治療方法である。栄養と病態の関係を理解して看護実践に生かすためには、栄養学の基本的な知識を身に付ける必要がある。この授業では、栄養素の種類、構造、機能、吸収、代謝に関する基本的な知識に加えて、栄養ケアマネジメントの視点から栄養療法の実際について学ぶ。

到達目標

1. 食品に含まれる栄養素の種類と機能について説明できる。
2. 栄養素の消化、吸収、代謝について説明できる。
3. 栄養ケアマネジメントの実践方法について説明できる。
4. 主な疾患の栄養療法の原則を説明できる。

成績評価方法

授業態度（20%）  
小テスト（授業期間中に5回実施）（50%）  
定期試験（30%）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							30
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 糖質の種類と機能 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
2) 脂質の種類と機能 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
3) 糖質と脂質の代謝 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
4) アミノ酸・タンパク質の種類と機能 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題 小テスト（第1回）
5) アミノ酸・タンパク質の代謝 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
6) エネルギー代謝 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
7) ビタミン・ミネラルの種類と機能 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題 小テスト（第2回）
8) 核酸の代謝と遺伝子 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
9) 栄養素の消化と吸収 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題 小テスト（第3回）
10) 食品群と栄養素、ライフステージと栄養、日本人の食事摂取基準、国民健康栄養調査【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
11) 栄養ケアマネジメントと栄養アセスメント 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
12) 栄養補給法 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題 小テスト（第4回）
13) 食事療法（1）肥満・メタボリックシンドローム 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
14) 食事療法（2）糖尿病、脂質異常症、高血圧 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題 小テスト（第5回）
15) 食事療法（3）腎疾患、肝疾患、その他の疾患 【予習】テキストの該当部分を読んでおくこと（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を復習すること（30分）	確認問題
授業外学習	
<p>授業外学習は、予習としてテキストの該当部分を読んでおくこと。  復習では、毎回の授業のポイントを確認問題で定着させる。確認問題と小テストの問題文の正誤の理由を自分の言葉で説明できるように復習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト：長坂祐二著「看護師のための栄養学・生化学テキスト」（宇部フロンティア大学出版）第1回目の授業で冊子を配布する。</p>	

課題に対するフィードバック

毎回の授業で提出する確認問題は、次の授業の冒頭で返却し、解答とポイントの解説する。  
小テストは、採点后返却し、解答とポイントを解説する。

備考

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	名尾 朋子、大草 知子	関連する資格		

授業概要

生体の病的状態を、肉眼レベル、顕微鏡レベル、分子レベルで把握し、内科系疾病の原因・発症の機序を理解する。診断・治療についての基礎知識を身に付け、患者を全人的に理解する。「生活の質の向上」のための課題を把握し、適切な看護計画を立てるための基礎知識を修得する。

到達目標

1. 内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 内科的疾患の診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。
3. 患者の「生活の質の向上」のための適切な看護計画を立てる。

成績評価方法

定期試験  
授業外レポート  
授業態度・授業参加度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 腎・尿路系疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書の17～112頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 腎・泌尿器 成人看護学
2) 腎・尿路系疾患の理解：腎障害、腎不全など 【予習】教科書の113～152頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 腎・泌尿器 成人看護学
3) 腎・尿路系疾患の理解：感染症、腎血管性病変、尿路疾患など 【予習】教科書の152～192頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 腎・泌尿器 成人看護学
4) 脳・神経疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書の17～120頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 脳・神経 成人看護学
5) 脳・神経疾患の症状の理解：脳血管疾患など 【予習】教科書の121～161頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 脳・神経 成人看護学
6) 脳・神経疾患の症状の理解：末梢神経障害、脱髄・変性疾患など 【予習】教科書の161～204頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 脳・神経 成人看護学
7) 脳・神経疾患の症状の理解：感染症など 【予習】教科書の205～236頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 脳・神経 成人看護学
8) 循環器疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書の15～120頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 循環器 成人看護学
9) 循環器疾患の理解：弁膜症、先天性心疾患など 【予習】教科書の201～207頁、215～223頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 循環器 成人看護学
10) 循環器疾患の理解：虚血性心疾患、心筋・心膜疾患など 【予習】教科書の121～151頁、207～214頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 循環器 成人看護学
11) 循環器疾患の理解：不整脈、心不全など 【予習】教科書の152～201頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 循環器 成人看護学
12) 呼吸器疾患の症状とその病態 【予習】教科書の19～68頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 呼吸器 成人看護学
13) 呼吸器疾患の検査 【予習】教科書の69～136頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 呼吸器 成人看護学
14) 呼吸器疾患の理解：感染症、間質性肺炎など 【予習】教科書の137～176頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 呼吸器 成人看護学
15) 呼吸器疾患の理解：気道疾患、呼吸不全、肺腫瘍など 【予習】教科書の176～224頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 呼吸器 成人看護学
授業外学習	
適宜、授業外学習としてレポートを提出してもらいます。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座専門分野 成人看護学 呼吸器 系統看護学講座専門分野 成人看護学 循環器 系統看護学講座専門分野 成人看護学 脳・神経 系統看護学講座専門分野 成人看護学 腎・泌尿器 （いずれも医学書院）	人体の構造と機能 看護学概論 疾病論

課題に対するフィードバック

授業外レポートはチェック後返却します。

備考

呼吸器・循環器の講義では、聴診器を持参して下さい。  
トートラ人体解剖生理学を持参して下さい。  
脳・神経疾患講義は、特別講師が担当するため、授業の順番が前後することがあります。

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	名尾 朋子、大草 知子	関連する資格		

授業概要

生体の病的状態を、肉眼レベル、顕微鏡レベル、分子レベルで把握し、内科系疾病の原因・発症の機序を理解する。診断・治療についての基礎知識を身に付け、患者を全人的に理解する。  
「生活の質の向上」のための過大を把握し、適切な看護計画を立てるための基礎知識を修得する。

到達目標

1. 内科的疾患の概念、病態生理、臨床・検査所見を理解する。
2. 内科的疾患の診断・鑑別診断、治療についての基礎知識を学ぶ。
3. 患者の「生活の質の向上」のための適切な看護計画を立てる。

成績評価方法

定期試験  
授業外レポート  
授業態度・授業参加度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	消化器疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書15～139頁の消化管に関する項目を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
2)	消化器疾患の理解：上部消化管疾患 【予習】教科書141～172頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
3)	消化器疾患の理解：下部消化管疾患 【予習】教科書172～210頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
4)	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書15～139頁の肝・胆・膵臓に関する項目を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
5)	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の理解：肝炎、肝硬変など 【予習】教科書210～243頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
6)	肝臓・胆嚢・膵臓疾患の理解：肝不全、肝がん、胆嚢・膵臓疾患 【予習】教科書243～266頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 消化器 成人看護学
7)	内分泌疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書15～79頁の消化管に関する項目を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学
8)	内分泌疾患の理解：視床、視床下部疾患 【予習】教科書81～97頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学
9)	内分泌疾患の理解：甲状腺、副甲状腺、副腎疾患 【予習】教科書97～132頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学
10)	内分泌疾患の理解：糖代謝、脂質代謝異常 【予習】教科書132～187頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学
11)	免疫のしくみ 【予習】教科書15～25、97～102、210～221頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 アレルギー・膠原病感染症 成人看護学
12)	アレルギー疾患の理解：アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎など 【予習】教科書15～46頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 アレルギー・膠原病感染症 成人看護学
13)	膠原病の理解：関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなど 【予習】教科書103～150頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 アレルギー・膠原病感染症 成人看護学
14)	血液・造血器疾患の症状とその病態、検査 【予習】教科書17～51頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 血液・造血器 成人看護学
15)	血液・造血器疾患の理解 【予習】教科書53～143頁を読んでおく（1時間） 【復習】授業内容を復習すること（1時間）	系統看護学講座 血液・造血器 成人看護学
授業外学習		
適宜、授業外学習としてレポートを提出してもらいます。		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座専門分野 成人看護学 血液・造血器 系統看護学講座専門分野 成人看護学 消化器 系統看護学講座専門分野 成人看護学 内分泌・代謝 系統看護学講座専門分野 成人看護学 アレルギー・膠原病感染症 （いずれも医学書院）		人体の構造と機能 看護学概論 疾病論

課題に対するフィードバック

授業外レポートはチェック後返却します。

備考

トートラ人体解剖生理学を持参して下さい。

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(前期)
担当者名	長坂 祐二	関連する資格		

授業概要

外科的侵襲（手術）により治癒する疾患の病態を理解する。これらの疾患は時には急性に増悪・進行し、生命の危機をもたらすことがあるが、外科的治療により危機を脱することができることを学ぶ。外科的治療の適応には、診断後、速やかに判断され、遂行される場合がある。そのため、病態や症状の変化に対する迅速かつ正確な対応が必要である。特に、小児・高齢者では、慎重に対応することが重要である。外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに計画できる知識を学ぶ。

到達目標

1. 外科侵襲によって引き起こされる生体反応のしくみについて説明できる。
2. 外科領域で用いられる基本的な治療方法について説明できる。
3. 術前・術後管理と臨床検査について説明できる。
4. 放射線が人体に与える影響、防護、治療法について説明できる。

成績評価方法

- 授業態度（20%）  
 小テスト（授業期間中に5回実施）（50%）  
 定期試験（30%）

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)	○	○					30	
小テスト、授業内レポート	○	○					50	
宿題、授業外レポート								
授業態度・授業参加度			○		○		20	
プレゼンテーション								
グループワーク								
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 1. 外科侵襲と生体反応 【予習】臨床外科看護総論12～25ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
2) 2. ショック 【予習】臨床外科看護総論63～74ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
3) 3. 麻酔法 【予習】臨床外科看護総論76～101ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
4) 4. 呼吸管理 【予習】臨床検査101～109ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
5) 5. 体液管理 【予習】臨床外科看護総論109～115ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
6) 6. 輸血療法 【予習】臨床外科看護総論124～135ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
7) 7. 外科的基本手技・低侵襲手術 【予習】臨床外科看護総論34～51、144～169ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
8) 8. 臓器移植・人工臓器・再生医学 【予習】臨床外科看護総論169～182ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
9) 9. 周術期管理と臨床検査（1） 【予習】臨床検査104～184ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
10) 10. 周術期管理と臨床検査（2） 【予習】臨床検査187～286ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
11) 11. 周術期管理と臨床検査（3） 【予習】臨床検査286～355ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
12) 12. 放射線の被曝と健康障害 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
13) 13. 放射線治療と防護 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
14) 14. 物理・化学的因子による障害 【予習】臨床外科看護総論34～52、63～71ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
15) 15. 腫瘍と緩和医療 【予習】臨床外科看護総論55～63、136～142ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
授業外学習	
<p>授業外学習は、予習としてテキストの該当部分を読んでおくこと。  復習では、毎回の授業のポイントを確認問題で定着させる。確認問題と小テストの問題文の正誤の理由を自分の言葉で説明できるように復習すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護 総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床検査（医学書院）	人体の構造と機能 疾病論 成人看護学

課題に対するフィードバック

毎回の授業で提出する確認問題は、次の授業の冒頭で返却し、解答とポイントを解説する。  
小テストは、採点后返却し、解答とポイントを解説する。

備考

科目名	疾病論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	通年(後期)
担当者名	長坂 祐二	関連する資格		

授業概要

外科的侵襲（手術）により治癒する疾患の病態を理解する。これらの疾患は時には急性に増悪・進行し、生命の危機をもたらすことがあるが、外科的治療により危機を脱することができることを学ぶ。外科的治療の適応には、診断後、速やかに判断され、遂行される場合がある。そのため、病態や症状の変化に対する迅速かつ正確な対応が必要である。特に、小児・高齢者では、慎重に対応することが重要である。外科的侵襲（手術）を受ける患者に必要な看護計画を速やかに計画できる知識を学ぶ。

到達目標

外科的治療の対象となる主要疾患について、以下の説明ができる。

1. 疾患概念
2. 病態生理と症状の関係
3. 診断に必要な検査と診断基準
4. 主な治療法の概要

成績評価方法

授業態度（20%）  
小テスト（授業期間中に5回実施）（50%）  
定期試験（30%）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					30
小テスト、授業内レポート	○	○					50
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度			○		○		20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	16. 脳神経外科 【予習】臨床外科看護各論368～402ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
2)	17. 呼吸器疾患の外科治療 【予習】臨床外科看護各論8～37ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
3)	18. 循環器疾患の外科治療 【予習】臨床外科看護各論84～140ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
4)	19. 眼科 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
5)	20. 耳鼻咽喉科 【予習】臨床外科看護各論434～443ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
6)	21. 整形外科 【予習】運動器44～185ページとプリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
7)	22. 消化器疾患の外科治療 【予習】臨床外科看護各論172～319ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
8)	23. 泌尿器疾患の外科治療 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
9)	24. 婦人科疾患の外科治療 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
10)	25. 精神・心身疾患 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
11)	26. 内分泌・代謝疾患の外科治療 【予習】臨床外科看護各論444～455ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
12)	27. 小児外科 【予習】臨床外科看護各論480～533ページを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
13)	28. リハビリテーション（1） 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
14)	29. リハビリテーション（2） 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題 小テスト
15)	30. 代替療法 【予習】プリントを読んでくること（30分） 【復習】確認問題の○×の理由を説明できるように復習すること（30分）	確認問題
授業外学習		
<p>授業外学習は、予習としてテキストの該当部分を読んでおくこと。  復習では、毎回の授業のポイントを確認問題で定着させる。確認問題と小テストの問題文の正誤の理由を自分の言葉で説明できるように復習すること。</p>		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護 各論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野 運動器（医学書院）		人体の構造と機能 疾病論 成人看護学

課題に対するフィードバック

毎回の授業で提出する確認問題は、次の授業の冒頭で返却し、解答とポイントを解説する。  
小テストは、採点后返却し、解答とポイントを解説する。

備考

科目名	公衆衛生学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

公衆衛生とは集団の疾病予防や健康の維持・増進を目的とする科学・技術である。本授業では、公衆衛生の概念と基本的な内容を理解することを目的とする。公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、さらに人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。

到達目標

人口変動や疾病構造の変化とその要因を理解する。  
我々の健康生活を支える様々な保健体制の現状を理解する。  
保健・医療・福祉の連携の現状と今後の課題について考える能力を養う。

成績評価方法

定期試験、宿題レポート提出および出席状況により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 公衆衛生を学ぶにあたって 看護学生が公衆衛生を学ぶ意味を理解する 予習]テキストp2～p40を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(30分)	[
2) 公衆衛生のしくみ 「公衆衛生のしくみ」とは何を指すかを知る 予習]テキストp44～p79を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：1～3章までのゼミナール宿題
3) 環境と健康(その1) 環境と健康、生活のつながりを知る 予習]テキストp82～p91を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(30分)	[
4) 環境と健康(その2) 環境保全の大切さを理解する 予習]テキストp92～p107を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：4章のゼミナール宿題
5) 国際保健 国際保健活動の現場と国際保健の使命を知る 予習]テキストp110～p121を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：5章のゼミナール宿題
6) 集団の健康をとらえるための手段(その1) 集団の健康状態を表す指標と意味を知る 予習]テキストp124～p138を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(30分)	[
7) 集団の健康をとらえるための手段(その2) 集団の健康状態に影響を与える要因を見つける方法(疫学)を知る 予習]テキストp138～p145を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：6章のゼミナール宿題
8) 地域保健 A母子保健 母子保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る 予習]テキストp148～p171を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(60分)	[
9) 地域保健 B成人保健 成人保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る 予習]テキストp172～p189を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(60分)	[
10) 地域保健 C高齢者保健 D精神保健 高齢者保健、精神保健分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る 予習]テキストp189～p224を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク：7章のA,B,C,Dのゼミナール宿題
11) 地域保健 E歯科保健 F.難病支援・障害者支援 歯科保健、難病支援、障害者支援分野の対象となる人々・しくみ・活動を知る 予習]テキストp225～p249を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(60分)	[
12) 地域保健 G感染症対策 感染症対策分野の対象となる人々、しくみ、活動を知る 予習]テキストp250～p270を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：7章のE,F,G,のゼミナール宿題
13) 学校と健康 学校保健の目的としくみを知る 予習]テキストp278～p299を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：8章のゼミナール宿題
14) 職場と健康 産業保健の目的としくみを知る 予習]テキストp302～p321を読んでおく(30分)[復習]ゼミナール宿題(60分)	個人ワーク：9章のゼミナール宿題
15) 健康危機管理・災害保健 日本の災害対策体制と災害時の支援を理解する [予習]テキストp324～p338を読んでおく(30分)[復習]理解を深めておく(60分)	[
授業外学習	
授業後に、学習した章のゼミナール(復習と課題)を行い、翌週の授業日に前回までの指定の宿題を提出する。。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座-公衆衛生学(医学書院)、 国民衛生の動向 要点をまとめた資料は毎回配布する。	保健統計、疫学

課題に対するフィードバック

ゼミナールについては翌週に解答する。

備考

科目名	疫学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	前期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格		

授業概要

疫学は、人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分析を明らかにする学問である。授業では、疫学の歴史、概念、役割、及び保健医療活動に必要な疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データの解析の基礎的知識を修得する。地域における疫学的診断、政策立案・実施・評価に必要な保健・医療の調査研究デザインについての基本的な考え方を理解する。保健師国家試験受験に際して必須の科目である。

到達目標

疫学の定義、歴史的事例を説明することができる。  
有病率、罹患率等の保健統計指標の意義を理解する。  
疫学研究の方法を習得する。  
看護研究、地域診断など代表的なデータについて事例を示すことができる。

成績評価方法

定期試験、個人ワーク(宿題)、プレゼンテーションおよび出席状況により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							5
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 疫学概念、疫学紹介 [予習]テキストのp2～p6までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
2) 集団の健康状態の把握：有病率、罹患率、致命率、暴露効果の指標 [予習]テキストのp8～p16までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
3) 疫学的研究方法（その1）：観察研究、コホート研究 [予習]テキストのp18～p33までを読んでおく(60分) [復習]今日の理解を深める(60分)	個人ワーク：相対危険、寄与危険、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合に関する演習問題
4) 疫学的研究方法（その2）：症例・対照研究、交絡、誤差 [予習]テキストのp34～p35、p41～p50までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(60分)	個人ワーク：オッズ比に関する演習問題
5) 疫学的研究方法（その3）：介入研究、無作為化対照試験 [予習]テキストのp36～40までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
6) 疫学における因果関係の立証、アウトブレイク時の疫学調査：時間的関係、関連の強固性、量-反応関係など [予習]テキストのp51～p57までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
7) スクリーニングの目的、要件、評価 [予習]テキストのp60～p64までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(60分)	個人ワーク：敏感度、特異度、陽性反応的中率に関する演習問題
8) 人口統計の基礎：人口静態統計、人口動態統計、年齢調整死亡率、生命表 [予習]テキストのp144～p154までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(60分)	個人ワーク：年齢調整死亡率の算出に関する演習問題
9) 疾病登録の意義と目的 [予習]テキストのp66～p72までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(60分)	次週のプレゼンテーションの準備
10) 主な疾患の疫学（その1）：母子保健の疫学、主な疾患（がん、心血管疾患、糖尿病など）の疫学 [予習]テキストのp76～p84までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(60分)	次週のプレゼンテーションの準備
11) 主な病疾患の疫学（その2）：難病、精神疾患、感染症、事故、学校・産業保健、環境の疫学 [予習]テキストのp85～p95までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
12) 疫学と公衆衛生看護：社会疫学、政策疫学、臨床疫学 [予習]テキストのp98～p106までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
13) 保健統計学の基礎（その1）：データの種類の分布、代表値と散布度、確率分布 [予習]テキストのp107～p123までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
14) 保健統計学の基礎（その2）：統計分析、検定、帰無仮説、有意水準、p値 [予習]テキストのp124～p141までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
15) 保健統計調査、保健医療情報の管理・活用：基幹調査、疾病・傷害の定義と分類、保健医療情報の収集 [予習]テキストのp170～p182までを読んでおく(30分) [復習]今日の理解を深める(30分)	
授業外学習	
個人ワークの演習問題は、次回の授業時に提出すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準保健師講座（疫学・保健統計学）、医学書院</li> <li>・統計学の基礎（2年時の保健統計で使用した教科書）</li> <li>・国民衛生の動向</li> <li>・要点や演習をまとめた資料は毎回配布する。</li> </ul>	公衆衛生学、保健統計

課題に対するフィードバック

個人ワークの疫学演習については翌週コメントをつけて返す。

備考

電卓を用意する。

科目名	保健統計			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	岩本 美江子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

保健統計は保健・医療・看護の分野での問題を考えていく上で必要な統計学の基礎を理解し、保健情報や看護研究、疫学を学ぶのに応用できる科目である。授業では、基礎的な統計学の知識を説明し、さらに、あるデータが得られた時にどのような統計方法が使えるか（使うべきか）、またその統計処理した結果をどう読み取るかを説明する。またパソコン（エクセル）によるデータ分析を実習する。さらに人口静態統計、人口動態統計の基礎的なものを理解する。3年前期で学ぶ疫学に継続する科目である。

到達目標

統計学の基礎となる確率・分布理論が理解できる。  
測定データから適切な検定方法を選び実行することができる。  
エクセルを使用してデータ処理や統計的検定ができる。  
統計分析結果を読み取ることができる。  
人口静態、人口動態統計値の基本を理解することができる

成績評価方法

定期試験（中間試験も含む）、授業外レポート（個人ワーク）、および出席状況により総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 統計学とは：ばらつき、2つの機能 [予習]テキストp10～p20を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	
2) 記述統計：標本の分布、正規分布、分散、標準偏差、変動係数、四分位数 [予習]テキストp21～p46を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
3) 検定の原理、母平均の検定：統計的仮説検定、帰無仮説、対立仮説、片側検定、両側検定、第1種の過誤( ), 第2種の過誤( ), Z検定 [予習]テキストp48～p53を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	
4) 関連2群の差の検定(その1)：1標本t検定(パラメトリック法) [予習]テキストp56～p66を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	
5) 関連2群の差の検定(その2)：1標本ウイルクソン検定(ノンパラメトリック法)、対応のある検定 [予習]テキストp70～p76を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
6) 独立2群の差の検定(その1)：2標本t検定(パラメトリック法)、対応のない検定、等分散性の検定(F検定) [予習]テキストp78～p91を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	
7) 独立2群の差の検定(その2) マンフイットニ-U検定(ノンパラメトリック法) [予習]テキストp92～p101を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
8) 出現度数に関する検定(2検定) 2適合度の検定、2独立性の検定 [予習]テキストp114～p140を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
9) 中間テスト [予習]これまでの範囲の予習(120分) [復習]問題の復習(60分)	テスト
10) 中間テストの復習	
11) 独立多群間の比較(パラメトリック検定) 多群間の同時比較が必要な場合、一元配置分散分析(ANOVA) [予習]テキストp142～p147を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
12) 相関係数(2つの変量の関連の強さ)と回帰分析 [予習]テキストp162～p188を読んでおく(30分) [復習]理解を深めておく(60分)	個人ワーク
13) パソコンによる統計実習 エクセルの分析ツールを用いての演習	パソコン実習
14) 統計図表の分類、人口静態・動態統計 [予習]国民衛生の動向の人口静態・動態をみておく(60分)	
15) 統計のまとめ	
授業外学習	
個人ワークでは、授業日の例題の一部を宿題とし、次週提出する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市原清志編 カラーイメージで学ぶ統計学の基礎(日本教育研究センター)</li> <li>・国民衛生の動向</li> <li>・要点や演習をまとめた資料は毎回配布する。</li> </ul>	疫学

課題に対するフィードバック

個人ワークの統計問題については、翌週採点して返す。

備考

電卓を用意する。

科目名	社会保障論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	後期
担当者名	西田 隆	関連する資格		

授業概要

社会保障とは、人が長い人生を生きていくうえで、個人の自助努力だけでは、通常の生活を送ることができなくなるような社会的要因が生じたときに、安心した生活を保障するために創設された社会的制度である。本講義では、社会保障の概念を学び、これを基盤に、日本の代表的な社会保障の具体的な制度について学習する。

到達目標

- ・ 社会保障の意味を理解する
- ・ 社会保障の理念を理解する
- ・ 日本の具体的な社会保障制度の概要を理解する

成績評価方法

学期末の筆記試験を中心に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 社会保障論とは：社会保障の目的、歴史、仕組み 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
2) 公的医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
3) 公的医療保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
4) 介護保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
5) 介護保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト レポート
6) 年金保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
7) 雇用保険、労働災害補償保険 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
8) 演習 【復習】配布資料の再読（30分）		小テスト
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
新聞やニュースなどで、社会保障に関する事項がないか注意し、見つけたら、内容を精査してください。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
授業時間の配布資料		

課題に対するフィードバック

レポートは翌週コメントをつけて返す。

備考

科目名	社会福祉論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	前期			
担当者名	蔵本 満敦		関連する資格	看護師、保健師、養護教諭			
<b>授業概要</b> <p>現在、わが国では、疾患や障害を抱えていても住み慣れた地域で、安心して生活し続けることを目標にさまざまな制度・政策が展開されている。こうした疾患や障害を抱えている人を、1人の人間というトータルな存在として支えていくためには、保健、医療、福祉サービスの連携が必要である。こうした状況のなか、看護職（看護師、保健師、養護教諭）が社会保障や社会福祉の制度を理解することの重要性が高まってきている。</p> <p>本講義は、社会福祉に関する知識を体系的に理解して、その知識を実践（演習・看護学実習・就職や業務）の際に活かせることを目標に実施する。</p> <p>授業はテキストを中心に進め、グループワーク、宿題により理解を深めたい。</p>							
<b>到達目標</b> 社会福祉の必要性、実施体制、職種が説明できる。 社会福祉に関する諸課題について、法律、施策が説明できる。 社会保障制度の内容について説明できる。 多職種連携やチームケアについて、自分の意見を述べるができる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験...50点 宿題...25点 グループワークの態度・貢献度...25点				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							25
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション（授業概要） グループワーク：担当者が用意した課題について話し合う	グループワーク
2) 社会福祉・社会保障の歴史と社会福祉の担い手 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	宿題
3) 子ども・家庭と福祉 【予習】児童虐待について調べる（60分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
4) ドメスティック・バイオレンス 【予習】DVについて調べる（60分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
5) 障害児・者と福祉 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
6) 高齢者と福祉 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
7) 年金制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
8) 医療保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
9) 医療保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
10) 介護保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
11) 介護保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
12) 雇用保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
13) 労災保険制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
14) 生活保護制度 【予習】テキストの該当ページを読み、わからない語句の意味を調べる（30分） 【復習】提示する課題に対し回答案を作成する（60分）	グループワーク 宿題
15) ゲストスピーク：医療ソーシャルワーカーの講話（予定）	
授業外学習	
<p>予習は、テキストの該当ページを読んでおくこと。はじめて見る語句については調べておくことが望ましい。別途、予習の内容を指示することがある。復習は、授業に関連する課題を提示するので翌週の授業までに回答案を作成すること。</p> <p>学んだ内容が、看護師・保健師・養護教諭の国家試験にどのような形式で出題されるのか、過去問題集などで確認する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：『健康支援と社会保障 社会福祉と社会保障』 メディカ出版	社会保障論、保健医療福祉行政論 各領域の看護学実習

課題に対するフィードバック

宿題は、翌週の授業の際に、グループワークのテーマの1つとして取り上げ、担当教員がコメントし、受講者全員で共有する。

備考

科目名	保健医療福祉行政論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	田中 逸夫	関連する資格	保健師	

授業概要

国民の健康な生活をめざした保健・医療・福祉行政を体系的に理解し、地域の健康問題の改善にむけて保健師活動を効果的に推進するための立案プロセスについて学習する。

到達目標

- 1 保健医療福祉行政の制度の変遷・役割・仕組みを理解する。
- 2 社会保障制度全般の概要を理解する。
- 3 保健・医療・福祉の制度を体系的に理解する。
- 4 保健医療福祉計画策定から計画推進・評価まで、具体的に理解する。
- 5 保健事業の立案プロセスを理解する。

成績評価方法

期末定期試験、小テスト、授業外レポート、授業への意欲・態度により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							65
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(1)【テキストP1~P16】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	
2) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(2)【テキストP17~P52】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分) 更に、授業外レポート課題?作成(5時間程度)	授業外レポート課題 (1)2)関係)
3) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(3)【テキストP53~P73】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	
4) 保健医療福祉行政のねらいと制度の変遷(4)【テキストP74~P86】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分) 更に、小テスト?の範囲を復習する(90分)	
5) 社会保障制度【テキストP87~P94】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	小テスト (3)4)関係)
6) 医療提供体制【テキストP95~P113】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	
7) 介護保険制度【テキストP114~P125】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分) 更に、小テスト の範囲を復習する(90分)	
8) 社会保障・社会福祉の制度(1)【テキストP126~P131】( 年金保険) 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	小テスト (5)6)7)関係)
9) 社会保障・社会福祉の制度(2)【テキストP131~P136】( 雇用保険と労働者災害補償保険)( 公的扶助) 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	
10) 社会保障・社会福祉の制度(3)【テキストP136~P142】( 児童家庭福祉)( 高齢者福祉) 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	
11) 社会保障・社会福祉の制度(4)【テキストP142~P148】( 障害者福祉)( 成年後見制度) 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分) 更に、小テスト の範囲を復習する(90分)	
12) 地域保健の体系(1) 地域保健に関する公的機関【テキストP149~P168】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)	小テスト (8)9)10)11)関係)
13) 地域保健の体系(2) 関係機関との連携【テキストP169~P173】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分)更に、 テキスト全体の復習をする(90分)	
14) 保健医療福祉の計画と評価(1)【テキストP175~P203】 【予習】今回の授業の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の授業の所を復習する(40分) 更に、 テキスト全体の復習をする(90分)	
15) 保健医療福祉の計画と評価(2)【テキストP204~P223】総括(保健医療福祉行政のまとめ) 【予習】今回の所を予め見ておく(20分)【復習】今回の所を復習する(40分) 更に、 期末定期試験対策として全体の復習をする(6時間程度)	
授業外学習	
復習をキチンとすること。( 授業外レポート、 小テスト準備に、身を入れて取り組むこと。)	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
【テキスト】標準保健師講座 別巻1、保健医療福祉行政論、医学書院【参考書】 系統看護学講座 専門基礎分野9社会福祉、医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野10看護関係法令医学書院 国民衛生の動向、(財)厚生統計協会 国民の福祉の動向、(財)厚生統計協会 社会保障入門、厚生労働省大臣官房政策課、中央法規	社会保障論、福祉入門、公衆衛生学

課題に対するフィードバック

- 1 授業外レポート課題? ; 翌週に概括説明・コメントをする
- 2 小テスト?~ ; 翌週に概括説明をする

備考

科目名	医療経済論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	前期
担当者名	原田 博子	関連する資格		

授業概要

医療サービスの経済的特殊性、人々の保健行動・受療行動分析・医療保険の理論、医療供給と資格制度、医療・看護サービスの経済的評価とその方法、経済発展と国民の健康水準との関連等について学ぶ

到達目標

1. 医療経済の現状と課題について説明できる
2. 医療・看護を取り巻く社会経済的視点について説明できる。

成績評価方法

小テスト、グループワークとプレゼンテーション、課題レポートにより評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 保険医療制度と提供体制からなる日本の医療制度【予習】日本の医療制度の仕組みと課題を調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
2) 医療保険と介護保険の給付の類似点と相違点【予習】日本の介護保険制度の仕組みと課題を調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
3) 資源の獲得と配分 【予習】なぜ看護師に資源の獲得の考えが必要か調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	
4) 資源の獲得と配分 【予習】資源の配分の仕方について調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
5) 管理者が理解しておきたい診療報酬制度の課題とその処方箋【予習】外来受診状況を調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
6) 診療報酬につながる看護の技術【予習】治療や薬の値段を調べてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
7) コスト管理と物品管理SPDシステムと物品にかかる費用【予習】自分の1ヶ月の家計とその課題を考えてくる45分【復習】資料のまとめノートの作成45分	小テスト
8) グループワーク前回の資料を元にひとつの行為をするためにどの位の費用が必要か計算する。プレゼンテーション【予習】前回の資料を見た感想が発表できるようにしておく45分【復習】授業中に指示されたテーマのレポート作成45分	レポートの提出
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
事前学習45分：教科書を事前に読んで授業に参加すること。事後学習45分：授業で不明だった言葉を調べる。さらに、授業では触れなかった教科書の内容を読んでおくこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
参考書：看護経営・経済論、日本看護協会出版会 看護関係法令：医学書院 社会保障・社会福祉 医学書院	社会保障・社会福祉、看護管理、看護学概論

課題に対するフィードバック

備考

科目名	看護学概論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	1年	前期			
担当者名	狩野 京子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 看護の基本概念を踏まえて看護学の知識体系の思考過程と専門職としての看護の機能と役割について学修する。看護活動の対象である人間を、健康から死、成長・発達、ライフサイクル、生活主体としての側面から考察し、ニーズの充足と自立、適応に焦点を当てた看護活動について学ぶ。看護の基本は患者、クライアントと生活者である人の苦痛を軽減し、安全・安楽・自立を確保し、環境を整え安寧を保障することである。生命倫理（尊厳死、脳死、臓器移植、生殖医療など）・人間の尊厳や基本的人権を基盤に看護活動を展開することである。看護学の創造のため大学では看護学の歴史、患者の権利をめぐる歴史の変遷など温故知新を学修する。さらに、看護師のジレンマ、インフォームド・コンセントと意思決定、個人情報とプライバシーの保護、緩和医療、看護師の法的責任や倫理的行動規範など看護行為を支える看護倫理について概要を学び、次世代の看護システムを考察する基礎を創る。							
<b>到達目標</b> 1．看護の主要概念である人間、健康、環境、看護について口頭で説明できる。 2．保健医療提供システムにおける看護の役割と機能について口頭で説明できる。 3．看護に関連する法と制度、看護実践の基準の概要を文章で記載することができる。 4．看護学の歴史を学び、過去、現在、未来の方法論について考察することができる。 5．看護倫理について考えることができる。 6．看護職に必要な書く力（レポート、記録）の基礎を学修し技術を獲得することができる。 7．チーム医療のために必要なグループワークの方法論、実践の基礎を学ぶ。 8．生活と環境に関する疑問を明確にするための思考法と解決のための文献検索力、プレゼンテーション力の基礎を学修する。 9．看護に必要なコミュニケーション力を学修する。			<b>成績評価方法</b> 定期試験、レポート、態度、グループワーク、プレゼンテーションにより評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 看護学概論ガイダンス（学修方法、単位認定ならびに評価法、講義計画）、生活体験と看護 教科書はすべて持参すること（学修の方法も教授）	
2) 看護学とは何か：看護とは？看護学とは？看護学を構成する主要概念とその構造 ヒロカワ：P.1-11 「看護者の基本的責務」：P.4-9	
3) 看護とは何か：看護の定義と看護理論（理論とは、理論の発展の経過、理論の枠組みとなった他の学問領域の理論） ヒロカワ：P.11-28	
4) 看護の歴史：時代と看護の変遷 ヒロカワ：P.30-57	
5) 看護の対象としての人間：生活者としての人、発達・変化する人間 ヒロカワ：P.60-101	
6) 健康と看護：健康の概念と看護の目標、人々の健康状態、 ヒロカワ：p.104-122	
7) 健康と看護：ナイチンゲールの提唱した看護 ヒロカワ：p.104-122 「現代に読み解くナイチンゲール 看護覚え書き」を熟読して講義に臨む、持参	授業外レポート、グループワーク
8) 健康と看護：ヘンダーソンの提唱した看護 ヒロカワ：P.104-122 「看護の基本となるもの」を熟読して講義に臨むこと、持参	授業外レポート、グループワーク
9) 生活と環境：調査（研究）の意義と目的、看護実践・理論・研究の関連性 ヒロカワ：P.262-269	
10) 生活と環境：研究方法論（研究デザイン、文献検索法） ヒロカワ：P.262-269	グループワーク
11) 生活と環境：調査の実施 ヒロカワ：P.262-269	グループワーク
12) 生活と環境：調査のまとめ ヒロカワ：P.262-269	グループワーク
13) 生活と環境：発表準備 ヒロカワ：P.262-269	グループワーク
14) 生活と環境：調査の発表 ヒロカワ：P.262-269	プレゼンテーション
15) 生活と環境：調査の発表 ヒロカワ：P.262-269	プレゼンテーション
16) 保健医療システムと看護：保険医療提供システム、保健医療の提供とチーム活動 ヒロカワ：P.124-148	
17) 看護の機能と業務：看護に関する法的責任、看護の機能、業務 ヒロカワ：P.150-169 「看護者の基本的責務」を熟読して講義に臨むこと、持参	
18) 看護活動とは：看護実践の基準 ヒロカワ：P.162-189	グループワーク
19) 看護活動の過程：看護診断過程、看護診断の共通用語と診断基準の開発、看護実践過程 ヒロカワ：P.170-189	
20) 看護管理：看護管理の目的と過程、看護関連の法と制度 ヒロカワ：P.192-217	

21) 看護管理:看護サービスにおけるマネジメント ヒロカワ:P.218-236	
22) 看護倫理 ヒロカワ:P.238-245 「看護者の基本的責務」も持参	
23) 看護倫理 ヒロカワ:P.246-259 「看護者の基本的責務」も持参	
24) 災害看護 ヒロカワ:P.272-283	
25) 国際看護 ヒロカワ:P.284-293	
26) 医療現場でのコミュニケーション:患者 看護師関係とコミュニケーション 医学書院の基礎看護技術 基礎看護学 のP.18-P.62	授業外レポート
27) 医療現場でのコミュニケーション:プロセスレコード 医学書院の基礎看護技術 基礎看護学 のP.18-P.62	グループワーク
28) 医療現場でのコミュニケーション:ロールプレイング 医学書院の基礎看護技術 基礎看護学 のP.18-P.62	グループワーク、演習
29) 医療現場でのコミュニケーション:医療者間でのコミュニケーション	グループワーク
30) 看護とは何か: 看護観の変化、看護実践にむけて	グループワーク 授業外レポート

授業外学習

1. 該当するテキストの単元を事前に読んで上で授業に参加する。
2. 提示した課題について、レポートを作成し、期限までに提出する。
3. グループワークでは、主体的に意見交換やプレゼンテーションを行う。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1.松木光子編:看護学概論 看護とは・看護学とは 第5版 ヌーヴェルヒロカワ 2.フローレンス・ナイチンゲール著/小 玉香津子他訳:看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 3.ヴァージニア・ヘンダーソン著/湯楨 ます他訳:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 4.看 護者の基本的責務2017年版 手島恵監 日本看護協会出版会	基礎看護方法論 ・、基礎看護方法演習 ・、基礎看護 学実習 ・、臨床看護総論、看護理論、看護管理学、災害 看護論、国際看護論

課題に対するフィードバック

--

備考

--


科目名	看護理論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	佐藤 美幸		関連する資格	看護師国家試験受験資格			
<b>授業概要</b> 看護学の基盤としての看護理論を学ぶことにより、「看護とは何か」を学問的・科学的に捉え、看護理論を実践や研究に結び付けていくことの意義を認識する。 看護理論家の理論を知る上で必要な概念や理論の構造について学習したうえで看護の諸理論を学び、その理論の特徴を的確に捉え、さらに看護実践や研究の中でどのように活用されているかを学ぶ。							
<b>到達目標</b> 看護理論とはどのようなものかを説明できる 理論の範囲とその適用について述べるができる 看護の主要概念について述べるができる 主な看護理論の概要と特徴を説明できる 看護理論と看護実践、看護過程、看護研究の関係を述べるができる			<b>成績評価方法</b> 定期試験（80％）、レポート（20％）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)	○	○	○				80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 理論とは何か、看護理論とは何か、なぜ看護理論が必要か （配布されたプリントをもとに復習する（15分））	
2) 看護理論開発の歴史、看護モデルと医学モデル （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
3) 理論の機能と構成要素、基本的な特徴、看護理論の範囲 （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
4) 看護理論の共通要素（4大概念） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	グループワーク
5) 看護理論の評価、看護理論の有効性と限界 （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
6) 看護の諸理論1（オラト、アデラ、ウィデンバック） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
7) 看護の諸理論2（ロム） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
8) 看護の諸理論3（ロイ） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
9) 看護の諸理論4（ヘア、トリス） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
10) 看護の諸理論5（キグ、ロジャーズ） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
11) 看護の諸理論6（ワリ、ヘナ） （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
12) 看護理論と研究と実践との関係 （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
13) 看護理論と看護過程 （事前配布の該当ページを予習する（15分））	
14) 看護とは何か1 （「看護の力」を読みレポートを作成する（事前に課題を提示するため、予習として180分））	グループワーク レポート作成（授業時間内にコメントをする）
15) 看護とは何か2 （「看護の力」を読みレポートを作成する（事前に課題を提示するため、予習として180分））	グループワーク レポート作成（授業時間内にコメントをする）
授業外学習	
事前配布のプリントはすべて目を通して授業に臨むこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリント配布 看護の力：川嶋みどり著、岩波新書	看護学概論

課題に対するフィードバック

グループワークに利用し、授業内でコメントを行う。

備考

科目名	基礎看護方法論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	前期			
担当者名	橋本 茂子、狩野 京子、金子 真弓		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> < 授業の目標 > 看護の対象となる人々との援助関係を形成する方法を学習するとともに、最も基礎的な日常生活上の看護実践の技術について、安全・安楽・自立の視点から看護技術の考え方や構造について学ぶ。また、根拠に基づいた看護を提供するために、理論的背景や先行研究を活用することが必要であることを認識する。最終的には、個人の生活を把握し、健康的な日常生活行動を促進する援助技術について学ぶ。  < 授業形態 > 講義・演習							
<b>到達目標</b> 1. 看護における技術の重要性を説明できる。 2. 日常生活援助技術における基礎的な知識を説明できる。 3. 日常生活援助技術を安全・安楽・自立の視点で考えることができる。 4. 看護における観察およびコミュニケーションの意義と目的を説明できる。 5. 標準予防策を正確に実施できる。 6. ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換・ベッドメイキングを実施することができる。 7. バイタルサイン測定・意識レベルの観察が正確に実施できる。			<b>成績評価方法</b> 定期（筆記）試験（60％）、技術試験（30％）、課題レポート（10％）により総合的に評価する。但し、定期（筆記）試験・技術試験、課題レポートはそれぞれ60％以上を得ていることが単位認定の条件です。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							30
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 基礎看護技術の基盤（講義） 看護における観察、コミュニケーションの意義と目的・構成要素と成立過程	教科書 P2～58を事前に読んでおく
2) 環境の調整技術（講義） 環境の意義、病室内環境と病床内環境、病床の作り方と整備、医療安全の確保、感染防止の基礎知識、標準予防策（手指衛生、個人防護用具）	教科書 P2～24、422～435を事前に読んでおく
3) 活動・休息援助技術（講義） 基本的活動の援助技術（体位、体位変換、ポジショニング、褥創予防、ボディメカニクス）、睡眠と休息の援助、実習室の使用方法	教科書 P94～115、P277～284、P127～143を事前に読んでおく
4) 標準予防策（手指衛生、個人防護用具）、環境整備（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
5) ベッドメイキング、シーツ交換の技術（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
6) 活動・休息援助技術：体位変換、ポジショニング、ボディメカニクス（演習）	事前課題・事後課題を提出する グループ分かれて演習を行う。
7) 活動・休息援助技術：車イス・ストレッチャーでの移動・移乗・移送（講義）	教科書 P115～126を事前に読んでおく
8) 活動・休息援助技術：車イス・ストレッチャーでの移動・移乗・移送（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
9) ヘルスアセスメント（講義） ヘルスアセスメントとは、体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態に関する基礎知識と測定方法	教科書 P60～107を事前に読んでおく
10) アネロイド血圧計を用いた血圧測定（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
11) バイタルサイン測定（体温・脈拍・呼吸・血圧・意識状態）（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
12) ヘルスアセスメント（講義） 健康歴とセルフケア能力のアセスメント、視診・触診・打診・聴診 計測とは、計測の実際（身長・体重・皮下脂肪・腹囲）	教科書 P60～122を事前に読んでおく
13) 身体計測（身長・体重・皮下脂肪・腹囲）（演習）	事前課題・事後課題を提出する。 グループ分かれて演習を行う。
14) 実技試験：バイタルサイン測定	技術が確実に身につくように、自己練習を十分にしておく。
15) 実技の確認：バイタルサイン測定	技術が確実に身につくように、自己練習を十分にしておく。

授業外学習

看護技術を身につけることは、看護者の責務ですが、授業時間内に経験しただけで自分の技にすることは困難です。クラスメイトと協力しあい、個々の能力を高める努力をしてください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
1. 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 基礎看護学 医学書院 2. 茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術 基礎看護学 医学書院 3. 吉田みつ子：写真でわかる 実習で使える看護技術 アドバンス インターメディカ 2017	看護学概論

課題に対するフィードバック

備考

科目名	基礎看護方法演習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	橋本 茂子、狩野 京子、金子 真弓		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> 看護に共通する技術である人間関係を発展させる技術、安全・安楽の技術、情報収集と観察の技術を基盤に、人間の営みである日常生活の基本的欲求である食事、排泄、清潔への援助技術、そして、安楽促進への援助技術について、講義、演習をとおして修得する。演習においては、患者役、看護師役を行い実施する。看護師役を体験していくなかで、相手の立場に立ち、相手を思いやる態度や行為を養う。これらのことから日常生活援助技術の目的・必要性・期待される効果を認識し、科学的根拠と観察に基づく援助技術を提供できることを学ぶ。							
<b>到達目標</b> 1. 看護における日常生活援助の意義について言える。 2. 基礎的な日常生活援助技術が科学的根拠に基づき安全・安楽、自立をめざして、かつ効率的に実施できる。 3. 安楽をもたらす体位保持、電法およびリラクゼーション技法について言える。 4. 安楽をもたらす体位保持、電法の援助方法を修得できる。 5. 栄養と食事に関する基礎知識について言える。 6. 食事摂取への援助方法を修得できる。 7. 口腔ケアの基本技術を修得できる。 8. 排泄援助の基礎知識について言える。 9. 排泄行動をとれない人への援助方法を修得できる。 10. 清潔援助の基礎知識について言える。 11. 清潔を維持するための援助方法を修得できる。 12. 身体安楽への促進、および、食事、排泄、清潔援助技術の実施前、実施中、実施後のアセスメントができる。 13. 看護技術を支える態度を養うことができる。 14. 学修の成果をグループで意見交換を行うことができる。				<b>成績評価方法</b> 実技試験45%、定期試験35%、事前課題・事後課題15%、授業への意欲・態度5%は、事前課題・事後課題の提出、演習での姿勢や態度（身だしなみ、言葉遣い）で評価する。 ルーブリックで評価する 2/3以上の出席がないと、受験資格が、あたえられない。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					35
小テスト、授業内レポート	○	○	○		○		
宿題、授業外レポート	○	○	○	○	○		15
授業態度・授業参加度	○				○		5
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○	○	○		
演習		○	○	○	○		45
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 日常生活援助技術とは 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法、リラクゼーション法【予習テキスト】p138～150、p277～284 30分【復習】演習の事前課題 30分	
2) 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法	演習・グループワーク
3) 苦痛の緩和・安楽確保の技術：体位保持（ポジショニング）、電法 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
4) 食事援助技術：食事援助の基礎知識（食事状態および食欲・摂取能力のアセスメント、医療施設で提供される食事）、食事介助、摂食・嚥下訓練、口腔ケア 【予習テキスト】p26～47、p195～242 30分【復習】演習の事前課題 30分	
5) 食事援助技術：食事介助、口腔ケア	演習・グループワーク
6) 食事援助技術：食事介助、口腔ケア 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
7) 排泄援助技術：自然排尿および自然排便の基礎知識、自然排尿および自然排便の介助の実際、おむつ交換、陰部洗浄 【予習テキスト】p58～73、p185～188 30分【復習】演習の事前課題 30分	
8) 排泄援助技術：床上排泄の援助（尿器・便器、おむつ交換）	演習・グループワーク
9) 排泄援助技術：床上排泄の援助（尿器・便器、おむつ交換）	演習・グループワーク
10) 排泄援助技術（清潔の援助技術）：陰部洗浄 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
11) 清潔・衣生活の援助技術：清潔の援助の基礎知識 ：入浴、シャワー浴、手浴、足浴、フットケア 【予習テキスト】p152～164、p179～184 30分【復習】演習の事前課題 30分	
12) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換、洗髪、整容、洗面、眼・耳・鼻の清潔【予習テキスト】p164～179、p188～189、p202～211 30分 【復習】演習の事前課題 30分	
13) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換、洗髪、整容、洗面、眼・耳・鼻の清潔【予習テキスト】p164～179、p188～189、p202～211 30分 【復習】演習の事前課題 30分	
14) 清潔・衣生活の援助技術：足浴、リラクゼーション	演習・グループワーク
15) 清潔・衣生活の援助技術：足浴、リラクゼーション 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
16) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換	演習・グループワーク
17) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換	演習・グループワーク
18) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換	演習・グループワーク
19) 清潔・衣生活の援助技術：全身清拭、寝衣交換 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
20) 清潔・衣生活の援助技術：洗髪、整容	演習・グループワーク

21) 清潔・衣生活の援助技術：洗髪、整容 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
22) 清潔・衣生活の援助技術：手浴 日常生活援助技術のまとめ 【復習】演習の事後課題 30分	演習・グループワーク
23) 実技試験	実技試験
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

#### 授業外学習

授業計画に沿って、予習をする。専門用語などが分からない時は調べる。  
予習、事前、事後の課題学修では人体の構造と機能などの学修を並行する。  
講義や課題、事前のDVD視聴により援助技術のイメージ化ができるようにして、演習に臨むようにする。  
演習後は、実施したことを評価できるように学修する。  
演習後に国家試験問題を解き、学修への意欲をもつようにする。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
任 和子他,系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学、医学書院、2018 茂野香る他,系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学、医学書院、2019 吉田みつ子、本庄恵子編、写真でわかる 実習で使える看護技術 改訂第2版、インターメディカ、2017	基礎看護方法論 基礎看護学実習 基礎看護方法論 基礎看護学実習

#### 課題に対するフィードバック

演習直前に事前学修を返却する。事前学修は演習で活用する。  
毎回の演習では、看護技術のチェックリストを配布する。  
演習で実施した内容をレポートした事後課題は、各看護技術（ポジショニング、食事、排泄、清潔）の終了ごとに返却する。

#### 備考

基礎看護学実習 の履修に、本科目の単位認定が必要である。


科目名	基礎看護方法論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	1年	後期			
担当者名	狩野 京子、金子 真弓、橋本 茂子		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> 対象の身体に侵襲を伴う看護について、安全・安楽・安心を提供するための基本的な知識と技術を学ぶ。また、根拠に基づいた看護を実践することから理論的背景や先行研究を活用する。最終的には、個人の生活と健康状態との関連から、対象者のニーズに合わせた診療の補助技術を提供できるための知識、技術と態度を養う。							
<b>到達目標</b> 1．検査・治療を受ける対象の安全・安楽・安心を考慮した看護の役割を口頭で説明できる。 2．検査・治療を受ける対象に必要な看護技術の基本的な知識を習得する。 3．検査・治療を受ける対象への基本的な看護技術を原理・原則に基づき、人権に配慮して実践できる。 4．常に最善で最適な看護技術を探求する気持ちで講義に臨み、実践できるようにする。			<b>成績評価方法</b> 中間試験、期末定期試験、小テスト、授業への意欲・態度より総合的に評価します。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 検査・治療における看護技術としての安全確保 安全確保の基礎知識、誤薬・チューブ類の予定外抜去・誤認・転倒・転落防止、 薬剤・放射線曝露の防止、医学書院 P.462-478 インターメディカP.328-335	小テスト
2) 感染防止の技術 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作、感染性廃棄物の取扱い、針刺し防止策 医学書院 P.422-460 インターメディカP.314-326	小テスト
3) 創傷管理の技術 創傷管理の基礎知識、創傷処置、褥瘡予防 医学書院 P.262-284 インターメディカP.208-223	小テスト
4) 感染防止の技術の実際 滅菌手袋、ガウンテクニック、消毒・洗浄、包帯法 医学書院 P.430-435 インターメディカP.148-326	グループワーク
5) 感染防止の技術の実際 滅菌手袋、ガウンテクニック、消毒・洗浄、包帯法 医学書院 P.430-435 インターメディカP.148-326	グループワーク
6) 感染防止の技術の実際 無菌操作、創傷処置 医学書院 P.262-284,P.422-460 インターメディカP.322-326	グループワーク
7) 感染防止の技術の実際 無菌操作、創傷処置 医学書院 P.262-284,P.422-460 インターメディカP.322-326	グループワーク
8) 排泄の援助技術 一時的導尿、持続的導尿、浣腸、直腸内与薬、摘便 医学書院 P.56-86 インターメディカP.67-89	小テスト
9) 排泄の援助技術 一時的導尿、持続的導尿の実際 医学書院 P.73-80 インターメディカP.67-75	グループワーク
10) 排泄の援助技術の実際 一時的導尿、持続的導尿 医学書院 P.73-80 インターメディカP.67-75	グループワーク
11) 排泄の援助技術の実際 浣腸、直腸内与薬、摘便 医学書院 P.80-86 インターメディカP.78-86	グループワーク
12) 栄養摂取の援助技術 経管栄養法、中心静脈栄養法 医学書院 P.47-56 インターメディカP.29-59	小テスト
13) 栄養摂取の援助技術の実際 経管栄養法、中心静脈栄養法 医学書院 P.47-56 インターメディカP.37-45	グループワーク
14) 栄養摂取の援助技術の実際 経管栄養法、中心静脈栄養法 医学書院 P.47-56 インターメディカP.37-45	グループワーク
15) 教育・指導技術：教育機能、指導技術の基本	小テスト グループワーク
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきて下さい。 各講義の終了時に小テストを実施します。 演習では、事前課題と事後レポートがあります。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 2 医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護技術 基礎看護学 3 医学書院 吉田みつ子他：写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス 、インターメディカ</p>	<p>看護学概論、基礎看護方法論、基礎看護方法演習、基礎看護学実習、看護管理学、看護過程論等</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	基礎看護方法演習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	2年	前期
担当者名	金子 真弓、狩野 京子、橋本 茂子	関連する資格		

授業概要

身体に侵襲を伴う看護技術について、科学的根拠に基づいた方法を学修する。講義および演習をとおして、患者および看護師の安全を確保するために必要な知識、確認行動や観察の仕方、実施の技術を学ぶ。また、演習での患者役の体験やグループワークをとおして、侵襲を伴う検査・治療を受ける患者の心理面や生活への影響を考え、看護師の役割を学ぶ。無菌操作を要する導尿・静脈血採血・注射法の技術を繰り返し練習し、技術修得を図る。

到達目標

1. 身体侵襲を伴う看護技術の方法について、人体の構造と機能をふまえて説明できる。
2. 身体侵襲を伴う看護技術を行ううえでの事故防止の方法を説明できる。
3. 身体侵襲を伴う看護技術を行う際の患者の心理面・生活への影響と援助を説明できる。
4. モデルを用いて、導尿・浣腸・酸素療法・吸引・静脈血採血・注射法の実施ができる。
5. 看護における学習支援の方法を学ぶ。

成績評価方法

実技試験、筆記試験、事前課題、小テスト、授業参加度より総合的に評価します。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							75
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ガイダンス、排泄の援助技術 講義（一時的導尿） 【復習】腎泌尿器系の構造と機能の復習、無菌操作（基礎看護技術 p.444～452）の復習（60分）	
2) 排泄の援助技術 演習（一時的導尿） 【予習】事前レポート（一時的導尿の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
3) 2)に同じ	グループワーク
4) 排泄の援助技術 講義（持続的導尿・浣腸・摘便・直腸内坐薬） 【予習】直腸・肛門の構造と機能、基礎看護技術 p.77～p.86の熟読（60分） 【復習】持続的導尿中の管理	小テスト
5) 排泄の援助技術 演習（持続的導尿・浣腸） 【予習】事前レポート（持続的導尿・グリセリン浣腸の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
6) 5)に同じ	グループワーク
7) 呼吸を整える技術 講義（酸素療法、吸入、排痰ケア、吸引） 【予習】呼吸器系の構造と機能復習、基礎看護技術 p.214～p.292の熟読（60分） 【復習】酸素療法中の患者の生活と管理、酸素ボンベの残量計算	
8) 呼吸を整える技術 演習（酸素療法、吸入） 【予習】事前レポート（酸素療法・吸入・吸引の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
9) 8)に同じ	グループワーク
10) 症状・生体機能管理技術 講義（静脈血採血） 【予習】血液の成分と機能の復習、基礎看護技術 p.374～p.379の熟読（60分） 【復習】採血における事故防止策（60分）	小テスト
11) 症状・生体機能管理技術 演習（静脈血採血演習） 【予習】事前レポート（静脈血採血の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
12) 11)に同じ	グループワーク
13) 与薬の技術 講義（与薬の基礎知識、経口与薬、外用薬、注射の基礎知識） 【予習】基礎看護技術 p.286～p.310の熟読（60分） 【復習】与薬における事故防止	小テスト
14) 与薬の技術 講義（皮内注射、皮下注射、筋肉内注射） 【予習】皮下・筋肉注射部位の構造、基礎看護技術 p.310～p.320の熟読（60分） 【復習】皮下・筋肉内注射における事故防止	
15) 与薬の技術 演習（皮下注射・筋肉内注射） 【予習】事前レポート（皮下・筋肉内注射の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
16) 15)に同じ	グループワーク
17) 与薬の技術 講義（静脈内注射、点滴静脈内注射、側管注射） 【予習】点滴静脈内注射部位の構造、基礎看護技術 p.323～p.334の熟読（60分） 【復習】点滴静脈内注射における生活への影響と看護（60分）	小テスト
18) 与薬の技術 演習（点滴静脈内注射） 【予習】事前レポート（点滴下数計算、点滴内注射の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク
19) 18)に同じ	グループワーク
20) 与薬の技術演習（静脈内注射・側管注射） 【予習】事前レポート（静脈内注射の方法と観察）（60分） 【復習】事後レポート（60分）	グループワーク

21) 20)と同じ	グループワーク
22) 与薬の技術 講義(輸血管理) 【予習】血液の成分と機能、基礎看護技術 p.337～p.343の熟読(60分) 【復習】輸血用血液製剤の管理と副作用(60分)	
23) 看護における学習支援(講義) 【予習】基礎看護技術 p.278～p.291の熟読(60分) 【復習】事例における学習支援	小テスト
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

授業外学習

各演習項目について、事前課題、事後レポートがある。

テキスト、参考書、教材

関連する科目

任和子：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3)基礎看護技術 第17版,医学書院  
茂野香おる：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2)基礎看護技術 第16版,医学書院  
吉田みつ子：写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス初版,インターメディカ

看護学概論、基礎看護方法論、基礎看護方法演習、基礎看護学実習、臨床看護総論、人体の構造と機能、薬理・薬剤学 他

課題に対するフィードバック

事前・事後レポートへのコメントを入れて返却する。  
小テストを採点后返却する。

備考

本科目の単位修得が、基礎看護学実習 の履修要件となる。


科目名	看護過程論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	2年	後期			
担当者名	金子 真弓、狩野 京子、橋本 茂子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 看護を計画的・系統的に実践するための思考過程を学修する。看護の対象である個人を生活者として総合的に理解するためのアセスメント・診断、問題解決のための計画立案・実施・評価の方法を学ぶ。その際、人間・健康・環境・看護の概念、看護理論や看護技術等の看護学の知識と、疾病・治療に関する医学的な知識を統合することが必要となる。 また、紙上事例における看護過程の展開をグループで検討し、論理的な思考力を養うとともに、課題の遂行に必要な協調性を養う。科目の履修をとおして、対象の健康問題とそれに伴う反応や生活について、相互影響的なものの見方を身につけ、自分自身の看護観および人間観の構築につなげていく。							
<b>到達目標</b> 1. 看護過程とは何か、および看護過程の意義を説明できる 2. 看護過程の構成要素とその内容を説明できる。 3. 看護に必要な情報と情報収集の方法を説明できる。 4. 看護に必要な情報の分析と統合の方法を説明できる。 5. 看護診断の方法と表記の仕方を説明できる。 6. アセスメント・看護診断に基づく看護計画立案の方法を説明できる。 7. 看護過程における評価の方法を説明できる。 8. 看護記録の目的・構成・記載と管理上の留意点を説明できる。 9. 紙上事例におけるアセスメント・診断・計画立案ができる。 10. 紙上事例におけるアセスメント・診断のプレゼンテーションができる。 。			<b>成績評価方法</b> 学期末試験、小テスト、課題、グループワーク、プレゼンテーション、出席状況によって、総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							5
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) ガイダンス、看護過程の概要、アセスメント 【予習】紙上事例の病態生理・看護の学習(60分) 【復習】テキストp.206～p.222のまとめ(30分)	授業外レポート
2) アセスメント(情報収集・クラスタリング) 【予習】テキストp.226～p.239を読む(30分) 【復習】小レポート：紙上事例のクラスタリング(60分)	授業外レポート 小テスト
3) アセスメント(情報の分析・統合) 【予習】紙上事例のアセスメント(60分) 【復習】小レポート：紙上事例のアセスメント(60分)	授業外レポート 小テスト
4) 看護診断(看護診断の方法・看護診断の種類) 【予習】テキストp.239～p.247を読む(30分) 【復習】紙上事例のアセスメント・診断プロセスの整理(60分)	授業外レポート 小テスト
5) 看護診断(優先順位の決定・共同問題) 【予習】テキストp.239～p.247を読む(30分) 【復習】紙上事例のアセスメント・診断プロセスの整理(60分)	授業外レポート
6) 看護計画(成果の決定・看護介入の決定) 【予習】テキストp.247～p.252を読む(30分) 【復習】紙上事例の計画立案(60分)	授業外レポート 小テスト
7) 実施・評価(看護介入の実施と記録)、看護要約、看護記録 【予習】テキストp.252～p.262を読む(30分)	授業外レポート 小テスト
8) 紙上事例を用いたアセスメント(1) 【予習】紙上事例のアセスメント(個人ワーク)(60分) 【復習】紙上事例のアセスメント(グループワーク)(60分)	授業外レポート グループワーク
9) 紙上事例を用いたアセスメント(2) 【予習】紙上事例のアセスメント(個人ワーク)(60分) 【復習】紙上事例のアセスメント(グループワーク)(60分)	授業外レポート グループワーク
10) 紙上事例を用いたアセスメント(3) 【予習】紙上事例のアセスメント(個人ワーク)(60分) 【復習】紙上事例のアセスメント(グループワーク)(60分)	授業外レポート グループワーク
11) 紙上事例を用いた看護診断 【予習】紙上事例の看護診断(個人ワーク)(60分) 【復習】紙上事例の看護診断(グループワーク)(60分)	授業外レポート グループワーク
12) 紙上事例を用いたグループワークの発表 【予習】紙上事例のプレゼンテーション準備(60分) 【復習】紙上事例のアセスメント・診断プロセスの整理(60分)	授業外レポート プレゼンテーション
13) 紙上事例を用いた看護計画 【予習】紙上事例の看護計画(60分) 【復習】紙上事例看護計画の整理(60分)	授業外レポート グループワーク
14) 紙上事例を用いた実施・評価 【予習】紙上事例の評価(30分) 【復習】事例の評価内容の整理(60分)	授業外レポート
15) 情報収集演習(観察・測定・コミュニケーションによる情報収集) 【予習】紙上事例のフィジカルアセスメントに必要な情報の検討(60分) 【復習】小レポート 情報収集技術の考察(60分)	情報収集演習
授業外学習	
<p>事例を用いた看護過程の展開を行うため、事例の健康障害の病態生理・症状・治療・看護についての学習が必要となります。予習・復習としての授業外レポートが多くあります。</p> <p>紙上事例のアセスメント・診断に関するグループワークを行うための自己学習、プレゼンテーションを行うための準備が必要です。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>&lt;テキスト&gt;            系統看護学講座専門 基礎看護技術 第16版、医学書院            NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020、医学書院            NEW実践！看護診断を導く情報収集・アセスメント第5版、学研</p>	<p>看護学概論、基礎看護方法論 ・ 、基礎看護方法演習 ・            、臨床看護総論、基礎看護学実習 ・ 、看護理論、看護管理            学、疾病論 ・ 、薬理・薬剤学 等</p>

課題に対するフィードバック

提出された課題は、翌週の授業までにコメントを記入して返却します。

備考

課題やグループワークを通して、看護過程展開の基礎を学んでいきます。  
本科目の単位修得が基礎看護学実習の要件となります。

科目名	家族論・家族関係論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	2年	前期
担当者名	安成 智子	関連する資格	看護師 保健師	

授業概要

家族の定義、機能について学び、現代の家族の抱える問題について考察する。さらに、家族を看護の対象とすることの意義、役割を考え、家族看護の実践方法について理解を深める。

到達目標

1. 家族とは何か、家族の機能とは何かについて理解する。
2. 現代の家族が抱える問題について、その背景や要因について探求する。
3. 家族看護の理念を理解し、家族を看護の対象として捉える必要性を理解する。
4. 家族看護におけるアセスメント、援助方法を理解する。

成績評価方法

定期試験(70点)、ワークシートなど(30点)を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート		○	○				20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 「家族」「家族の健康」とは何か（統計資料から見た家族） 【予習】看護師国家試験の「家族看護」に関する過去問題を読んでおく。(30分) 【復習】国家試験の過去問の誤答部分を修正する。(30分)	
2) 日本人と家族（世帯構造、家族の機能、民法） 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】国家試験の過去問の誤答部分を修正する。(30分)	
3) 家族の理解（ジェノグラム、エコマップ） 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】講義内容の復習をする(30分)	
4) 家族看護の理論的枠組み（アセスメントモデル、家族看護過程） 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】講義内容の復習をする(30分)	
5) 家族看護の理論的枠組み（家族看護研究） 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】講義内容の復習をする(30分)	
6) 多様な家族の理解（事例家族の把握） 【予習】「認知症」についての基本的な知識を持っておく(30分) 【復習】ワークシートの項目を確認する(30分)	DVD視聴
7) 多様な家族の理解（事例家族の把握、疾患の理解） 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】ワークシートを書けるところまで記載する(60分)	ディスカッション ワークシート
8) 多様な家族の理解（家族像の情報収集） 【予習】ワークシートの記載項目を再確認する(30分) 【復習】ワークシートを完成させる(60分)	ディスカッション ワークシート
9) 家族看護事例の検討（看護問題の抽出と焦点化） 【予習】事例がもつ疾患を理解する。(30分) 【復習】グループメンバー間で不足資料を入手しておく(60分)	グループワーク
10) 家族看護事例の検討（看護過程の検討） 【予習】グループメンバーが入手した資料を読んでおく(30分) 【復習】グループワークの発表準備をする(60分)	グループワーク
11) 家族看護事例の検討（看護過程の展開と課題抽出） 【予習】グループワークの発表準備をする(60分) 【復習】グループワークの発表準備をする(60分)	グループワーク
12) 家族看護事例の検討（事例発表1） 【予習】発表グループの事例を読んでおく(30分) 【復習】ワークシートに記載する(30分)	グループワーク
13) 家族看護事例の検討（事例発表2） 【予習】発表グループの事例を読んでおく(30分) 【復習】ワークシートに記載する(30分)	グループワーク
14) 家族看護における看護者の役割と援助姿勢 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】講義内容の復習をする(30分)	
15) まとめ 【予習】配布資料を読んでくる(30分) 【復習】講義内容の復習をする(30分)	
授業外学習	
提示された課題について、疾患の理解を含めた自己学習をすること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
適宜配布する	成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学、老年看護学、在宅看護学

課題に対するフィードバック

採点后、返却する。

備考

積極的にグループワークに参加し、メンバーを意見交換をすること。

科目名	臨床看護総論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	1	2年	前期
担当者名	狩野 京子、金子 真弓	関連する資格		

授業概要

臨床看護における対象や場の特徴を理解し、健康障害の経過別看護、主要な症状別看護、治療別看護について理解する。そのために、人体の構造と機能、基本看護実践で活用できる理論を理解した上で、看護師としての心得、看護の役割について、修得する。また、基礎看護で学んだ人間とは何かという基本を理解した上で、医療・看護を必要としている患者とその家族について理解する。最終的に、臨床を人間(看護師)と人間(患者)の出会いの場として位置づけ、1人の看護師として、真に患者と向き合うことについて熟考することができる。

到達目標

1. 臨床看護の場や看護の対象となる人々の特徴を説明することができる。
2. 健康障害のレベルと経過に応じた看護について説明することができる。
3. 主要な症状と看護について説明することができる。
4. 主要な治療と看護について説明することができる。
5. 臨床看護に臨む上での心得、看護の役割について説明することができる。
6. 臨床看護に臨む上で、真に患者と向き合うことの意味について説明することができる。

成績評価方法

期末定期試験60%  
 小テスト10%  
 授業外レポート10%  
 授業への関心・意欲・態度10%  
 グループ学習への参加度5%  
 プレゼンテーション5%

毎回授業の振り返りを出席カードに記述し提出する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)			○				60	
小テスト、授業内レポート			○		○		10	
宿題、授業外レポート					○		10	
授業態度・授業参加度							10	
プレゼンテーション	○	○	○		○		5	
グループワーク	○	○			○		5	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 臨床看護総論ガイダンス 健康上のニーズを持つ対象者(子供・成人・高齢者・親になる人)と家族への看護 【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート課題 * ライフサイクル * マズローの欲求の階層構造
2) 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 【予習】テキストp32-55を読む(60分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 病院・施設看護と在宅の看護の違い 小テスト
3) 健康状態の経過に基づく看護 * 健康の維持・増進を目指す看護 * 急性期における看護 【予習】テキストp58-86を読む(30分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 危機理論 小テスト
4) * 慢性期における看護 * リハビリテーション期における看護 【予習】テキストp86-116を読む(60分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * アドヒアランス * ICF国際生活機能分類 小テスト
5) * 終末期における看護 * コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 【予習】テキストp116-133、208-220を読む(60分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 死にゆく人の心理過程 小テスト
6) 主要な症状を示す対象者への看護 * 呼吸に関連する症状および循環に関連する症状を示す対象者への看護 【予習】テキストp136-158を読む(60分) 【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 呼吸と心臓機能のメカニズム 小テスト
7) * 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 * 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 【予習】テキストp159-182を読む(60分) 【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 客観的栄養評価 * 排泄機能のメカニズム 小テスト
8) * 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 * 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 【予習】テキストp183-207を読む(60分) 【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 認知・感覚障害の症状 小テスト
9) * 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 * 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 【予習】テキストp208-245を読む(30分) 【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 不安と悲嘆 * 痛みのアセスメント 小テスト
10) 治療・処置を受ける対象者への看護 * 輸液療法および化学療法を受ける対象者への看護 【予習】テキストp248-268を読む(30分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 化学療法の副作用 小テスト
11) * 放射線療法を受ける対象者への看護 * 手術療法を受ける対象者への看護 【予習】テキストp269-290を読む(30分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 放射線療法の急性有害反応 小テスト
12) * 集中治療を受ける対象者への看護 * 創傷処置/創傷ケアを受ける対象者への看護 【予習】テキストp290-308を読む(30分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 褥瘡の発生要因 * 創傷の治癒過程に影響する因子 小テスト
13) 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 測定用・治療用医療機器の原理と実際と使用時の看護 【予習】テキストp308-315、342-377を読む(60分)【復習】レポート作成(60分)	授業外レポート * 測定用医療機器と治療用医療機器の原理 小テスト
14) 事例による看護実践の展開 疾患の病態と治療、病態関連図の作成 【予習】疾患の病態と治療(60分)【復習】病態関連図のまとめ(60分)	グループワーク
15) 事例による看護実践の展開 看護問題抽出・看護援助の検討 プレゼンテーション 【予習】看護問題抽出(60分)【復習】看護援助のまとめ(60分)	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
<p>授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください(60分程度の予習時間)。          授業計画に沿って、授業外レポートの作成(A4 1~2枚程度)をお願いします。          授業開始時、毎回小テスト(前回講義内容)があります。講義資料、テキストを復習して下さい(60分程度の復習時間)。          授業終了後、毎回出席カードに自由記載欄を設けてありますので講義について理解したことや考えた事、質問などを記述して下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>香春知永他編集：系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 基礎看護学 医学書院 2019</p> <p>宮脇美保子編集：新体系 看護学全書&lt;別巻&gt; 看護技術の患者への適用、メヂカルフレンド社 平成29年</p>	<p>基礎看護学、小児看護学、成人看護学、老年看護学、母性看護学、在宅看護学、精神看護学、他</p>

課題に対するフィードバック

時間外レポートは、提出後コメントを付けて返却します。  
小テストは採点后、返却します。

備考

本科目の修得により、臨地実習に必要な知識の土台を習得することが出来ます。

14) 15) の事例検討については、11) 終了時にオリエンテーションをします。

科目名	医療安全管理学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	2年	前期
担当者名	坂井 浩美、尾家 重治	関連する資格		

授業概要

医療安全(リスクマネジメント)および感染制御(インフェクションコントロール)は、医療関連施設での最重要事項であり、チーム医療が必須である。  
本講座では、多職種からの講義により、医療安全および感染制御に対する基本的知識・技術を学習する。

到達目標

1. 医療安全の原理・原則を理解する。
2. インシデントレポートの重要性を理解する。
3. 医療事象事例の分析の演習を通して、事故の背景要因や対策を検討することができる。

成績評価方法

1. 定期試験
2. グループワーク・演習
3. 授業中の態度や演習、グループワークの参加態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							65
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							15
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習				○			10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 医療安全を学ぶことの大切さと事故防止の考え方	
2) 医療事故とヒヤリ・ハット	
3) 医療安全対策の国内の制度と国外の潮流	
4) 組織的な安全管理体制への取り組み	
5) 注射業務・内服与薬業務・輸血業務と事故防止	
6) チューブ類・医療機器の事故防止	
7) 療養上の世話の事故防止	
8) 患者間違い/間違いを誘発する要因	
9) KYT（危険予知トレーニング）	グループワーク
10) 医療安全とコミュニケーション	
11) 看護師の労働安全衛生上の事故防止 職業感染 抗がん剤の曝露	
12) 医療関連感染とその予防法	
13) 医療安全上、注意が必要な医薬品	
14) 医療事故分析の方法（RCA 業務工程図）	
15) インシデント事例を用いたRCA演習	演習
授業外学習	
予習として、教科書に該当する箇所を読んできて下さい。（30分） 講義後にレジュメと合わせて、教科書を読んで復習をしてください。（60分） 第1回目は教材の序章と第1章を読んできて下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 統合分野、看護の統合と実践 [ 2 ]、医療安全、川村治子 著 医学書院	看護学概論、人間関係論、微生物学、コミュニケーション論

課題に対するフィードバック

備考

授業の出欠席は出席確認カードでチェックします。  
授業開始後、15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席扱いとします。  
試験の受験資格は全授業回数の3分の2以上とします。欠席回数について教員からお知らせや注意はしませんので、各自で管理してください。

皆さんの医療安全に関する意識や知識を知るためにアンケートをすることがあります。行ったアンケートの結果は授業に反映します。

科目名	基礎看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	1	1年	後期			
担当者名	狩野 京子、金子 真弓、橋本 茂子		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> <b>実習目的</b> <p>患者の生活や治療の場である病院・病棟・病室の機能を知り、患者の安全・安楽・自立に向けてどのように環境が整えられているか学ぶ。</p> <p>看護の対象となる患者や看護師との関わりをとおして、患者の療養生活や看護活動の実際を学ぶ。また、患者・看護師・実習生との関わりをとおし、自己のコミュニケーションの課題や強みを明確化する。さらに、看護の役割について、自分の考えを述べることができる。</p>							
<b>到達目標</b> 1. 看護実践の場である病院・病棟・病室の概要について具体的に述べる ことができる。 2. 臨床の場における看護師の業務や役割について述べる ことができる。 3. 入院患者の療養生活について述べる ことができる。 4. 患者と円滑なコミュニケーションを とることができる。 5. 看護師に必要な態度を 身につけることができる。 6. 実習体験をとおして、看護学生として自己の強みや課題を 明確化することができる。 7. 反省会をとおして、学びを振り返り、グループで学びを共有 することができる。			<b>成績評価方法</b> ・基礎看護学実習 評価表（別紙）に基づき、 実習内容・実習記録内容などを総合的に評価 する。 ・得点率60%以上を合格とし、単位を認定する。				
評価項目	評価基準						
	試験 理解	思考 判断	関心 意欲	技能 表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							25
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							50

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>1. 実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護実践の場である病院・病棟・病室の概要について具体的に学ぶ。</li> <li>2) 臨床の場における看護師の業務や役割について知る。</li> <li>3) 入院患者の療養生活について知る。</li> <li>4) 患者と円滑なコミュニケーションをとる。</li> <li>5) 看護師に必要な態度を身につける。</li> <li>6) 実習体験をとおして、看護学生として自己の強みや課題を明確化する。</li> <li>7) 反省会をとおして、学びを振り返り、グループで学びを共有する。</li> </ol> <p>2. 実習方法 実習は前半・後半の2クラスに分けた上で、指示された一方を履修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学内オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目的・方法の説明、実習心得、身だしなみについて、記録物について、事前課題の説明。</li> </ul> </li> <li>2) 病院・病棟オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病院における看護の概要について説明を受ける。</li> <li>・病院・病棟の構造、物品場所、入院患者の特徴、看護体制、週間予定、日課などについて説明を受ける。</li> </ul> </li> <li>3) 看護活動の見学 <ul style="list-style-type: none"> <li>方法... 看護師に同行しながら看護活動の見学を行う。</li> <li>可能な範囲で臨床実習指導者と共に一部実施しても良い。</li> <li>内容... 実施されている日常生活援助及び診療の補助に関する援助を見学し、理解する。</li> <li>事前学習をして臨み、実際の援助場面の見学をとおして学習を深める。</li> <li>留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・患者への挨拶を行う。</li> <li>・学びたい視点を明確にし、根拠を考えながら見学する。</li> <li>・疑問等は調べる・確認する・聞くなどの積極的な行動をとる。</li> <li>・プライバシーの保護・倫理的配慮を遵守する。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>4) 実習最終日には、学修発表会を行う。</li> </ol> <p>3. 履修条件 看護学概論、基礎看護方法論 を履修していること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護実践の場に立つことの責任を自覚し、事前学修（知識・技術）を十分に行って実習に臨むこと。</li> <li>・大学で学んだことを活用しながら、現象を多面的に捉える能力・思考する能力・伝える能力を養うようにグループワークや実習に臨むこと。</li> </ul>
授業外学習	
<p>実習は前半・後半の2クラスに分けて行う。自分が該当しない週は、自己学修時間として有効に活用すること。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>基礎看護方法論 で使用した教科書、参考書、配布資料。 実習ガイドブックとその他の配布資料は随時配布する。</p>	<p>看護学概論、基礎看護方法論</p>

課題に対するフィードバック

備考

実習前に指示された抗体価検査を実施し、必要時ワクチンの接種を受けること。

科目名	基礎看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	後期
担当者名	金子 真弓、狩野 京子、橋本 茂子	関連する資格		

授業概要

援助の人間関係をとおして、対象の健康問題を総合的に把握し、問題解決できる基礎的能力を養う。また、看護実践を通して自己を見つめ、看護観を深める。

到達目標

1. 患者との関係を築くコミュニケーションを図ることができる。
2. 患者の健康維持・回復を促すために必要な情報収集ができる。
3. 得た情報を解釈し、原因・誘因や推論を含めた分析ができる。
4. 解決すべき看護問題を明確にすることができる。
5. アセスメント・診断の過程を活かした看護計画を立案できる。
6. 立案した看護計画をもとに患者に応じた援助を実施できる。
7. 実施した看護を振り返り、看護の過程を評価できる。
8. 看護学生として誠実な態度がとれる。
9. 看護実践をもとに、看護について考えることができる。

成績評価方法

実習目標の達成状況、レポート、実習態度を総合して評価します。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							90

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
基礎看護学実習 ガイドブック参照	実習前のグループ演習 実習中のグループカンファレンス 実習後のグループワーク 実習後のグループワークを基にした プレゼンテーション
<b>授業外学習</b>	
<p>             実習前に、看護過程論の授業の復習を再度行う。また、実際の実習場所における代表的な健康障害と看護について理解する。バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント技術、日常生活援助技術の復習を行い、対象を想定した技術練習を行う。実習期間中は、患者の情報の分析・診断、計画の立案と評価を具体的に行い、また実施した援助の考察をとおして看護実践の基礎的能力を養う。              実習後は、看護の実践過程や看護の役割について考察しレポートとしてまとめる。           </p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
T.ヘザー・ハードマン, 上鶴重美編, 日本看護診断学会監訳 : NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020, 医学書院, 2018. 古橋洋子: NEW実践! 看護診断を導く情報収集・アセスメント , 学研, 2016. その他	看護学概論、基礎看護学方法論、基礎看護方法論演習、 、看護理論、臨床看護総論、看護過程論

課題に対するフィードバック

実習前の課題、実習中の記録物、実習後レポートについてはコメントをつけて返却する。追加修正が必要な場合は、再提出を求め、実習到達目標の達成を図る。

備考

科目名	成人看護学総論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	前期
担当者名	原田 博子、森 初美	関連する資格	看護師、保健師	

授業概要

臨床看護の実践に必要な理論を概観し、成人期（青年期・壮年期・向老期）の特徴、ライフスタイルと健康問題、成人保健の歴史と動向、成人期にみられる主要な健康障害とその要因、健康レベル（健康づくり、慢性期・急性期のケア、障害・難病を持つ人への支援、終末期にある人への支援）に応じた看護活動の特徴など成人看護学の総論を学ぶ。

到達目標

1. 成人の特徴について説明する。
2. 成人の健康レベルに対応した看護について説明する。
3. 成人の健康生活を促すための看護技術について説明する。

成績評価方法

- ・ 定期試験、レポートを評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 成人と生活、発達段階の特徴 1章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】事例1を読んで考えたことまとめ30分	次回レポート提出
2) 成人の生活からとらえる健康 2章 A 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】事例 P 6 2 を読んで考えたことをまとめる30分	検査データの見方の資料配布
3) 保健・医療・福祉システムの概要 2章 B 4章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】今後必要な統計資料をまとめてくる30分	統計資料のまとめ提出
4) 成人への看護アプローチの基本 3章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】倫理の原則をノートに抜書きをする30分	
5) 健康をおびやかす要因と看護 5章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】章の巻末の課題を考えてノートにしてくる30分	
6) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 6章 危機理論資料 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】危機理論の資料を読んでまとめる45分	
7) 人生の最後のときを支える看護 9章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】指示された課題をまとめる45分	
8) 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 病みの軌跡 7章【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】事例を読んで考えたことをまとめる45分	
9) 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護 セルフマネジメント、エンパワメント 7章【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】事例を読んで考えたことをまとめる45分	
10) 学習者である患者への看護技術 コンプライアンス、自己効力 10章【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】事例を読んで考えたことをまとめる45分	
11) 障害がある人の生活とリハビリテーション 8章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】章の巻末の課題を考えてノートにしてくる30分	
12) 治療過程にある患者への看護技術 11章 A B C 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】指示された文章を構造化する 2時間	課題レポートあり
13) 治療過程にある患者への看護技術 11章 ボディイメージ、ストレスコーピング、意思決定理論【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】教科書にある事例を読んで考えたことをまとめる45分	
14) 症状マネジメントにおける看護技術 12章 【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】看護活動に示された実践内容の中から選んで事例に対する対応をまとめてくる45分	
15) 新たな治療法、先端医療と看護 13・14章【予習】事前に授業計画にある教科書の文章を読んでくること45分【復習】1年生で学習した総合医療論をふまえて、新たな治療法や先端医療における看護をまとめる45分	
授業外学習	
<p>本科目は、成人看護学実習における看護過程の展開のための理論と関連付けて学習してもらいます。そのため、教科書の予習では、次回学習する内容を読んで要約を提出してもらいます。事前学習には45分を要します。さらに、毎回の授業で配布した資料には自宅まで目を通して次回の授業に参加してください。そのための事後学習時間は45分要します。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>【テキスト】小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論、医学書院 【参考書】シャーリー・ドゥブレイ、若林一美訳：近代ホスピスの創始者シシリーソングラス、日本看護協会出版会 黒田裕子：看護診断のためのよくわかる中範囲理論</p>	<p>看護学概論、総合医療論、成人看護学、成人看護学、成人看護学、リハビリテーション看護論、成人看護学実習</p>

課題に対するフィードバック

提出したレポートは教員がコメントを入れて返却します。

備考

科目名	成人看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	2年	後期			
担当者名	原田 博子、坂井 浩美、井上 由美 子、森 初美		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> 成人期にある対象の健康状態を診るためには、身体機能の正常・異常を診るための知識と技術が必要である。各機関を系統的に構造と機能を十分に理解したうえで、患者に生じた健康上の障害や症状などを疾患と関連付けられる知識を習得する。そのためには、患者の主訴や現病歴・既往歴を問診する技術を学び、視診・触診・打診・聴診の方法から患者の健康上の問題を情報収集する。さらに、専門職として得られた情報から患者への援助を学ぶ。							
<b>到達目標</b> フィジカルアセスメントの概念を理解できる 健康上の機能の正常・異常を判断できる 健康上の問題を系統的に情報収集し、アセスメントし看護問題を明確にできる			<b>成績評価方法</b> 定期テスト、レポート、授業態度を総合的に評価する				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 看護業務における観察の重要性 ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	
2) フィジカルアセスメントのために必要な観察問診・視診・触診・打診・聴診 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	授業内で演習 聴診器の使用方法を復習
3) 呼吸器系のフィジカルアセスメント 息が苦しい 関連図の記載方法 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	課題提出あり授業内で演習
4) 呼吸器の症状がある患者への看護 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	課題レポート用の資料配布授業内で演習
5) 循環器系のフィジカルアセスメント 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	授業内で演習
6) 循環器の症状がある患者への看護 動悸 浮腫 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	課題提出有り授業内で演習
7) 消化器系のフィジカルアセスメント 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	授業内で演習
8) 消化器系の症状がある患者への看護 嘔吐・便秘・嚥下障害 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	課題提出有り授業内で演習
9) 感覚系のフィジカルアセスメント 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	授業内で演習
10) 運動系のフィジカルアセスメント 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	授業内で演習
11) 脳神経系のフィジカルアセスメント ドメイン関連図の作成方法 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】本日の内容をノートにまとめる30分	課題レポートの提出授業内で演習
12) 演習 全身状態の正確な観察法・聴診器の使用法 1限演習室ユニフォーム 【予習】次回の予定の章を読んでくること45分【復習】	演習・配布資料・教科書・聴診器使用 演習レポートの作成
13) 演習 全身状態の正確な観察法・聴診器の使用法 1限演習室ユニフォーム 2限 【予習】演習の内容を読んでくること45分【復習】本日の演習レポートの作成	演習・配布資料・教科書・聴診器使用
14) 演習 異常音の観察 心音・呼吸音・腸蠕動音 1限演習室ユニフォーム 日常生活行動と関節可動域の確認 【予習】演習の内容を読んでくること45分【復習】	演習・配布資料・教科書・聴診器使用
15) 演習 異常音の観察 心音・呼吸音・腸蠕動音 1限演習室ユニフォーム 日常生活行動と関節可動域の確認 2限 【予習】演習の内容を読んでくること45分【復習】2回分の演習レポートの作成提出	演習・配布資料・教科書・聴診器使用 2回分の演習レポートを提出
16)	
17)	
18)	
19)	
20)	

21)	
22)	
23)	
24)	
25)	
26)	
27)	
28)	
29)	
30)	

**授業外学習**

第2回より、次回の授業で学ぶ章を説明するので、前もって読んで理解してくる。なお、読んだかどうかは授業中に確認し、評価の一部とする。事前学習45分 事後学習30分  
遅刻・早退・中抜け15分以上は欠席とする。課題レポートは、授業内容を理解できたか確認のためです。そのため、欠席しても課題レポートを次回でも良いので提出すること

テキスト、参考書、教材	関連する科目
フィジカルアセスメントガイドブック第2版 医学書院 看護技術の患者への適用 メヂカルフレンド社	3年前期に履修する成人看護学 リハビリテーション論、成人看護学実習 および他の領域の実習にも関連する 2年生の基礎看護学実習、老年看護学実習 に学習内容が関連する。

**課題に対するフィードバック**

提出されたレポートは教員のほうでコメント・評価して返却します。修正や追記を指示する場合があります。

**備考**

--


科目名	成人看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	坂井 浩美、原田 博子、井上 由美 子、森 初美	関連する資格		

授業概要

成人期の慢性疾患に看護を学ぶ。慢性疾患の特徴と治療の特徴を踏まえた看護実践方法、疾患に伴う検査の目的と検査時の看護の重要性と視点について学ぶ。疾患によっては障害、自己コントロールが必要なものもあり、家族のサポートが不可欠なこともある。患者・家族への支援と個別性を踏まえた患者理解の必要性を学ぶ。

到達目標

- 1.慢性疾患を有する人と家族の特徴を説明できる。
- 2.慢性疾患を有する人と家族に対する看護の役割を説明できる。
- 3.慢性疾患を有する人のセルフマネジメントを能力を高める援助方法を述べることができる。
- 4.慢性疾患を有する人に対する検査・治療の看護実践を説明できる。

成績評価方法

- ・定期試験、小テスト、レポートなどの提出物すべてを評価の対象とする。
- ・演習、グループワークの参加態度も評価に含める。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート	○	○					20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○	○		10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 慢性期看護とは/慢性期を有する人とその家族の理解 【予習】慢性期看護 章章を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し授業内容を振り返る（60分）	
2) 慢性期を有する人とその家族への援助・支援の基本【予習】慢性期看護 章を読む（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート（60分）	課題レポート
3) がん患者と家族への看護（外部講師：専門看護師）【予習】慢性期看護 章6.7を読む（60分）【復習】配布資料を見直し授業内容を振り返る（30分）	
4) 呼吸器系の障害を有する人と家族の援助 気管支喘息・間質性肺炎【予習】慢性期看護 章-1-1.気管支喘息（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート（60分）	課題レポート
5) 呼吸器系の障害を有する人と家族の援助 慢性閉塞性肺疾患・呼吸器系の障害とりハビリテーション（外部講師：認定看護師）【予習】慢性期看護 章-1-2.慢性呼吸不全（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
6) 呼吸器系の障害を有する人と家族の援助 肺がん【予習】慢性期看護 章-1-3.肺がん（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート（60分）	課題レポート
7) 循環器系の障害を有する人と家族の援助 高血圧・不整脈【予習】慢性期看護 章-2-1.高血圧、不整脈 章-3.ペースメーカーを装着している患者の援助（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
8) 循環器系の障害を有する人と家族の援助 虚血性心疾患・慢性心不全【予習】慢性期看護 章-2-3.虚血性心疾患、慢性心不全（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る 課題レポート（60分）	課題レポート
9) 循環器系の障害を有する人と家族の援助 循環器系リハビリテーション（外部講師：認定看護師）【予習】別途指示あり【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
10) 感覚器系の障害を有する人とその家族の援助【予習】慢性期看護 章-8.感覚器系の障害を有する人とその家族への援助（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
11) 血液・免疫系の障害を有する人と家族の援助 再生不良性貧血・白血病・悪性リンパ腫【予習】慢性期看護 章-6-1.2再生不良性貧血、白血病、章-8造血幹細胞移植を受ける患者の援助【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
12) 血液・免疫系の障害を有する人と家族の援助 HIV感染/AIDS【予習】慢性期看護 章-6-3.HIV感染/AIDS（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート(60分)	課題レポート
13) 内分泌療法を受ける患者の援助 前立腺がん 乳がん【予習】慢性期看護 章-5-2.前立腺がん 章-9.内分泌療法を受ける患者の援助（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
14) 膠原病を有する人と家族の援助【予習】慢性期看護 章-6-4.関節リウマチ、章-6-5.全身性エリテマトーデス、章-4.ステロイド療法を受ける患者の援助（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート(60分)	
15) アレルギー・感染症を有する人と家族の援助【予習】別途指示あり【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	小テスト
16) 代謝・内分泌系の障害を有する人と家族の援助 【予習】慢性期看護 章-4糖尿病、章-1.インスリン療法を受ける患者の援助【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る。NANDA- の看護診断分類法に基づいて事例の情報収集(120分)	事前課題
17) 事例による看護過程の展開 情報収集 事前課題をもとにグループワークを行う【復習】グループワーク、発表、フィードバックから課題を振り返る（60分）	演習・グループワーク
18) 代謝・内分泌系の障害を有する人と家族の援助 甲状腺機能障害 脂質異常症【予習】慢性期看護 章-3.甲状腺機能障害、章-2.脂質異常症（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
19) 腎・泌尿器系の障害を有する人と家族の援助 ネフローゼ症候群 糸球体腎炎【予習】別途指示あり【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る（60分）	
20) 腎・泌尿器系の障害を有する人と家族の援助 慢性腎不全【予習】慢性期看護 章-5-1.慢性腎不全、章-2.人工透析を受ける患者の援助（60分）【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート（60分）	課題レポート

21)	腎・泌尿器系の障害を有する人と家族の援助 腎臓がん・膀胱がん【予習】別途指示あり【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
22)	脳・神経系の障害を有する人と家族の援助 筋委縮性側索硬化症・重症筋無力症【予習】慢性期看護 章-7-3.筋委縮性側索硬化症、 章-7-4.重症筋無力症(60分)【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート(60分)	課題レポート
23)	脳・神経系の障害を有する人と家族の援助 脳卒中【予習】慢性期看護 章-7-1.脳梗塞(60分)【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
24)	脳・神経系の障害を有する人と家族の援助 脳卒中とリハビリテーション(外部講師:認定看護師)【予習】慢性期看護 章-7-1.脳梗塞(60分)【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート(60分)	課題レポート
25)	消化器系の障害を有する人と家族の援助 胃・十二指腸潰瘍・潰瘍性大腸炎等【予習】慢性期看護 章-3-1.胃・十二指腸潰瘍、 章-3-5.潰瘍性大腸炎、 章-3-6.クローン病(60分)【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
26)	消化器系の障害を有する人と家族の援助 慢性肝炎・肝硬変【予習】慢性期看護 章-3-2.慢性肝炎、 章-3-3.肝硬変、 章-5.インターフェロン療法を受ける患者の援助【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る、課題レポート(60分)	課題レポート
27)	消化器系の障害を有する人と家族の援助 肝臓がん【予習】慢性期看護 章-3-4.肝臓がん、 章-3-2.慢性肝炎、 章-10.肝動脈塞栓療法を受ける患者の援助(60分)【復習】テキスト等を見直し授業内容を振り返る(60分)	
28)	死の看取りの看護【復習】配布資料を見直し授業内容を振り返る 課題レポート(60分)	課題レポート
29)	事例による看護過程の展開 【予習】17回目の授業でNANDA- の看護診断に対してアセスメントを行う。課題は期日に提出する。提出した課題は当日返却し、グループワーク、発表に活用する。フィードバックは授業で行う。(120分)	演習・グループワーク
30)	事例による看護過程の展開 【復習】グループワーク、発表、フィードバックした内容を振り返る。(30分)	演習・グループワーク

#### 授業外学習

- ・予習として、テキストの該当する箇所を読み、重要な部分には下線を引いてきてください。
- ・シラバスに記載している予習は慢性期看護(南江堂)のテキストです。成人看護学(医学書院)については前週に指示しますので、予習をしてきてください。
- ・臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。
- ・事例検討はグループごとに発表をしますので、授業外で発表資料の作成をしてください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
成人看護学 慢性期看護 南江堂 参考:医学書院 系統的看護学講座 成人看護学 [2]~[9][11][12]~[14] 参考:医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術	人体の構造と機能、疾病論・、 栄養学、薬理・薬剤学、病理学、 成人看護学総論、成人看護学・、 緩和ケア論

#### 課題に対するフィードバック

課題レポートについては必要に応じてコメントを記入したり授業の中で補足説明をします。レポートは前期授業終了までに返却しますので、後期臨地実習に活用できるように整理してください。

#### 備考

- ・人体の構造と機能と疾病論(病態・診断・治療)の授業内容を理解していることを前提に授業を行います。当該授業の看護に必要な人体の構造と機能、疾病論の資料内容を確認しておいてください。
- ・臨地実習で活用できるように配布資料・ノート・予習復習した学習内容について、系統的に整理しファイルしておくこと。

授業の出欠席は、出席（確認）カードでチェックします。授業開始後、15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席扱いとします。定期試験の受験資格は全授業回数の3分の2以上とします。出席日数については各自で管理してください。教員から欠席回数について個別に対応することはありません。  
授業中の携帯電話等の使用や私語は禁止です。

科目名	成人看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	井上 由美子、原田 博子、坂井 浩美、山勢 善江	関連する資格		

授業概要

成人期の急性疾患及び周手術期の特徴と看護、検査を記述する。急性期の健康レベルに合わせた看護を学ぶ。急激に身体侵襲を受けた患者の身体的、心理的な影響を理解し、患者や家族への看護を理解する。

到達目標

1. 成人期の急性疾患、周手術期の特徴を記述できる。
2. それぞれの疾患の検査・治療を記述できる。
3. 疾患に伴った看護を説明できる。
4. 救急医療における初期対応が記述できる。
5. 演習を通して、成人看護学で必要な看護技術を習得できる。

成績評価方法

- ・定期テスト、レポート、ミニテストなどの提出物すべてを評価の対象とする。
- ・授業態度、演習、グループワークの参加態度も評価に含める。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 急性期にある患者と家族の特徴と看護、生体侵襲 【予習】臨床外科看護総論 序章、第1章を読んでおく（60分） 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -1
2) 周手術期術前の看護 【予習】臨床外科看護総論 第7章を読んでおく（60分） 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -2
3) 周手術期術中の看護 【予習】臨床外科看護総論 第8章を読んでおく（60分） 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -1
4) 周手術期手術直後の看護 【予習】臨床外科看護総論 第9章を読んでおく（60分） 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -2
5) 呼吸器疾患患者の看護 【予習】臨床外科看護各論 第1章を読んでおく（60分） 【復習】	
6) 呼吸器疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（180分）	課題レポート
7) 循環器疾患患者の看護 【予習】臨床外科看護各論 第2章を読んでおく（60分） 【復習】	
8) 循環器疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（180分）	課題レポート
9) 小テスト・腎疾患患者の看護 【予習】 【復習】	
10) 泌尿器疾患患者の看護 【予習】腎・泌尿器 第4章を読んでおく（60分） 【復習】	
11) 感覚器疾患患者の看護 【予習】臨床外科看護各論 第5章を読んでおく（60分） 【復習】	
12) 内分泌疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート
13) 運動器疾患患者の看護 【予習】運動器 第5章を読んでおく（60分） 【復習】	
14) 運動器疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（180分）	課題レポート
15) 脳・神経疾患患者の看護 【予習】臨床外科看護各論 第4章を読んでおく（60分） 【復習】	
16) 脳・神経疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（180分）	課題レポート
17) 消化器疾患患者の看護 【予習】臨床外科看護各論 第3章を読んでおく（60分） 【復習】	
18) 消化器疾患患者の看護 【予習】 【復習】課題レポート作成（180分）	課題レポート
19) 創傷処置・ストーマ管理 【予習】 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -1
20) 集中治療室での看護 【予習】臨床外科看護総論 第10章を読んでおく（60分） 【復習】課題レポート作成（90分）	課題レポート -2

21) 救急時の看護技術 【予習】臨床外科看護総論 第5章を読んでおく(60分) 【復習】	
22) 心肺蘇生法などの演習 【予習】 【復習】演習レポート作成(30分)	演習
23) 事例検討 【予習】レポート作成(180分) 【復習】	グループワーク
24) 事例検討 【予習】 【復習】発表資料作成(60分)	グループワーク
25) 救急看護の概念 【予習】救急看護学 第1章を読んでおく(60分) 【復習】	
26) 救急看護の対象の理解 【予習】救急看護学 第2章を読んでおく(60分) 【復習】課題レポート作成(180分)	課題レポート
27) 救急看護体制と看護の展開 【予習】救急看護学 第3章を読んでおく(60分) 【復習】	
28) 救急患者の観察とアセスメント 【予習】救急看護学 第4章を読んでおく(60分) 【復習】	
29) 輸液ポンプ・シリンジポンプ演習 【予習】 【復習】	演習
30) 輸液ポンプ・シリンジポンプ演習・事例検討発表 【予習】発表資料の作成(60分) 【復習】演習レポート作成(30分)	演習

#### 授業外学習

予習として、教科書の該当する箇所を読んできてください。  
 臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。  
 演習後にレポートを提出してください。  
 事例検討はグループ毎に発表をしますので、授業外で資料の作成をしてください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
医学書院：系統看護学講座「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「救急看護学」「呼吸器」「循環器」「消化器」「内分泌・代謝」「脳・神経」「腎・泌尿器」「女性生殖器」「運動器」「眼」「耳鼻咽喉」	人体の構造と機能、疾病論、成人看護学総論、成人看護学、栄養学、薬理・薬剤学、病理学、リハビリテーション看護学

#### 課題に対するフィードバック

課題レポートについては、コメントを記入し、前期授業終了までに返却します。後期臨地実習に活用できるように整理してください。

#### 備考

授業の出欠席は、出席(確認)カードでチェックします。  
 授業開始後、15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席扱いとします。  
 試験の受験資格は、全授業回数(30回)の3分の2以上とします。欠席回数を教員から言うことはありません。各自で確認してください。


科目名	リハビリテーション看護論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	1	3年	前期			
担当者名	未定		関連する資格				
<b>授業概要</b> リハビリテーションを必要としているのは疾病や外傷、加齢などにより、身体の構造や生理的機能・生活機能に障害を持っている人たちである。そうした疾病や傷害をかかえていても生活行動拡大・社会参加を行い、生き生きと生活を送ることを目指すのがリハビリテーションである。発症当初から将来を見通した医療において、医師を中心とするリハビリテーションチームの中で看護職の果たす役割を学習する。							
<b>到達目標</b> 1. リハビリテーションの理念を述べるができる。 2. 機能回復について何が必要であるかを学ぶことで、健康障害を持つ人のADLやQOLの向上について述べるができる。 3. リハビリテーションチームにおける看護職の果たす役割や多職種連携について説明できる。 4. 代表的な機能障害の特徴的な課題とそれに対する援助方法を説明できる。				<b>成績評価方法</b> ・定期試験、課題レポート、授業態度を総合的に評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○					60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○		○		30
授業態度・授業参加度			○		○		5
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○		○		5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1)	リハビリテーション概論 リハビリテーション看護概念	課題レポート
2)	運動器系の障害とリハビリテーション看護（関節リウマチ）	
3)	運動器系の障害とリハビリテーション看護（骨折）	課題レポート
4)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護（パーキンソン・脊椎損傷）	
5)	中枢神経系の障害とリハビリテーション看護（脳血管障害）	課題レポート
6)	呼吸器系の障害とリハビリテーション看護（慢性閉塞性呼吸不全）	課題レポート
7)	循環器系の障害とリハビリテーション看護（虚血性心疾患）	課題レポート
8)	グループワーク パンフレット作成・グループごと発表	グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として、教科書の該当する箇所を読んでください。（30分）</li> <li>・臨地実習や学習につなげるために、授業後課題レポートを提出してください。（60分）</li> <li>・課題レポートについては、コメントを記入し、前期授業終了までに返却します。後期臨地実習に活用できるように整理してください。</li> </ul>		
テキスト、参考書、教材		関連する科目
テキスト・医学書院 別巻リハビリテーション看護 参考図書・医学書院 専門分野 運動器 ・医学書院 専門分野 脳・神経 ・医学書院 専門分野 呼吸器 ・医学書院 専門分野 循環器		人体の構造と機能、疾病論 ・ 保健医療福祉行政論 成人看護学 ・ ・ 老年看護学 ・

課題に対するフィードバック

備考

科目名	小児看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	川崎 幹子、山崎 啓子		関連する資格	看護師国家試験 養護教諭			
<b>授業概要</b> 子どもの成長発達と子どもと家族の生活について講義、ビデオ、実際の体験を通して学ぶ。また、子どもに関する統計、法律や政策、現在の子どもと家族が抱える問題を知り、その中での小児看護の役割を考える。							
<b>到達目標</b> 1) 子どもの成長発達を理解する。 2) 子どもの成長発達に応じた生活と家族を理解する。 3) 子どもに関する統計および現在の子どもと家族の抱える問題と、子どもの健康、擁護に関する法律・政策との関連を考える。 4) これらの学習を通して小児看護の役割を考察する。			<b>成績評価方法</b> 定期試験だけでなく、小テスト、課題、授業への関心、意欲、態度など総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート							15
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							5
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 1) 小児看護の特徴と理念 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分)	講義外レポート
2) 2) 子どもの成長・発達 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	講義外レポート
3) 3) 小児の栄養・新生児・乳児 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
4) 4) 幼児・学童・思春期・青年期子どもにおける疾病の経過と看護 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
5) 5) 家族の特徴とアセスメント 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	講義外レポート
6) 6) 子どもと家族を取り巻く社会 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	講義外レポート
7) 7) 病気・障害を持つ子どもと家族の看護・小児の状況(環境)に特徴づけられる看護 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
8) 8) 子どもにおける疾病の経過と看護 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト 発表、まとめ 講義外レポート
9) 9) 子どものアセスメント(1) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
10) 10) 子どものアセスメント(2) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	DVD視聴、小テスト、課題・講義外レポート
11) 11) 症状を示す小児の看護(1) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	グループでの検討、発表 講義外レポート
12) 12) 症状を示す小児の看護(2) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
13) 13) 検査・処置を受ける小児の看護(1) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	DVD視聴、小テスト、課題・講義外レポート
14) 14) 検査・処置を受ける小児の看護(2) 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	グループでの検討、発表 講義外レポート
15) 15) 障害・子どもの虐待・災害・終末期にある子どもと家族の看護およびまとめ 【予習】講義範囲の教科書を読んでくる(30分) 【復習】講義外レポート作成(30分)	小テスト、課題・講義外レポート
授業外学習	
事前学習、事前課題を行い授業に臨むこと。 復習し、既習の内容の理解を深めること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
奈良間美保, 他: 小児看護学(1) 医学書院	小児看護学、小児看護学実習、養護概論、災害看護、母性看護学、養護実習、養護実習指導、公衆衛生看護学、人間らしさとは何か、ナースングスタディ、在宅看護論、在宅看護論、在宅看護論実習

課題に対するフィードバック

授業内及び授業外で出した課題は、修正やコメントを入れて、次回の講義開始前に返却を行う。

備考

試験の受験資格は、全授業回数の3分の2以上の出席であり、出欠席は本日の学び(講義内レポート)で行う。  
授業開始後、15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席扱いとします。  
欠席回数について教員からお知らせや注意はしませんので、各自で管理してください。  
公共機関の遅延は上記に限らないが証明が必要。

科目名	小児看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	山崎 啓子、川崎 幹子、砂川 新平	関連する資格	養護教諭 種免許	

授業概要

成長発達の途上にある小児特有の疾患を理解し、必要な看護を学ぶ。  
 疾病や障害をもつ小児や家族を理解し、必要な看護援助を考える。  
 小児看護に必要な看護技術を学び、演習を通して身につける。

到達目標

- 1) 小児特有の疾患を理解し、必要な看護が分かる。
- 2) 疾病や障害が小児や家族に及ぼす影響を理解する。
- 3) 治療や検査を受ける小児に対して、発達段階に応じた説明と援助の方法を知る。
- 4) 小児の健康状態のアセスメント方法を知り、演習を通して身につける。
- 5) 疾病や障害をもつ小児と家族の看護過程の展開ができる。

成績評価方法

定期試験だけでなく、小テスト、レポート、授業への関心、意欲、態度など総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							5
グループワーク							10
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 染色体異常・体内環境により発症する先天異常の看護、小児の呼吸器疾患の看護 【予習】ダウン症候群、18トリソミー症候群とかぜ症候群、肺炎の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
2) 小児の循環器疾患の看護 【予習】ファロー四徴症、川崎病の子どもを看護を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
3) 小児の消化器疾患の看護 【予習】形態異常のある疾患、その他消化器疾患の子どもを看護を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
4) 小児の感染症と看護 【予習】麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、髄膜炎、百日咳、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、結核、急性灰白髄炎の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
5) 小児の代謝疾患の看護、小児の内分泌疾患の看護 【予習】1型糖尿病、2型糖尿病と下垂体疾患、先天性副腎過形成症候群、甲状腺疾患の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
6) 小児の神経疾患の看護 【予習】けいれん、脳性麻痺、水頭症・二分脊椎、進行性神経筋疾患の子どもを看護、中途障害の回復過程とリハビリテーションを読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
7) 小児の免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患の看護 【予習】食物アレルギー、気管支喘息、若年性特発性関節炎の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
8) 小児の眼科疾患の看護、小児の耳鼻咽喉疾患の看護 【予習】眼科的検査、斜視の手術を受ける子どもと家族の看護と中耳炎、扁桃摘出術を受ける子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
9) 小児の運動器疾患の看護、小児の皮膚疾患の看護 【予習】先天性股関節脱臼・内反足・筋性斜頸、特発性脊柱側湾症、骨折と母斑、アトピー性皮膚炎の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
10) 小児の精神疾患の看護 【予習】神経症、注意欠如・多動症および自閉スペクトラム症、発達障害を持ちながらほかの疾患の療養が必要な子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
11) 小児の血液・造血器疾患の看護、小児の悪性新生物の看護 【予習】貧血・出血傾向の子ども、輸血療法を必要とする子ども、再生不良性貧血、血友病と白血病の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
12) 小児の腎・泌尿器疾患および生殖器疾患の看護 【予習】ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、急性腎不全と尿路感染症、水腎症、膀胱尿管逆流、尿道下裂の看護の子どもを看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
13) 小児における事故と外傷の看護・小児救急看護 【予習】主な事故・外傷の看護を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
14) 新生児の看護 【予習】低出生体重児、新生児仮死がみとめられる子どもの看護、高ビリルビン血症の新生児の看護を読む(60分)【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
15) 小児の運動器疾患（外部講師：医師）	
16) 小児の神経疾患（外部講師：医師）	
17) 小児の腎・泌尿器および生殖器疾患（外部講師：医師）	
18) 小児の血液・造血器疾患・小児の悪性新生物（外部講師：医師）	
19) 染色体異常・体内環境により発症する先天異常・新生児疾患（非常勤講師：医師）	
20) 小児の呼吸器疾患・小児の免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患・予防接種（非常勤講師：医師）	

21) 小児の内分泌疾患・小児の消化器疾患 (非常勤講師：医師)	
22) 小児の循環器疾患・小児に多い事故と外傷 (非常勤講師：医師)	
23) 小児外科看護：急性期の看護 【予習】臨床外科看護各論：小児の外科患者の看護を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
24) 小児外科看護：術前・術中・術直後の看護 【予習】臨床外科看護各論：小児の外科患者の看護を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート・小テスト
25) 小児における看護過程の展開 【予習】事例による看護過程の展開を読む(60分) 【復習】授業内資料等での振り返り(60分)	授業内レポート
26) 看護過程の展開 (急性疾患をもつこどもの事例展開) 【予習】急性疾患をもつこどものアセスメント・看護計画の作成(120分) 【復習】ケースレポート・資料等で看護展開の振り返り(60分)	グループワーク
27) 看護過程の展開 (急性疾患をもつこどもの事例展開) 【予習】急性疾患をもつこどものアセスメント・看護計画の修正(60分) 【復習】ケースレポート・資料等で看護展開の振り返り、レポート作成(120分)	グループワーク・プレゼンテーション・授業外レポート
28) 看護過程の展開 (慢性疾患をもつこどもの事例展開) 【予習】慢性疾患をもつこどものアセスメント・看護計画の作成(120分) 【復習】ケースレポート・資料などで看護展開の振り返り(60分)	グループワーク
29) 看護過程の展開 (慢性疾患をもつこどもの事例展開) 【予習】慢性疾患をもつこどものアセスメント・看護計画の修正(60分) 【復習】ケースレポート・資料等で看護展開の振り返り、レポート作成(120分)	グループワーク・プレゼンテーション・授業外レポート
30) 小児看護技術 (バイタルサイン測定・身体計測 他) 【予習】演習で行う看護技術の手順確認(120分) 【復習】演習で行った看護技術の手技や注意点等の振り返り、レポート作成(60分)	演習・授業外レポート

#### 授業外学習

- ・事前学習(授業内容部分の教科書は必ず読み、重要な部分には下線を引いてくること)を行い授業に臨むこと
- ・授業内資料等を活用して、授業内容のまとめや振り返りを行うこと
- ・課題や事例検討などを通して、内容の理解を深めること

#### テキスト、参考書、教材

#### 関連する科目

<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良間美保, 他, 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学 . 医学書院</li> <li>・奈良間美保, 他, 小児臨床看護各論 小児看護学 . 医学書院</li> <li>・北島政樹, 他, 臨床外科看護各論 . 医学書院</li> <li>・小橋洋子, 情報収集アセスメント . 学研</li> <li>・上鶴重美, 他, NANDA-I看護診断 . 医学書院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小児看護学</li> <li>小児看護学実習</li> <li>臨床外科看護各論</li> </ul>
---	--

#### 課題に対するフィードバック

- ・課題レポートなどは試験前までに内容を確認(コメントを記載)して返却するため、予習復習や試験勉強、実習での資料として活用できる。

#### 備考

- ・試験の受験資格は、全授業回数の3分の2以上の出席であり、出欠席は出席(確認)カードで行う。
- ・授業中に、今までの授業で配付した資料や返却したレポートなどを活用することがあるため、授業資料はすべてファイリングして持参すること(不定期的に内容確認することがあります)。

・小児看護学実習における実習病院選定の参考資料とする。

科目名	母性看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	2年	後期
担当者名	安成 智子、伊藤 美穂	関連する資格	看護師 保健師	

授業概要

母性意識の意義と発達、母子関係の成り立ちを理解し、母性を対象とした援助に必要な知識の基礎を学ぶ。  
また、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から女性の生涯を通じての健康を考え、性と健康についての理解を深める。

到達目標

- 1) 女性および母子の心身における健康について、性と生殖を通して理解できる。
- 2) 女性および母子の健康増進に関与する社会の在り方が理解できる。
- 3) 女性のライフサイクル各期の特徴的な健康問題が理解できる。

成績評価方法

小テストを含む授業中の課題(25点)・授業外レポート(5点)・筆記試験(70点)により総合的に評価する。  
定期試験後の科目評価が60点未満の場合、再試験を行う。再試験の評価(素点)が60点未満の場合、追加レポートは課さない。  
定期試験の素点が60点未満の学生には、科目評価が60点以上であっても課題を課す。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)	○	○					70
小テスト、授業内レポート	○	○		○			25
宿題、授業外レポート		○	○	○			5
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 母性看護の概念の理解(母性の定義、愛着、母子相互作用、倫理等) 【予習】概論テキストp2-19,p34-51(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
2) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状(歴史、母子保健統計、法律、環境) 【予習】概論テキストp54-96(30分) 【復習】講義内容の復習(60分)	
3) リプロダクティブヘルスケア(家族計画、性感染症、HIV) 【予習】概論テキストp250-276(30分) 【復習】講義内容の復習(60分)	小テスト
4) リプロダクティブヘルスケア(人工妊娠中絶、喫煙、性暴力、児童虐待等) 【予習】概論テキストp20-27,p278-315(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
5) 母性看護における対象理解(女性生殖器の形態・機能、性分化、月経周期等) 【予習】概論テキストp97-123,配布資料を読んでおく(30分) 【復習】講義内容の復習(60分)	
6) 女性のライフステージにおける健康問題(疾患)、遺伝相談、不妊治療等 【予習】配布資料を読んでおく(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
7) 女性のライフサイクルにおける健康問題への看護 【予習】概論テキストp124-142,p180-245(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
8) 母性看護に必要な看護技術 【予習】概論テキストp27-33,p160-178(30分) 【復習】講義内容の復習(60分)	
9) DVD「うまれる」鑑賞 【予習】なし 【復習】なし	授業内レポート
10) 女性生殖器の疾患に関する看護 【予習】配布資料を読んでおくこと(20分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
11) 出生前からのリプロダクティブヘルスケア、正常妊娠の理解 【予習】各論テキストp46-55,p58-63(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	小テスト
12) 正常妊娠の理解(妊娠の生理・胎児の発育と生理) 【予習】各論テキストp64-74(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
13) 正常妊娠の理解(妊娠期の心理・社会的変化、妊婦と胎児のアセスメント) 【予習】各論テキストp78-100(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	小テスト
14) 妊婦健康診査とマイナートラブルの看護 【予習】各論テキストp103-160(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	
15) 妊娠期の看護 【予習】各論テキスト・配布資料を読んでおく(30分) 【復習】講義内容の復習(30分)	小テスト
授業外学習	
社会における女性・母子・家族を取り巻く問題に普段から関心を持ち、ニュースにも目を通しておくことが望ましい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学、医学書院 母性看護学各論 母性看護学、医学書院	人体の構造と機能 看護過程論 母性看護学 母性看護学実習

課題に対するフィードバック

備考

- ・ 講義順を変更することがあります。
- ・ 座席は原則として学籍番号順としますが、板書が見えない学生は前列に移動して構いません。

科目名	母性看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	安成 智子、伊藤 美穂	関連する資格	看護師 保健師	

授業概要

母性看護学 をもとに、母性看護の対象となる人々の健康状態を系統的にアセスメントし、科学的な根拠に基づいて援助する方法を学ぶ。  
特に、母性としての営みの顕著な妊娠・分娩・産褥期にある母親および胎児・新生児について理解し、母性機能の健全な発達や母子の成長・発達を促す看護について、事例の展開や技術演習などを通して学ぶ。

到達目標

- 1．妊娠・分娩・産褥期の母親および胎児・新生児に生じる変化が理解できる。
- 2．対象者のヘルスアセスメントに必要な知識と技術および、母子の成長・発達を促す援助技術が修得できる。
- 3．周産期のウェルネス型看護過程を理解し、事例を用いた展開ができる。
- 4．周産期に予測される正常からの逸脱と、その際の看護援助が理解できる。

成績評価方法

定期試験、確認テスト、課題を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)		○					70
小テスト、授業内レポート							15
宿題、授業外レポート	○	○	○				15
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 講義オリエンテーション、妊娠期の看護 【予習】 p 95-100, p162-177 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	妊婦体験ジャケット課題
2) 妊娠期の異常(疾患) 【予習】 配付資料を読んでおく p358-400(30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
3) 演習：妊娠期の観察・援助（問診、レオポルド触診法、胎児心音の聴取） 【予習】 該当する技術の復習 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
4) 演習：妊娠期の観察・援助（妊婦・胎児のアセスメント） 【予習】 該当する技術の復習 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
5) 妊娠期の異常の看護 【予習】 配付資料を読んでおく (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	確認テスト(妊娠期のアセスメント・妊娠期の異常)
6) 正常分娩の理解 【予習】 p178-219 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
7) 異常分娩、産科処置と産科手術 【予習】 配付資料を読んでおく p401-455(30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
8) 分娩期の看護（心理・社会的変化、母児の健康管理） 【予習】 p220-253 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	確認テスト(分娩期のアセスメント・分娩期の異常)
9) 演習：分娩期の観察・援助（分娩体験、産痛緩和ケア） 【予習】 該当する技術の復習 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート(胎児心拍陣痛図)
10) 女性生殖器の手術期の看護 【予習】 配付資料を読んでおく(30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
11) 新生児の理解(胎外生活への適応) 【予習】 p254-258 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	確認テスト(女性生殖器)
12) 新生児期の異常 【予習】 配付資料を読んでおく p455-482(30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
13) 新生児の看護 【予習】 p258-293 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
14) 新生児の看護 【予習】 p294-307 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	確認テスト(新生児期のアセスメント・新生児期の異常)
15) 演習：新生児の観察・援助（新生児の観察・計測） 【予習】 該当する技術の復習 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
16) 演習：新生児の観察・援助（身体の清潔・栄養など） 【予習】 該当する技術の復習 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
17) 実技試験：新生児の観察・計測 【予習】 自己学習・技術練習 (60分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
18) 実技試験：新生児の観察・計測 【予習】 自己学習・技術練習 (60分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	ワークシート
19) 産褥期の理解 【予習】 p308-319 (30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	
20) 産褥期の異常 【予習】 配付資料を読んでおく p484-500(30分) 【復習】 講義内容の復習 (30分)	

21) 産褥期の看護 【予習】p320-331 (30分) 【復習】講義内容の復習 (30分)	
22) 産褥期の看護 【予習】p331-353 (30分) 【復習】講義内容の復習 (30分)	確認テスト(産褥期のアセスメント・産褥期の異常)
23) 演習：産褥期の観察・援助 (子宮底の触診、悪露の観察など) 【予習】該当する技術の復習 (30分) 【復習】講義内容の復習 (30分)	ワークシート
24) 演習：産褥期の観察・援助 (乳房の観察、授乳の観察など) 【予習】該当する技術の復習 (30分) 【復習】講義内容の復習 (30分)	ワークシート
25) 看護過程(事例 ) 【予習】配付資料を読んでおく(30分) 【復習】看護過程記録の追加(60分)	課題、グループワーク
26) 看護過程(事例 ) 【予習】配付資料を読んでおく(30分) 【復習】看護過程記録の追加(60分)	課題、グループワーク
27) 看護過程(事例 ) 【予習】配付資料を読んでおく(30分) 【復習】看護過程記録の追加(60分)	課題、グループワーク
28) 看護過程(事例 ) 【予習】配付資料を読んでおく(30分) 【復習】看護過程記録の追加(60分)	課題、グループワーク
29) 実技試験：産褥期の観察 【予習】自己学習・技術練習(60分) 【復習】講義内容の復習(30分)	ワークシート
30) 実技試験：産褥期の観察 【予習】自己学習・技術練習(60分) 【復習】講義内容の復習(30分)	ワークシート

授業外学習

1. 授業計画に記載されているテキストの該当単元の予習をして下さい。
2. 小テストは講義済みの内容から出題するため、復習を欠かさず行って下さい。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学 医学書院	人体の構造と機能、看護過程論、家族論・家族関係論、小児看護学、母性看護学、母性看護学実習

課題に対するフィードバック

--

備考

人間健康学部ディプロマ・ポリシーとの関連性  
到達目標を達成することにより、「人への関心と学問の理解」、「柔軟な思考と表現力」、「知識の応用力と判断力」の要素を身につけることにつながります。


科目名	老年看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	溝田 順子、森 初美、松本 涼太、 江口 恵里		関連する資格				
<b>授業概要</b> 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴及び症状、疾患等による生活への影響、生きてきた時代背景等をふまえ全人的に高齢者を理解し、老いて生活していくことを支えるために必要な理論、看護活動について学ぶ。また、高齢社会の統計的輪郭、保健・医療・福祉の動向など高齢化が地域社会へ及ぼす影響について考察し、老年看護の必要性及び保健医療福祉チームとしての看護職の役割を学ぶ。							
<b>到達目標</b> 1. 老年期をライフサイクル、発達課題より説明できる。 2. 老年期の人々の生きてきた時代背景とともに、高齢者の暮らしの特徴を説明できる。 3. 老年看護活動の特性及び重要性について説明できる。 4. 高齢者の身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな（霊的）側面の変化について説明できる。 5. 高齢者によくみられる身体症状の特徴とアセスメントについて説明できる。 6. 高齢者の特徴をふまえ、生活機能（活動、食事、排泄、清潔、生活リズム、コミュニケーション）に焦点をあてた看護の視点を述べるができる。 7. 検査・薬物療法を受ける高齢者の看護について説明できる。 8. 認知機能の障害に対する看護について説明できる。 9. 高齢者の特徴をふまえたオムツ交換・体位変換・口腔ケア・嚥下評価を実施することができる 10. 高齢者のフィジカルアセスメントの基本的な手技を実施することができる。			<b>成績評価方法</b> 授業態度、グループワーク・演習への参加度、提出物、小テスト、中間・定期試験を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 授業ガイダンス：老いるということ、老いを生きるということ 【予習】テキスト第1章 p2～ p21を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
2) 老年看護学のなりたち 【予習】テキスト第3章 p70～ p83を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
3) 超高齢社会と社会保障 【予習】テキスト第2章 p24～ p67を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
4) 超高齢社会と社会保障 【予習】テキスト第2章 p24～ p67を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
5) 高齢者のヘルスアセスメント 【予習】テキスト第4章 p86～ p119を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
6) 高齢者のヘルスアセスメント 【予習】テキスト第4章 p86～ p119を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
7) 高齢者の生活機能を整える看護（1）日常生活を支える基本的活動 【予習】テキスト第5章 p122～ p146を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
8) 高齢者の生活機能を整える看護（1）日常生活を支える基本的活動 【予習】テキスト第5章 p122～ p146を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
9) 高齢者の生活機能を整える看護（2）食事・食生活 【予習】テキスト第5章 p146～ p161を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
10) 高齢者の生活機能を整える看護（2）食事・食生活 【予習】テキスト第5章 p146～ p161を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
11) 高齢者の生活機能を整える看護（2）食事・食生活 【予習】テキスト第5章 p146～ p161を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
12) 高齢者の生活機能を整える看護（2）食事・食生活 【予習】テキスト第5章 p146～ p161を読んでおく（15分） 【復習】演習課題についてまとめる（30分）	グループワーク
13) 中間試験 / 高齢者の生活機能を整える看護（3）排泄 【予習】テキスト第5章 p161～ p172を読んでおく（15分） 【復習】学習課題についてまとめる（30分）	
14) 高齢者の生活機能を整える看護（3）排泄 【予習】テキスト第5章 p161～ p172を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
15) 高齢者の生活機能を整える看護（4）清潔・衣類ケア 【予習】テキスト第5章 p172～ p185を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
16) 高齢者の生活機能を整える看護（4）清潔・衣類ケア 【予習】テキスト第5章 p172～ p185を読んでおく（15分） 【復習】学習課題についてまとめる（30分）	グループワーク
17) 高齢者の生活機能を整える看護（5）生活リズム 【予習】テキスト第5章 p185～ p198を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
18) 高齢者の生活機能を整える看護（5）生活リズム 【予習】テキスト第5章 p185～ p198を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
19) 高齢者の生活機能を整える看護（6）コミュニケーション 【予習】テキスト第5章 p198～ p213を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	
20) 高齢者の生活機能を整える看護（6）コミュニケーション 【予習】テキスト第5章 p198～ p213を読んでおく（15分） 【復習】学習課題についてまとめる（30分）	グループワーク

21)	高齢者の生活機能を整える看護（6）コミュニケーション 【予習】テキスト第5章 p198～p213を読んでおく（15分） 【復習】学習課題についてまとめる（30分）	
22)	高齢者の生活機能を整える看護：セクシュアリティ、社会参加 【予習】テキスト第5章 p213～p223を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	
23)	高齢者に多い疾患と看護（1）症状のアセスメントと看護 【予習】テキスト第6章 p226～p254を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
24)	高齢者に多い疾患と看護（1）症状のアセスメントと看護 【予習】テキスト第6章 p226～p254を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
25)	高齢者に多い疾患と看護（2）身体的疾患のある高齢者の看護 【予習】テキスト第6章 p256～p282を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
26)	高齢者に多い疾患と看護（2）身体的疾患のある高齢者の看護 【予習】テキスト第6章 p256～p282を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
27)	高齢者に多い疾患と看護（3）認知機能障害のある患者の看護 【予習】テキスト第6章 p282～p316を読んでおく（15分） 【復習】学習目標についてまとめる（30分）	グループワーク
28)	高齢者に多い疾患と看護（3）認知機能障害のある患者の看護 【予習】テキスト第6章 p282～p316を読んでおく（15分） 【復習】小テストの見直し（30分）	小テスト
29)	高齢者に対する看護技術のまとめ 【予習】演習内容に関する講義を再学習する（20分） 【復習】演習を振り返り、座学と結び付けて課題を仕上げる（30分）	演習
30)	高齢者に対する看護技術のまとめ 【予習】演習内容に関する講義を再学習行う（20分） 【復習】演習を振り返り、座学と結び付けて課題を仕上げる（30分）	演習

授業外学習

授業計画に沿って学習目標を提示します。テキストの各単元を熟読して学習目標の習得に取り組んでください。適宜、小テスト（講義内容）を行います。講義とテキストの内容との結びつけを行ってください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
・テキスト：老年看護学（医学書院） ・参考書：老年看護学概論（南江堂）、老年看護学技術（南江堂）、看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（メヂカルフレンド社）	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、老年看護学実習 ・、総合看護実習

課題に対するフィードバック

演習での課題レポートにはコメントをつけて返却する。

備考

演習の課題レポートの提出は指定日時を厳守すること。


科目名	老年看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	3年	前期			
担当者名	松本 涼太、江口 恵里、大草 知子 、名尾 朋子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 老年看護学 の学びをふまえ、高齢者特有の健康問題（症状・疾患）、生活機能障害について理解を深め、QOLの向上を主眼に高齢者の健康レベルに応じた看護のアプローチについて、事例を通して学ぶ。また、また、倫理的課題をふまえ、高齢者のおかれている状況を総合的にアセスメントし、高齢者及びその家族を対象とした看護活動を習得し、実践へつなげていく。							
<b>到達目標</b> 1. 老年看護学 の学習をふまえ、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴に加え、高齢者の生き方や価値観などを重視した看護展開について考察できる。 2. 高齢者の健康レベルに応じた倫理的課題を理解し、それらをふまえた看護職の役割について述べるができる。 3. 高齢者に多い疾患及び症状の病態生理、その看護について述べるができる。 4. 認知機能の障害、うつ、せん妄に対する看護について述べることができる。 5. 終末期にある高齢者の看護及び家族看護について述べることができる。 6. 老年症候群に対する治療・看護について述べるができる。			<b>成績評価方法</b> 出席状況、授業態度、提出物、確認テスト、定期試験等を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 授業ガイダンス/老化の特徴、老化現象、老年症候群 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.48-92を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）	課題レポート（老年症候群）
2) 各臓器の老化について 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.26-45を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）	
3) 認知症疾患について 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.135-150を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）	
4) 認知症ケア/介入の実際を知る 【予習】前回講義の予習した内容と講義の内容をまとめる（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（認知症ケア）
5) 高齢者における循環器疾患の特徴 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.164-176を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）における循環器疾患の特徴	
6) 高齢者における循環器疾患に対する看護 【予習】前回講義の予習した内容と講義の内容をまとめる（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（循環器疾患に対するケア）
7) 高齢者における消化器疾患の特徴 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.188-202を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）における消化器疾患の特徴	
8) 高齢者における消化器疾患に対する看護 【予習】前回講義の予習した内容と講義の内容をまとめる（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（消化器疾患に対するケア）
9) 高齢者における泌尿器疾患の特徴 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.220-230を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）における泌尿器疾患の特徴	
10) 高齢者における泌尿器疾患に対する看護 【予習】前回講義の予習した内容と講義の内容をまとめる（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（泌尿器疾患に対するケア）
11) 疾病を持つ高齢者の看護（皮膚疾患・褥瘡） 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.240-250を読む（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（皮膚科疾患に対するケア）
12) 高齢者における整形外科疾患の特徴 【予習】老年看護（病態・疾患論）p.230-240を読む（60分）【復習】テキストと配布資料を見直し、授業内容を振り返る（30分）における整形外科疾患の特徴	
13) 高齢者における整形外科疾患に対する看護 【予習】前回講義の予習した内容と講義の内容をまとめる（60分）【復習】疾患論と看護ケアについて、授業や配布資料をもとにレポートしてくる（60分）	課題レポート（整形外科疾患に対するケア）
14) 終末期における看護/高齢者の死の現状を知り、看取りについて考える【予習】老年看護学 p348-358を読み、C - 、 - 等で自分なりにまとめておく。（100分）【復習】事例を提示する。自分の考えをまとめレポートを提出する。（100分）	課題レポート
15) 高齢者看護における倫理とセクシュアリティ【予習】老年看護学 p54-63、p213-218を読み自分なりにまとめておく。（100分）【復習】事例を提示する。自分の考えをまとめレポートを提出する。（100分）	課題レポート
授業外学習	
予習；次の回の授業内容を一通りこなし、理解できないところを洗い出す 復習；授業で分からなかった所を理解出来る様に知識の定着をめざす	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾患論（医学書院）</li> <li>・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院） 高齢者のフィジカルアセスメント（メディカ出版）</li> </ul>	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、老年看護学実習、総合看護実習

課題に対するフィードバック

課題レポートについては、必要に応じてコメントを記入し授業の中で補足説明をします。

備考

- ・試験の受験資格は、全授業回数の3分の2以上の出席であり、出欠席は出席(確認)カードで行います。授業開始後、15分以上の遅刻・早退・中抜けは欠席扱いとします。
- ・授業中に今までの授業で配付した資料や返却したレポートなどを活用することがあるため、授業資料はすべてファイリングして持参してください。
- ・配布資料やレポートは、臨時実習などで活用できるようまとめておいてください。

科目名	精神看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子、早川 昌子		関連する資格	看護師国家試験受験資格			
<b>授業概要</b> 精神看護の対象と目的、精神の健康概念について学ぶとともに、精神保健福祉の現状と課題について学ぶ。また、精神症状および精神疾患と治療法およびその看護について学び、精神障害に対する理解を深める。リエゾン精神看護についての概要と実践、他職種との連携について学ぶ。							
<b>到達目標</b> ・精神看護の対象と目的が言える ・人のライフサイクルにおける発達課題とそこに生じる心の問題を述べることができる ・精神医療保健福祉の歴史的背景が理解できる ・精神障害者を取り巻く法律の概要が説明できる ・精神症状、主な精神疾患と治療法について説明できる ・精神科の倫理的な問題と看護師の役割について説明できる ・精神科リハビリテーションと地域保健福祉活動について説明できる ・リエゾン精神看護の概要とリエゾナーズの活動について述べるができる			<b>成績評価方法</b> 定期試験（70％）、小テスト（20％）、レポート（10％）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)	○	○	○				70
小テスト、授業内レポート	○	○	○				20
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神看護学で学ぶこと/「精神（心）」の捉え方 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（10分）、教科書をもとに復習する（20分）	
2) 精神（心）の発達に関する主要な考え方 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（10分）、教科書をもとに復習する（20分）	
3) 家族と精神（心）の健康 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（10分）、教科書をもとに復習する（20分）	
4) 暮らしの場と精神の健康 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（10分）、教科書をもとに復習する（20分）	
5) 精神（心）の危機状況と精神保健 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（10分）、教科書をもとに復習する（20分）	小テスト
6) 現代社会と精神（心）の健康 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
7) 精神保健医療福祉の歴史 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
8) 精神保健福祉法と患者の処遇 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
9) 精神障害者の抱える症状の理解1 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
10) 精神障害者の抱える症状の理解2 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
11) 精神科的診察 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	小テスト
12) 主な精神疾患/障害と治療法と看護 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
13) 主な精神疾患/障害と治療法と看護 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
14) 主な精神疾患/障害と治療法と看護 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
15) 精神科における主な治療と看護 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	小テスト
16) 精神科における主な治療と看護 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
17) 精神（心）を病むということ 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	小テスト レポート
18) 精神（心）を病むということ 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	グループワーク
19) 精神障害をもつ人との関わり方 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	
20) 精神障害を持つ人とのコミュニケーション 【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる（20分）、教科書をもとに復習する（20分）	

21) 看護援助の基本構造【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
22) 患者による自己管理/治療環境と患者の生活【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
23) 事故防止・安全管理と倫理的配慮【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	小テスト
24) 事故防止・安全管理と倫理的配慮【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
25) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
26) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
27) 精神障害を持つ人の地域における生活への支援【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	
28) 司法精神看護/災害看護【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	小テスト
29) リエゾン精神看護【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	レポート
30) リエゾン精神看護【予習復習】 教科書該当ページを読んでくる(20分)、教科書をもとに復習する(20分)	

授業外学習

テキストの該当ページには必ず目を通してから授業に臨むこと  
また、小テストを課すため、復習のための時間を確保すること

テキスト、参考書、教材	関連する科目
新体系看護学全書 精神看護学 精神看護学概論精神保健 精神看護学 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社	

課題に対するフィードバック

レポートは、提出後の講義の中でフィードバックする。  
小テストは、採点を行う。

備考

- ・ 授業中の私語・出入りは厳禁。
- ・ 授業中は携帯電話は電源を切り、カバンの中に入れておくこと。
- ・ 授業前に教科書の該当ページや事前配布されたプリント類は必ず目を通しておくこと。
- ・ 事前課題が出された場合には、課題を行った上で授業に臨むこと。


科目名	精神看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

精神看護学 で学習した知識をもとに、精神障害者に焦点をあて、それらの人々へ精神看護を実践していくための知識と技術を学ぶ。症状のアセスメントとアプローチの基本、日常生活援助技術、社会復帰に向けての援助等、患者・看護師関係を活用しながら、事例を通して学習する。

到達目標

- ・精神に障害を抱える人への看護援助について説明できる
- ・精神症状に対する援助が説明できる
- ・精神疾患・障害を持つ患者への看護の要点を述べるができる
- ・他職種との連携について述べるができる

成績評価方法

定期試験 80%  
宿題、授業外レポート 20%

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク	○	○	○	○			
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 精神看護学における看護過程1 【予習・復習】精神看護学 の内容を復習しておく（60分）	
2) 精神看護学における看護過程 【予習・復習】精神看護学 の内容を復習しておく（60分）	
3) 精神症状と看護1 【予習・復習】精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	
4) 精神症状と看護2 【予習・復習】精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
5) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 統合失調症1 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
6) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 統合失調症2 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
7) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 うつ病 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
8) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 双極性障害 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
9) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 アルコール依存 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
10) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 神経性やせ症摂食制限型 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
11) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 強迫性障害 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
12) 精神疾患・障害を持つ患者への看護AD/HD、自閉症スペクトラム障害 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
13) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 パーソナリティ障害 【予習・復習】課題プリントをもとに精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	事前課題 GW
14) 精神疾患・障害を持つ患者への看護 身体合併症(がん・肺炎・骨折) 【予習・復習】精神看護学 の精神症状・精神疾患を復習しておく（60分）	
15) 精神科における多職種連携 【予習・復習】精神看護学 の法律、リハビリテーションの項目を復習しておく（60分）	
授業外学習	
<p>精神看護学 の学習内容は必ず復習しておき、講義に臨むこと。          事前に課された課題については、指定された講義前に必ず終了し、当日持参すること。また予定表に示された教科書の該当ページは、事前に必ず熟読しておくこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
新体系看護学全書 精神看護学 精神看護学概論精神保健 精神看護学 精神障害をもつ人の看護 メヂカルフレンド社	

課題に対するフィードバック

4回～13回には、事前課題を課す。初回に課題を提示しておくので、該当の回までに復習しておく。

備考

私語・携帯電話等の使用は厳禁。

科目名	成人看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	3年	後期			
担当者名	坂井 浩美、原田 博子、井上 由美 子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 最新医療が行われる医療現場における医療提供体制・看護師の役割・対象のおかれている状況について、特殊な治療・検査の見学を通して学ぶ。 見学実習を通して専門的な治療や援助および他職種の役割を学ぶことが出来る。							
<b>到達目標</b> 1. 最新の医療現場で、患者が受ける治療・検査の特徴や方法について見学実習を通して学ぶ。 2. 患者に実施される治療・検査の必要性を理解したうえで、看護師の役割を学ぶ。 3. 治療・検査を必要とする患者や家族の特徴と治療・検査が及ぼす影響を理解できる。 4. 見学部署の構造・設備を見学実習を通して学ぶ			<b>成績評価方法</b> 実習記録 課題レポート 事前学習				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照	
授業外学習	
事前学習課題を実習にて活用しやすいように工夫して作成し、ファイルする。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
看護学臨地実習の心得「各領域共通」、看護学科健康管理ノート、基礎看護技術項目の履修領域と到達度	

課題に対するフィードバック

備考

実習オリエンテーション時に配布する「看護学臨地実習ガイドブック 成人看護学実習 . . .」「看護学臨地実習ガイドブック 成人看護学実習 . . . オリエンテーションブック」「看護学臨地実習 成人看護学実習 . . . 記録用紙及び評価表」に内容をよく読んで理解し、遵守してください。

科目名	成人看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	2	3年	後期			
担当者名	坂井 浩美、原田 博子、井上 由美 子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 最新医療が行われる医療現場における医療提供体制・看護師の役割・対象のおかれている状況について、特殊な治療・検査の見学を通して学ぶ。 見学実習を通して専門的な治療や援助および他職種の役割を学ぶことが出来る。							
<b>到達目標</b> 1. 最新の医療現場で、患者が受ける治療・検査の特徴や方法について見学実習を通して学ぶ。 2. 患者に実施される治療・検査の必要性を理解したうえで、看護師の役割を学ぶ。 3. 治療・検査を必要とする患者や家族の特徴と治療・検査が及ぼす影響を理解できる。 4. 見学部署の構造・設備を見学実習を通して学ぶ			<b>成績評価方法</b> 実習記録 課題レポート 事前学習				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照</p>	
授業外学習	
<p>事前学習課題を実習にて活用しやすいように工夫して作成し、ファイルする。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護学臨地実習の心得「各領域共通」、看護学科健康管理ノート、基礎看護技術項目の履修領域と到達度</p>	

課題に対するフィードバック

備考

実習オリエンテーション時に配布する「看護学臨地実習ガイドブック 成人看護学実習 . . . 」 「看護学臨地実習ガイドブック 成人看護学実習 . . . オリエンテーションブック」 「看護学臨地実習 成人看護学実習 . . . 記録用紙及び評価表」に内容をよく読んで理解し、遵守してください。

科目名	成人看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	原田 博子、坂井 浩美、井上 由美 子	関連する資格		

授業概要

疾病・手術・麻酔等により、侵襲を受けている患者と家族に対し、治療の特徴を踏まえ、健康問題を系統的に解決していく看護過程の展開能力と最良の看護を提供する能力を習得する。

到達目標

- 1) 周手術期にある患者とその家族の状況を、身体的、心理的、社会的側面からとらえることができる。
- 2) 周手術期にある患者の健康障害の改善および生活の質(QOL)の向上を図り、その人らしい生活を送るための看護過程が展開できる。

成績評価方法

- 実習記録
- 事前学習
- 課題レポート
- 実習評価表

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：実習指導要綱参照	
授業外学習	
成人看護学 の講義にて事前学習課題を出します。自分で実習で活用しやすいように工夫して作成する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	小児看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	川崎 幹子、山崎 啓子	関連する資格	看護師国家試験 養護教諭	

授業概要

小児の成長発達過程とさまざまな健康レベルにある小児を理解するとともに、健康障害をきたした小児とその家族への看護実践方法について学ぶ。  
(小児病棟、小児科外来、GCU、幼稚園にて実習を行う)

到達目標

- 1) 小児とのかかわりを通して、成長発達の特徴を捉え、発達段階に応じたコミュニケーションと援助ができる。
- 2) 健康障害や入院加療が小児と家族に及ぼす影響について理解し、健康障害をもつ小児および家族に対する看護を考え実践する。
- 3) 小児と家族の尊厳と権利を守り、倫理的に配慮した援助を実践する。
- 4) 実習を通して、小児看護の役割を考えることができる。

成績評価方法

実習目標達成状況、実習に対する取り組み、出席状況等から総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照            実習開始前に知識確認テストがあります。講義資料、テキストを復習してください。実習事前準備として学習をし、積極的に実習に取り組んでください。課題に沿ってレポートを作成し、実習の振り返りを行ってください。課題レポートは、夏休み明けの領域別オリエンテーションで提出してください。            【予習】実習前日レポートの準備、疾患の学習、発達の学習(120分)            【復習】その日の学び、レポートの作成(120分)</p>	<p>看護過程のレポート</p>
授業外学習	
<p>夏休みに、実習に向けての課題を実施する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>医学書院 小児看護学概論・小児臨床看護総論            医学書院 小児看護学各論</p>	<p>小児看護学、小児看護学、看護過程論</p>

課題に対するフィードバック

夏休みの課題は、修正・コメントを入れ、実習前オリエンテーションで返却し、実習に望む。  
実習中は、毎日の記録にコメントをいいてます。修正して即日返却します。

備考

体調管理も実習に入ります。インフルエンザの予防接種を行ない実習に臨むこと。  
風邪を引いた場合は、補講日にて実習を実施する。実習期間が短いため必ず補講する。

科目名	母性看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	3年	後期
担当者名	安成 智子、伊藤 美穂	関連する資格	看護師 保健師	

授業概要

妊産褥婦および胎児/新生児とその家族の特徴を包括的に理解し、援助するための看護実践方法について学ぶ。  
産科病棟・産科外来において、2週間の実習を行う。

到達目標

1. 妊婦/胎児とその家族のアセスメントを通して、対象者の全体像を理解することができる。
2. 産褥期の母子のよりよい適応や成長発達を促すようなウェルネス型の看護過程を展開することができる。
3. 生命の尊厳、生命倫理について考察し、自分の生命観・母性観への影響を述べるることができる。
4. 母子保健医療チームの一員としての看護師の役割や、他職種との連携について理解することができる。

成績評価方法

実習に臨む態度や、知識・技術を用いて看護を展開しようとする意欲・判断力を、本人の行動と記録から総合的に評価する。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度					○		10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		30

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
看護学臨地実習ガイドブック参照	
授業外学習	
受け持ち対象者の看護に必要な知識は、確実に事前学習しておくこと。 実際に行う看護技術を実習前のオリエンテーションで確認するため、実習室の開放時間を利用して繰り返し練習すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
各自で母性看護学 のテキスト・配布資料を活用すること。 その他、教員が施設ごとに参考書を持参する。	看護過程論 母性看護学 母性看護学

課題に対するフィードバック

前日の実習内容の記録は、次の日の実習開始前に提出すること。教員は必要部分について指導ならびに再提出の指示を行い、返却する。

備考

科目名	老年看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	2年	後期
担当者名	原田 博子、松本 涼太、江口 恵里	関連する資格		

授業概要

病院で療養している高齢者および通所サービスを利用している高齢者を通して、老年期の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、高齢者の抱える日常生活や健康に関する課題について考察する。また、高齢者の個別性を尊重した基本的態度を養う。

到達目標

1. 病院で療養している高齢者の特徴を知ることができる。
2. 通所サービスを利用している高齢者の特徴を知ることができる。
3. 高齢者を支えるケアサービスの特徴について説明できる。
4. 看護学生としての基本的態度を養うことができる。

成績評価方法

出席状況、実習態度、実習記録、技術演習、レポート等を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック（老年看護学実習）参照            老年 で学んだ高齢者の生活援助技術・基礎看護学演習 で学んだ基礎看護技術については、実習先で使用します。また、受け持ち患者さんの状態に合わせて疾患や治療や必要な看護援助について調べてくること。</p>	
授業外学習	
<p>実習前に事前課題を出します。締め切りまでには必ず提出すること。            実習ガイドブックを熟読し、積極的に取り組むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：老年看護学（医学書院）</li> <li>・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院）</li> </ul>	<p>老年看護学 の単位を習得しておくことが必要            老年看護学 、老年看護学実習 、総合看護実習 ・</p>

課題に対するフィードバック

提出した事前課題は実習前に返却します。実習先に持参してください。

備考

科目名	老年看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	4年	前期
担当者名	原田 博子、松本 涼太、江口 恵里	関連する資格		

授業概要

実際の療養場面を通して老年期にある人々を身体的、精神的、社会的側面から包括的(総合的)に理解し、健康の回復、維持・増進を目指した個別的・倫理的看護を実践するための基礎的能力を養う。  
 また、高齢者を中心とした保健・医療・福祉における多職種連携のあり方と、看護の役割を学ぶ。さらに、自分自身の高齢者観を深め、看護職としての基本的態度・姿勢を養う。

到達目標

1. 健康上の問題による日常生活への影響について理解できる。
2. 受け持ち高齢者に対する看護を展開できる。
3. 高齢者に対して、尊厳性に基づいた関わりができる。
4. 保健・医療・福祉における多職種連携と看護の役割を理解できる。
5. 実習を通して、自分自身の高齢者観を深めることができる。

成績評価方法

実習態度、実習記録、レポート等を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							80

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック（老年看護学実習）参照</p>	
授業外学習	
<p>実習ガイドブックに明記しているように、実習に向け事前課題に取り組むこと。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：老年看護学（医学書院） 老年看護 病態・疾病論（医学書院）</li> <li>・参考書：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図（医学書院）</li> </ul>	<p>基礎看護学、成人看護学、老年看護学 ・ 、老年看護学実習、総合看護実習 ・</p>

課題に対するフィードバック

提出した事前課題については、実習前に返却します。

備考

科目名	精神看護学実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	4年	前期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

精神の健康に障害をもつ対象を、身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、対象への日常生活または治療的援助の方法や社会復帰に向けての働きかけについて、実践を通して修得する。  
 実習は、精神科病院および社会復帰施設で行う（2週間）。

到達目標

精神障害者とかかわることができる  
 精神科の治療やケアを説明できる  
 院内で行われている様々な活動に参加し、患者と関わりを持つことにより、精神障害を体験的に理解できる  
 病棟に入院中の患者や病院・施設の利用者とのコミュニケーションを通じて、自己の対人関係を振り返る

成績評価方法

実習記録、実習態度、出席状況を総合判断する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○		60

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照	
授業外学習	
事前学習課題を必ず行って臨むこと 既習科目はすべて復習して臨むこと 記録類については、日々行うこと 学習時間として毎日180分程度	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	精神看護学、 看護学すべて

課題に対するフィードバック

備考

科目名	基礎ゼミナール						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
演習	必修	2	1年	通年(前期)			
担当者名	原田 博子、名尾 朋子		関連する資格				
<b>授業概要</b> 少人数でのグループ学習を通じて、大学生として必要な基本的態度や学習技術、学習習慣を身につけ、大学生活への動機付けとする。また、自ら考え・学ぶ姿勢、相手の意見を聴く姿勢を身につけることから、コミュニケーション能力を獲得する。ディスカッションに必要なコミュニケーション技術を身につけるとともに、グループワークを通じて、自らの考えをまとめ、他者に伝える能力を身に付ける。さらに、医療人として人々の健康を学ぶ。							
<b>到達目標</b> ・大学生として、学習に向けての基礎的な学習態度・習慣を身に付ける。 ・自分自身の生活を見直すことにより、健康な生活を理解し、健康の維持に必要な日常生活を身に付ける ・看護学生として人命救助の技術を習得する。 ・看護学生としての世界共通マナーを理解し、カンファレンス・学会等の準備力を身に付ける 6回			<b>成績評価方法</b> 講義レポート、定期試験、出席状況、演習・グループワーク参加状況、課題などを総合判断する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							25
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							36
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							5
グループワーク							24
演習							10
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 3限：看護系大学増加の歴史的背景と看護学学士を目指す意義(専門職としての看護師とは) 図書館ツアー4限：総合医療論 序章【予習】序章を読んでレポート作成45分【復習】自分の1週間の食生活のレポート作成45分	グループワーク
2) 3限：健康な生活を考え、今後の生活を見直す 生活の理解 健康21の説明 食事4限：大学生としてのマナー【予習】食事のバランスガイドについて調べてくる45分【復習】食事についての講義内容をまとめる45分	グループワーク キャリアセンター角光課長
3) 3限：総合医療論 1章 4限：社会人基礎力とは【予習】1章を読んでレポート作成45分 【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク ブログ
4) 3限：宇部フロンティア大学の歴史 4限：総合医療論2章【予習】2章を読んでレポート作成45分【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク
5) 3限：生活の理解 健康21の説明 活動と休息 4限：総合医療論 3章 【予習】3章 を読んでレポート作成45分【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク
6) 3限：生活の理解 健康21の説明 嗜好品 4限：総合医療論 3章 【予習】3章 を読んでレポート作成45分【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク
7) 3限：生活の理解 健康21の説明 清潔と整容 4限：総合医療論 4・5章【予習】4・5章を読んでレポート作成45分【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク
8) 3限4限：健康人にとっての睡眠睡眠の異常(睡眠時無呼吸障害、夜勤交代制による睡眠への影響、高齢者の睡眠等睡眠の異常の病態、身体への影響)【予習】自分の睡眠時間を調べてくる45分【復習】講義ノートの作成45分	中部大学生命健康科学研究所宮崎総一郎教授
9) 3限：学生調査結果の説明 4限：総合医療論6章AB【予習】6章を読んでレポート作成45分【復習】総合医療論について話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	ブログ グループワーク
10) BLS講習演習以外のグループは課題学習【予習】今まで学んだ健康21の中からグループワークのための資料をそろえてくる45分【復習】話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	宇部市中央消防署演習 グループワーク
11) BLS講習演習以外のグループは課題学習【予習】今まで学んだ健康21の中からグループワークのための資料をそろえてくる45分【復習】話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	宇部市中央消防署演習 グループワーク
12) BLS講習演習以外のグループは課題学習【予習】今まで学んだ健康21の中からグループワークのための資料をそろえてくる45分【復習】話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	宇部市中央消防署演習 グループワーク
13) 3限：B型肝炎感染の歴史とその知識 4限：総合医療論6章CDE【予習】6章CDEを読んでレポート作成45分【復習】話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	グループワーク
14) 3限：海外で活動する看護師 4限：総合医療論7章A=D【予習】7章を読んでレポート作成45分【復習】話し合ってもわからなかった言葉や内容を調べる45分	松本看護部長 グループワーク
15) 3限総合医療論7章E-H 4限課題学習のプレゼンテーション【予習】プレゼンテーションの準備45分【復習】前期ノートのまとめ資料作り60分	演習 グループワーク
授業外学習	
事前課題のために60分：テキストとして使用する総合医療論の講義内容を読んで要約を次回授業の際提出すること。事後課題のために45分 授業の後わからなかった言葉を自分で調べてください。調べた言葉と意味は提出レポートに記載して提出すること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統看護学講座総合医療論・医学書院	

課題に対するフィードバック

備考

この科目は通年授業科目です。主に1年生のチューター6人が担当します。なお、前期は、2コマ授業となります。非常勤講師の講義もありますので、講義内容および日程は変更することがあります。

科目名	基礎ゼミナール			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	1年	通年(後期)
担当者名	原田 博子、名尾 朋子	関連する資格		

**授業概要**

少人数でのグループ学習を通じて、大学生として必要な基本的態度や学習技術、学習習慣を身につけ、大学生活への動機付けとする。また、自ら考え・学ぶ姿勢、相手の意見を聴く姿勢を身につけることから、コミュニケーション能力を獲得する。ディスカッションに必要なコミュニケーション技術を身につけるとともに、グループワークを通じて、自らの考えをまとめ、他者に伝える能力を身に付ける。さらに、将来の目指す方向を見据え、キャリア・デザインを明確にする。

**到達目標**

- ・大学生として、学習に向けての基礎的な学習態度・習慣が身につく。
- ・コミュニケーション技術が身につく。
- ・自分自身の生活を見直すことができる。
- ・情報管理の重要性がわかる
- ・自らの役割を果たし、グループワークを有意義に進めることができる。
- ・将来に向けた具体的な行動目標を立てることができる。

**成績評価方法**

講義レポート、最終レポート(定期試験)、出席状況、ゼミナール参加状況、課題などを総合判断する。

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							20	
小テスト、授業内レポート							20	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度								
プレゼンテーション							10	
グループワーク							20	
演習							20	
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ベッドまわりの環境学を学ぶ必要性 後期ゼミオリエンテーション【予習】ベッド周りの環境学序章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	
2) 学生としての心得【復習】後期に向けての自分の行動目標を作成する45分	キャリアセンター角光課長
3) 放火訓練 演習【予習】事前に学内の設備を調べてくる45分【復習】本日のまとめをし次回の演習の準備をする45分	宇部市消防局
4) 防火訓練 演習【予習】事前火災時に必要な行動について調べてくる45分【復習】本日のまとめをし次回の予定の章を読んでくる45分	宇部市消防局
5) ベッドまわりの環境学1章の1【予習】ベッド周りの環境学1章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	グループワーク
6) ベッドまわりの環境学1章2,3【予習】ベッド周りの環境学1章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	グループワーク
7) 難病患者さんの体験【予習】難病について調べてくる45分【復習】感想のレポートの作成と提出	レポート提出
8) ベッドまわりの環境学2章1,2【予習】ベッド周りの環境学2章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	グループワーク
9) ベッドまわりの環境学2章3,4【予習】ベッド周りの環境学2章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	グループワーク
10) ディスカッション力・発散型討議法（ブレインストーミング）と収束型討議法 ベッドまわりの環境学2章5、6【予習】ベッド周りの環境学2章を読んでくる45分【復習】本日のまとめノートの作成45分	中間テスト
11) 医療従事者の健康【復習】本日のまとめノートの作成45分	名尾先生
12) プロセスレコードの書き方・実習の振り返り プロセスレコードを学ぶ【予習】実習で体験したことを振り替える45分【復習】プロセスレコードの記載45分	
13) プロセスレコードによるグループワーク【復習】ベッドまわりの環境学の中で特に興味がある章をよみ、テーマを考える45分	発表
14) KJ法について講義【復習】テーマに沿ったカードを作成してくる	KJ法グループワーク
15) KJ法による演習・プレゼンテーション 「自分たちが求める快適な療養環境」	プレゼンテーション
授業外学習	
前期と同様に指示された教科書の部分を読んで、要約する。事前課題45分 当日の内容を再度、自分なりに調べ、まとめてレポートする 事後学習 45分	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
川口孝泰：ベッドまわりの環境学、医学書院	基礎看護技術、看護学概論、成人看護学総論

課題に対するフィードバック

グループワーク・演習レポートは確認後返却します。

備考

科目名	総合ゼミナール			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	4年	後期
担当者名	佐藤 美幸、柿並 洋子、木元 卓也	関連する資格	保健師国家試験受験資格	

授業概要

保健・医療・福祉の現場において看護活動を実践するにあたっては、他職種との連携・協働が求められる。総合ゼミナールにおいては、本学で養成する看護職、福祉職、心理職等を学ぶ学生が各部門に共通する問題を抱えた事例についてカンファレンスを行い、各自の立場から検証するとともに、他職種との連携を体験し、その必要性を学ぶ。また、多職種間のコミュニケーション技術を身につけ、実践に強い看護職を目指す。

到達目標

- ・保健・医療・福祉の連携を説明できる
- ・多職種間でのコミュニケーションの重要性を体験する
- ・多職種間での連携の方法を述べるができる
- ・他の医療・福祉職の役割と立場を尊重した行動ができる
- ・他の医療・福祉職と協働できる
- ・多職種の協働における自分の役割を理解し、それに応じた言動ができる

成績評価方法

レポート、ゼミナール参加状況

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度			○		○		10
プレゼンテーション				○	○		10
グループワーク	○	○	○	○	○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 保健・医療・福祉の現場における看護活動 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）	
2) 看護師・保健師の立場から見た他職種との連携 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）	
3) 福祉/心理の立場から見た他職種との連携 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）	
4) 事例に基づく合同カンファレンス 【予習・復習】カンファレンスのための資料を読み、カンファレンスの準備を行う（予習：90分）	グループワーク
5) 事例に基づく合同カンファレンス 【予習・復習】カンファレンスのための資料を読み、カンファレンスの準備を行う（予習：90分）	グループワーク
6) 事例に基づく合同カンファレンス 【予習・復習】カンファレンスのための資料を読み、カンファレンスの準備を行う（予習：90分）	グループワーク
7) 事例に基づく合同カンファレンス 【予習・復習】カンファレンスをもとに発表準備を行う（復習60分）	グループワーク
8) 保健・医療・福祉の役割と課題（発表・まとめ）	グループワーク
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
グループワークに必要な情報、知識は各自で集めてグループワークに臨むこと	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
資料配付	

課題に対するフィードバック

備考

2日間の集中講義で行うため、原則として、すべての講義・グループワークに参加すること。  
カンファレンスについては、自分の立場で積極的に参加すること。

科目名	看護管理学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	1	3年	前期			
担当者名	原田 博子		関連する資格	看護師			
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護管理は、患者・看護師の一つ一つの「ケア」を組織的な看護サービスとしてマネジメントすることであることを理解する。</li> <li>・看護専門職としての質の高い看護サービス提供に対する責務の観点から、看護の組織に属するメンバー一人ひとりが看護管理の知識を持ち、あらゆる場でそれらの知識を活用することが必要であることを理解する。</li> <li>・看護を取り巻く諸制度や看護の国際協力にはどのような組織、仕組みが関わっているかを理解する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1看護管理の定義を述べる</li> <li>2看護の目的を達成するための組織運営について述べる</li> <li>3看護を取り巻く諸制度について説明する</li> <li>4マネジメントに必要な知識と技術を列挙する</li> <li>5看護管理の視点からその取り組みを工夫する</li> <li>6病院における看護管理の実際を分かち合う</li> <li>7看護師として連携・調整・協働の視点で他職種に配慮する</li> </ol>				<b>成績評価方法</b> 小テスト、課題レポート、グループワーク、定期試験			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) シラバスの説明、第1章看護とマネジメント 【予習】第1章を読んでくる【復習】マネジメントの変遷レポート課題45分	管理という言葉のイメージについて話し合い ナイチンゲール小管理資料レポート
2) 第2章A B看護サービスのマネジメント 医療制度 【予習】2章のA Bを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	まとめのノート作成方法
3) 第2章C看護サービス提供方式 看護提供方式 【予習】2章Cをよんでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
4) 第2章D人材マネジメント人材活用 労務管理 ワーク・ライフ・バランス 【予習】2章Dを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
5) 第2章E人材マネジメント人材活用 看護業務の実践 【予習】2章Eを読んでくる【復習】1 - 5回のまとめのテスト準備45分	
6) 第5章 A B組織とマネジメント リーダーシップ 1 - 5回のまとめの小テスト 【予習】第5章 A B Cを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
7) 第4章看護サービスのマネジメント A B 【予習】第4章 A Bを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
8) 第4章看護サービスの提供の仕組み 【予習】第4章Cを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
9) 第4章D 人材のマネジメント 【予習】第4章を読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
10) 第4章 労働環境 6 - 10回まとめの小テスト 【予習】第4章を読んでくる【復習】小テストの振り返り45分	はたさぼを見て話し合おう
11) 第4章施設・設備環境のマネジメント、物品のマネジメント 【予習】第4章E Fを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
12) 第4章組織のリスクマネジメント サービスの評価 【予習】第4章H Iを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	自分たちの受けた看護について話し合い発表
13) 第5章D組織の調整 【予習】第5章Dを読んでくる【復習】本日のまとめのノート作成45分	
14) 第6章 看護を取り巻く諸制度 【予習】第6章A Bを読んでくる【復習】11回から14回までのまとめ45分	ナイチンゲールレポート提出
15) 第6章看護を取り巻く諸制度 看護の専門性 医療制度、小テスト 【予習】第6章を読んでくる【復習】全体のまとめノートの確認45分	なりた看護管理者像について話し合おう
授業外学習	
<p>授業前後には、必ず予習45分と復習レポート課題45分をして出席するようにしてください。 この授業は、4年生の統合実習につながる教科目です。 遅刻・早退・中抜け15分以上は欠席とします。欠席が3分の2以上ある場合は、未履修となります。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト・系統看護学講座 看護管理 医学書院 参考書・基礎看護学 看護管理 メディカ出版・ナイチンゲールの覚書</p>	<p>看護学概論、医療経済論、医療安全管理学、看護情報論、統合看護実習</p>

課題に対するフィードバック

3回のテスト結果は、採点后返却します。  
14回目のレポートは、最終日にコメントをつけて返します。

備考

科目名	看護教育学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	4年	前期
担当者名	佐藤 美幸	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

看護教育制度と看護教育方法の現状と課題を理解し、看護学への関心を深め、質の高い看護のための学ぶ姿勢を身につける。

到達目標

看護学の歴史と教育制度の変遷を理解する  
看護教育制度の現状を理解し、課題について考える  
看護専門職者としての継続教育を理解する  
質の高い看護実践のために必要な看護教育について自らの考えを述べることができる

成績評価方法

課題レポート (80%)  
グループワーク (20%)

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○	○				80
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション			○	○	○		
グループワーク		○	○	○	○		20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 看護教育とは 【予習・復習】配布された資料を読み、復習をする（15分）	
2) 看護教育の歴史と教育制度の変遷 【予習・復習】配布資料に目を通す（20分）	
3) 看護教育制度 1 看護基礎教育（看護師・准看護師、保健師、助産師の教育システム） 【予習・復習】配布資料に目を通す（20分）	
4) 看護教育制度 2 看護基礎教育（大学における教育） 【予習・復習】配布資料に目を通す（20分）	
5) 看護教育制度 3 継続教育 【予習・復習】配布資料に目を通す（20分）	
6) 看護教育制度 4 卒後教育 【予習・復習】配布資料に目を通す（20分）	
7) 看護教育の実際 1 看護学科の教育課程を見てみよう 【予習・復習】事前に課題を課すため、課題を作成する（90分）	グループワーク
8) 看護教育の実際 1 自分の希望する病院の卒後教育を見てみよう 【予習・復習】事前に課題を課すため、課題を作成する（90分）	グループワーク
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
グループワークの際には、事前課題を課す	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
資料配付	

課題に対するフィードバック

授業時間内でコメントする

備考

科目名	看護情報論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	原田 博子	関連する資格		

授業概要

看護活動に必要な看護情報に焦点を当てて、看護情報とは何か、看護と情報科学の関連や医療情報システムおよび看護情報システムの概要、看護過程や看護記録との関連について学ぶ。また、看護記録等からの看護情報の検索、蓄積、伝達について基本的な事柄を学び、医療情報システムの在り方をしる。

到達目標

1. 看護活動に必要な情報の特徴を説明する
2. 医療情報システムと看護
3. 情報収集や情報提供のあり方を倫理的視点から説明する
4. 看護実践場面での看護情報の具体的活用方法について説明する。

成績評価方法

小テスト、課題レポートと看護記録演習参加によって評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							50
宿題、授業外レポート							40
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							5
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 第1章看護情報学とは、第2章情報化社会【予習】情報リテラシーについて調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
2) 第6章情報と倫理 第8章個人情報の保護グループワーク個人情報と守秘義務プライバシーの違いについて話し合い発表する【予習】情報倫理について調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
3) 患者の権利と情報 第7章 医療面接【予習】実習の中で体験したコミュニケーションについてレポートを作成する45分【復習】配布資料のノート整理45分	レポート 小テスト
4) 医療における情報システム第5章 A 医療における情報の記録【予習】情報リテラシーについて調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
5) 医療における情報システム第5章 B 病院情報システムと記録の仕方【予習】電子カルテのメリットとデメリットについて調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
6) 看護と情報 第4章【予習】看護記録の目的と課題を調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
7) 看護記録の実際、看護記録と法的根拠 3つの看護記録の方法事例に基づく記録を作成し提出する【予習】3つの看護記録の方法について調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト
8) 臨床における看護記録の課題 電子カルテの運用、看護実践用語、看護必要度に基づく看護記録【予習】看護必要度について調べてくる45分【復習】配布資料のノート整理45分	小テスト 課題レポート
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
最終回まで受講した後、自分が定めたテーマにもとづいて課題レポートを提示された日時までに提出する。事前学習45分次回授業内容を予習する。事後学習45分：授業後自分でインターネット等を使用してわからなかったことや興味あることを調べて報告する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト：看護情報学、医学書院 参考書：基本から学ぶ看護過程と看護診断、医学書院 看護観察判断基準マニュアル、メディカ出版	成人看護学実習 総合実習

課題に対するフィードバック

レポート・小テストはその都度コメントして返却します

備考

科目名	身体コミュニケーション論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	佐藤 美幸	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

コミュニケーションの重要性をふまえて、様々な看護場面において対象に応じた方法を用いて対象者と接することができるよう、知識と技術を実践的に学ぶ。具体的には、コミュニケーションスキル、レクリエーション、アロマセラピーなどの技術を通して、それらを実践に活用するための基礎的能力を養う。

到達目標

1. 医療現場におけるコミュニケーションの重要性について理解できる
2. 様々なコミュニケーション技法について知ることができる
3. 音楽療法、レクリエーション、アロマセラピーの看護への応用の方法が理解できる
4. 対象に応じたレクリエーションの企画・運営ができる
5. コミュニケーションの技術を用いて対象との良好な関係を持つことができる

成績評価方法

レポート(60%)、授業内レポート(20%)、グループワーク、演習等(20%)にて評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート	○	○	○				20
宿題、授業外レポート	○	○	○				60
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○	○	○	○		10
グループワーク	○	○	○		○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 医療の現場における様々なコミュニケーション1 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		グループワーク
2) 医療の現場における様々なコミュニケーション2 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		グループワーク
3) 医療の現場における様々なコミュニケーション3 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		グループワーク
4) 医療の現場における様々なコミュニケーション4 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		グループワーク
5) 身体を使ったコミュニケーションスキル（レクリエーション） 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		小レポート
6) アロマの看護への活用 【予習・復習】配布資料を読んで復習する（15分）		小レポート
7) レクリエーションを考えてみよう1 【予習・復習】グループワークのための材料を集める（予習 30分）		グループワーク
8) レクリエーションを考えてみよう2 【予習・復習】グループワークの発表のための準備を行う（30分）		グループワーク
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
資料配付		

課題に対するフィードバック

授業内でコメントする。

備考

演習・グループワークが多い科目です。自ら学ぶ姿勢で臨んで下さい。

科目名	公衆衛生看護学概論						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	必修	2	2年	後期			
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、山崎 千鶴 代、新開 奏恵		関連する資格				
<b>授業概要</b> 公衆衛生看護活動を理解するため、公衆衛生看護およびヘルスプロモーションの概念に基づいた活動原則と方法を学ぶ。また、公衆衛生看護の対象となるすべてのライフステージにおける個人・家族・集団・地域社会の視点からの看護活動の意義、目的、役割を探究する。 授業内容により、学生相互でディスカッションやグループ学習を通して、公衆衛生看護活動の理解を深める。							
<b>到達目標</b> 公衆衛生看護の基本的な考え方（エビデンス含む）と活動の場、役割、活動方法を学ぶ。			<b>成績評価方法</b> 授業態度・授業参加態度（20点） レポート・ミニテスト（10点） 定期試験（70点） 上記を基準として総合的に評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 健康と生活	レポート
2) 社会の変化と健康課題	グループワーク
3) 公衆衛生看護の理念	
4) 公衆衛生看護学の歴史	
5) 公衆衛生看護の対象	
6) 公衆衛生看護の場	
7) 行政（地域保健）における公衆衛生看護活動	
8) 学校（学校保健）における公衆衛生看護活動	
9) 職域（産業保健）における公衆衛生看護活動	ミニテスト
10) 医療や福祉施設における公衆衛生看護活動	
11) 公衆衛生看護活動の基盤	
12) 公衆衛生看護活動の展開	
13) 公衆衛生看護活動の展開	
14) 地域看護診断と公衆衛生看護活動の展開	
15) 公衆衛生看護管理	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。常に知識の強化を図ってください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「標準保健師講座 公衆衛生看護学概論」医学書院 （財）厚生労働統計協会編集「厚生指針 国民衛生の動向 2019/2020」	人間・地域社会・環境関連基礎科目、公衆衛生学、社会福祉論、家族論・家族関係論、コミュニケーション論、災害看護論、人間関係論

課題に対するフィードバック

備考

科目名	在宅看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	前期
担当者名	清水 佑子、梁元 陽子	関連する資格		

授業概要

在宅看護論の概論として、在宅看護論 および在宅看護論実習の基礎となる理念や問題を学習する。ここでは、在宅看護を支えるシステム・理論や疾病や障害、虚弱のために看護ニーズをもつ在宅療養者とその家族の特徴について学習するとともに、社会情勢の変化に即した在宅看護のあり方について学習する。

到達目標

1. 在宅看護の歴史、背景、目的、対象について述べることができる。
2. 在宅看護における活動の場の特徴について説明できる。
3. 在宅療養を支える他職種や他機関の連携、ケアマネジメントの必要性について理解できる。
4. 在宅療養を支える制度、ケアシステム、社会資源および保健・医療・福祉専門職の役割について説明できる。
5. 家族アセスメント、家族支援の方法について具体的に説明できる。
6. 在宅看護の課題と展望について自己の意見を述べ、グループで協力して発表できる。

成績評価方法

期末定期試験  
小テスト  
授業外レポート  
授業への意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 在宅看護の概念 日本の在宅看護の歴史と現状【予習】45分 P12 - 31を読んで、わからない用語を調べる【復習】45分 本日の講義ノートをまとめる	
2) 在宅看護の倫理と基本理念 在宅ケアと在宅看護【予習】45分 P32 - 39を読んで、わからない用語を調べる【復習】小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
3) 在宅療養者と家族の支援 【予習】45分 P42 - 51を読んで、わからない用語を調べる【復習】小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	小テスト
4) 在宅看護の対象者の理解 【予習】45分 P52 - 66を読んで、わからない用語を調べる【復習】課題レポートの作成と本日の講義をノートにまとめる。小テストのための復習45分	小テスト 授業外レポート課題
5) 訪問看護の特徴、役割と機能 【予習】45分 P164 - 176を読んでくる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
6) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 【予習】45分 P164 - 176を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
7) 訪問看護の実際 【予習】45分 P177 - 184、P184 - 189を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
8) 地域包括ケアシステムと在宅ケア 【予習】45分 P70 - 77を読んで、わからない用語を調べる【復習】小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
9) 他職種との連携とケアマネジメント 【予習】45分 P77 - 94を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
10) 在宅ケアシステムの実際 【予習】45分 P95 - 109を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
11) 在宅ケアを支える法制度と社会資源；医療保険 【予習】45分 P112 - 119を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
12) 病院と家庭をつなぐ退院支援【予習】45分 P151 - 159、52 - 66を読んで、退院支援に必要な情報とは何かまとめてくる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
13) 要介護高齢者に対する在宅看護 【予習】45分 P155 - 163を読んで、高齢者虐待法の背景と課題について考えてくる【復習】45分本日の講義をノートにまとめる。	小テスト
14) 高齢者を支える制度と社会資源【予習】45分 P153 - 155を読んで、各制度の目的・背景・内容について調べる【復習】45分本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する	
15) 障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 【予習】45分 P136 - 149を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
16) 障害者に対する在宅看護【予習】45分前回の講義をふまえて障害者を支える制度のおかれている課題を考えてくる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
17) 在宅難病療養者を支える制度と社会資源 【予習】45分 P147 - 150を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	小テスト
18) 難病療養者に対する在宅看護【予習】45分 P147 - 150を読んで、指定難病による制度の課題を考えてくる【復習】45分本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する	
19) 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 【予習】45分 P151 - 153を読んで、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	小テスト
20) 子どもに対する在宅看護【予習】45分前回の講義をふまえてその家族に必要な支援について考えてくる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	

21)	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源【予習】45分 P 153 - 155を読んで、わからない用語や制度について調べる【復習】本日の講義をノートにまとめ、在宅高齢者の権利が侵害されていると考える事案を書き出す45分	小テスト
22)	認知症に対する在宅看護と高齢者虐待 【予習】45分 P 251の事例を読んで、答えを考えてくる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
23)	在宅療養における住宅改修・福祉機器の活用 【予習】45分 P 237 - 260の事例の中からひとつ選択して、どのような住宅改修や福祉機器が必要か考えてくる。【復習】45分	小テスト
24)	在宅リハビリテーション 【予習】45分どのような疾患や病態の場合にリハビリテーションが行われるのか調べておく【復習】本日の講義をノートにまとめる。45分	
25)	在宅ターミナルケア【予習】45分ターミナルケア時の課題について考えてくる。さらに、わからない用語を調べる【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	
26)	在宅看護の課題と展望について【予習】45分 P 260 - 270を読んで、わからない用語を調べる【復習】授業外レポートの作成。グループワークのテーマに沿って発言内容を考えてくる45分	小テスト 授業外レポート課題
27)	在宅看護の課題と展望について 【予習】45分課題レポートの完成【復習】本日の講義をノートにまとめる。小テストに備えて今まで学んだことを復習する45分	小テスト グループワーク
28)	在宅看護の課題と展望について【予習】45分グループワークで発言できるよう準備しておく【復習】本日の講義をノートにまとめる。プレゼンテーションの準備45分	小テスト グループワーク
29)	在宅看護の課題と展望について 【予習】45分プレゼンテーションの準備を各グループで行う【復習】プレゼンテーションの準備ディスカッションできるよう準備する45分	プレゼンテーション
30)	講義のまとめ【予習】今まで学んだ内容の資料をまとめてくる【復習】定期試験に向けて不明な点をまとめて質問できるようにする45分	プレゼンテーション

#### 授業外学習

授業計画に沿って、テキストを熟読してください。

奇数回の授業開始時、小テスト（前回講義内容）があります。講義資料、テキストを復習してください。

27)についてレポートを作成し、考えおよび意見をグループワークで発言できるようにしておいてください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
<テキスト> 櫻井尚子他編；ナーシンググラフィカ在宅看護論地域療養を支えるケア，メディカ出版<参考書>スーディ神崎和代：在宅看護学講座，ナカニシヤ出版/山崎摩耶他：患者とともに創める退院調整ガイドブック，中央法規出版/宇都宮宏子編著：退院支援ナビ，医学書院/篠田道子編：ナースのための退院調整，日本看護協会出版会	公衆衛生看護学概論，社会保障論，社会福祉論，看護学概論，看護理論，家族論・家族関係論，緩和ケア論，成人看護学総論，成人看護学・，小児看護学・，老年看護学・，精神看護学・

#### 課題に対するフィードバック

小テストやレポート課題は採点の上返却します。

#### 備考


科目名	在宅看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	必修	2	3年	後期
担当者名	清水 佑子、梁元 陽子	関連する資格		

授業概要

在宅療養者とその家族に対する看護実践のために必要な、知識・技術について学習する。在宅看護論実習の基盤となる科目として、その根拠と技術内容、また在宅療養者を援助する方法をイメージ化できるように、事例を通して療養者と家族の健康問題をアセスメントし、援助する方法について学習する。対象のQOLを向上させるために、問題や課題に合った方策を立て、在宅看護の提供に必要な知識と技術を習得する。

到達目標

1. 療養者や家族と信頼関係を形成するための方法について述べるができる。
2. 在宅における生活支援技術を具体的に述べるができる。
3. 在宅における医療処置管理方法について説明できる。
4. 在宅におけるリスクマネジメントの必要性について理解できる。
5. 在宅看護過程を展開し、事例に応じた対象の問題や課題を明確にできる。

成績評価方法

期末定期試験  
小テスト  
授業外レポート  
授業・グループワークへの意欲・態度

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 在宅におけるコミュニケーション【予習】基礎看護学・老年看護学で学んだコミュニケーションに関する資料を見て、グループワークで発言できるよう準備しておく45分【復習】講義の内容、在宅でのコミュニケーションの特徴をまとめる45分	グループワーク
2) 初回訪問時の面接技術【予習】ロールプレイングを実施する患者設定や役割等準備をしてくる45分【復習】1回目と2回目をふまえて、在宅訪問する際の留意点をまとめる45分	ロールプレイング
3) 在宅における援助技術：生活ケアと医療ケア / 生活ケア 食と栄養のアセスメント【予習】基礎・老年看護学で学んだ食の援助・嘔下の5期をまとめる【復習】在宅における食のアセスメント・援助方法を復習し、小テストのための準備をする45分	
4) 生活ケア 排泄 / 清潔【予習】今まで学んだ排泄ケア(オムツ交換を含む)・清潔ケア(口腔ケアを含む)についてまとめる45分【復習】在宅における排泄や清潔のアセスメント、援助方法についてまとめ、小テストの準備をする45分	小テスト
5) 生活ケア 移動 / 呼吸【予習】今まで学んだ移動の援助・呼吸のフィジカルアセスメントについてまとめる45分【復習】在宅における移動の援助方法、呼吸の援助方法についてまとめ、小テストの準備をする45分	小テスト
6) 医療ケア 服薬・化学療法・放射線療法【予習】成人看護学で学んだ化学療法・放射線療法の看護についてまとめる45分【復習】在宅における服薬管理・インシュリンの自己注射や治療を受ける療養者のセルフケア支援についてまとめる45分	小テスト
7) 医療ケア 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法【予習】成人看護学で学んだ酸素療法・人工呼吸療法についてまとめる【復習】在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法の適応・指導・安全管理についてまとめる45分	演習
8) 医療ケア ストーマ・膀胱留置カテーテル【予習】基礎・成人看護学で学んだストーマケア・膀胱留置カテーテル管理についてまとめる45分【復習】在宅におけるストーマ・膀胱留置カテーテルの適応と指導・安全管理についてまとめる45分	小テスト
9) 医療ケア 在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法【予習】基礎看護学で学んだ経管栄養法・中心静脈栄養法についてまとめる【復習】在宅における経管栄養法・中心静脈栄養法の適応と指導・安全管理についてまとめる45分	小テスト
10) 医療ケア 良肢位の保持と褥創予防と処置 / 在宅におけるターミナル期の援助【予習】基礎看護学で学んだポジショニング・褥創についてまとめる。【復習】在宅におけるターミナルケアの特徴をまとめる45分	
11) 在宅看護過程の考え方【予習】基礎で学んだ看護過程の資料を見直す45分【復習】在宅における看護過程の考え方の特徴をまとめる45分	小テスト
12) 看護過程の展開(1)アセスメント【予習】アセスメントに必要な情報について整理する45分【復習】レポート課題の作成をする45分	授業外レポート課題 個人ワーク
13) 看護過程の展開(2)関連図、問題、課題の明確化【予習】既習の関連図の描き方や課題の明確化について復習する45分【復習】レポート課題を作成する45分	授業外レポート課題 個人ワーク
14) 看護過程の展開(3)【予習】グループワークで発言できるよう準備する45分【復習】レポート課題を作成する。プレゼンテーションの準備をする45分	授業外レポート課題 グループワーク
15) 看護過程の展開(4)まとめ【予習】グループでプレゼンテーションの準備をする45分【復習】プレゼンをふまえてこ人の課題を明確にし、前授業のひりかえりをしてまとめる45分	プレゼンテーション
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストを熟読してきてください。授業開始時、小テスト（前回講義内容）があります。講義資料、テキストを復習してください。	
14)までにレポートを作成し、考えおよび意見をグループワークで発言できるようにしておいてください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>&lt;テキスト&gt;櫻井尚子他編；ナースングラフィカ在宅看護論 地域療養を支えるケア第5版，メディカ出版</p> <p>&lt;参考書&gt;スーディ神崎和代：在宅看護学講座，ナカニシヤ出版，2012/角田直枝編：知識が身につく！実践できる！在宅看護，学研，2012.</p>	<p>在宅看護論 ，公衆衛生看護学概論，看護学概論，看護過程論，家族論・家族関係論，基礎看護方法論 ，基礎看護方法論演習 ，医療安全管理学，臨床看護総論，老年看護学</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	緩和ケア論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	3年	前期
担当者名	齊田 菜穂子	関連する資格		

授業概要

死の意味は個々の生きてきた過程やその中で培われた人生観、死生観によって異なる。人生の大切な最期の短い時期を患者は、どのように過ごし、家族はどのように支えるか。医療者はこの患者・家族に心身の援助をどのように実践していくのか。尊厳のある人間の生命を完結できるように援助するために必要な看護を学ぶ。

到達目標

終末期の患者を理解できる  
 終末期の対象の心理を理解できる。  
 終末期の症状と看護を理解できる。  
 家族看護について、理解できる。

成績評価方法

授業態度、レポート、定期テストで総合的に評価する

評価項目	評価基準							評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他		
定期試験(中間・期末)							70	
小テスト、授業内レポート							10	
宿題、授業外レポート							10	
授業態度・授業参加度							5	
プレゼンテーション								
グループワーク							5	
演習								
実習								

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 緩和ケアとは	グループワーク 授業内レポート 授業外レポート課題
2) 緩和ケアを取り巻く今日の状況、歴史的背景 【予習】該当するページを読んでおく。【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	
3) 倫理的問題、意思決定 【予習】該当するページを読んでおく。【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	レポート
4) 終末期患者の理解と援助 1 全人的苦痛 【予習】該当するページを読んでおく。【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	
5) 終末期患者の理解と援助 2 【予習】該当するページを読んでおく。【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	
6) 家族ケア（遺族ケアを含む） 【予習】該当するページを読んでおく。【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	
7) 看護師のストレス 【予習】教科書にはないので、一般的な看護師のストレスを自分なりに考えてくる。 【復習】授業で示したページ、資料を基に読み直しておく。	
8) 事例に対するグループ討議 【復習】まとめでもあるので、授業で示したページ、資料を基に読み直し、疑問があれば、授業中に質問する。	グループワーク
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当箇所を予習してください。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
初心者も活用できるがん医療・がん看護 改訂2版 南山堂 2013. 系統看護学講座別巻 緩和ケア 医学書院 2014	小児看護学、成人看護学、老年看護学、在宅看護学、基礎看護学

課題に対するフィードバック

- ・ 前回の授業のフィードバックを授業の最初に行う。
- ・ 小レポートは翌週、授業の中でコメントをする。授業外レポートについては、最後の授業で資料配布とコメントを行う。

備考

科目名	災害看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	後期
担当者名	滝川 洋子、原田 博子、尾家 重治	関連する資格		

授業概要

- ・災害及び災害看護に必要な基礎的知識を学び、災害が人々の生命や健康、生活に影響を及ぼすことについて理解を深める。
- ・災害発生時の社会の対応やしきみについて学習し、災害サ外における看護の果たす役割について学ぶ。
- \* 内容に応じ専門分野の特別講師の講義も含む。また災害復旧復興期および準備期の活動に関しては課題を提示し、グループワークを実施する。

到達目標

1. 災害および災害看護に関する基礎的知識を理解し、説明できる。
2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響について理解し、説明できる。
3. 災害に対する個人の備えや災害発生時の社会の対応について理解し説明できる。
4. 災害時の看護師・保健師が果たす役割と災害各期における各々の活動を理解し、説明できる。

成績評価方法

- ・授業態度、レポート内容、グループワーク、試験結果等を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							
グループワーク							5
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 災害に関する基本的知識 災害発生時の社会の対応やしきみ [予習]テキストp1～102を読んでおく（60分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業の内容確認をすること（30分）	
2) 災害各期における看護活動～災害急性期から亜急性期への対応～ [予習]テキストp103～123を読んでおくこと（30分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業の内容確認をすること（30分）	
3) 災害各期における看護活動～災害後中長期的な健康問題への対応～災害と感染看護 [予習]テキストp314～330、p126～130を読んでおくこと（30分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業の内容確認をすること（30分）	
4) 在宅療養、避難所、仮設・復興住宅における看護 課題提示しレポート作成 [予習]テキストp131～150を読んでおくこと（30分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業の内容確認をすること（30分）	グループワーク 授業内レポート提出
5) 災害時の備え・個人及び地域の備え 宇部市の防災危機管理体制 [予習]テキストp68～102を読んでおくこと（30分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業の内容確認をすること（30分）	グループワーク
6) 公衆衛生看護と災害 災害に対する保健師の役割 [予習]テキストp214～227を読んでおくこと（30分） [復習]課題レポートの作成（30分）	授業外レポート課題提示
7) 災害時に必要な看護技術 体系的対応の基本原則とトリアージ 応急処置・搬送 [予習]テキストp151～172を読んでおくこと（30分） [復習]課題レポートの作成（30分）	
8) 医療機関における災害看護 医療機関における災害への備え、初動体制・災害訓練 [予習]テキストp173～190を読んでおくこと（30分） [復習]テキスト及び資料で学習した授業内容の確認をすること（30分）	授業外レポート提出
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキストの該当単元を予習し、授業終了後復習しえおくこと。 レポートは提示された形式に沿ってまとめ、提出日時は守ること。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
・災害看護 南江堂	・既習の看護学科目、公衆衛生看護学、疫学・保健統計、公衆衛生学、保健医療福祉行政論、身体とコミュニケーション、社会保障論、社会福祉論等

課題に対するフィードバック

課題レポートは授業最終日にコメントをつけて返却する。

備考

科目名	国際看護論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	1	2年	前期
担当者名	未定	関連する資格		

授業概要

看護の対象は「人間」であり、看護という概念には、国境も人種も、文化も超えた国際看護という考え方が備わっている。本講義では、すべての看護職者に必要な国際看護に関する知識の基礎を学ぶ。

到達目標

1. 国際的視野を広げることができる。
2. 異文化・多文化を理解することができる。
3. 看護そのものが国際的な意味をもつことを理解できる。

成績評価方法

定期試験（レポート試験）、小テスト、課題、プレゼンテーションを総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○	○	○			50
小テスト、授業内レポート	○	○					20
宿題、授業外レポート	○	○	○				20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション		○	○	○			10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 国際看護のすすめ、異文化への理解	課題、グループワーク
2) 日本の国際協力、「人間の安全保障」と国際機関	課題、グループワーク
3) 健康格差と世界の貧困、プライマリヘルスケア	課題、グループワーク
4) 国際移動する看護師、性の多様性	課題、グループワーク
5) 感染症とスティグマ	課題、グループワーク
6) 災害と看護、紛争と難民	小テスト、グループワーク、課題
7) 国際協力への理解を深める	
8) これからの私たちの選択	プレゼンテーション、 レポート試験課題提示
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>1. 授業計画に記載されているテキストの該当単元の予習をして下さい。</p> <p>2. 小テストは講義済みの内容から出題するため、復習を欠かさず行って下さい。</p> <p>3. 15時間の講義に対して、30時間の時間外学修を行って下さい。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 近藤麻里：知って考えて実践する国際看護 第2版、医学書院 参考図書 講義内で提示します。</p>	看護学概論、災害看護論

課題に対するフィードバック

備考

人間健康学部ディプロマ・ポリシーとの関連性  
到達目標を達成することにより、「人への関心と学問の理解」、「柔軟な思考と表現力」、「地域に貢献する積極的態度」の要素を身につけることにつながります。

科目名	在宅看護論実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	2	4年	前期
担当者名	清水 佑子、梁元 陽子	関連する資格		

授業概要

自立支援に向けた在宅ケアシステムの概要を学ぶとともに、在宅で療養している対象者とその家族に対して、生活を尊重しながら生活の質(QOL)向上の視点から看護援助が実践できる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 在宅療養者とその家族について、生活状況をふまえた療養上の課題について説明できる。
2. 在宅療養者とその家族がもつ療養上の課題に対する訪問看護師の役割と、その活動について説明できる。
3. 保健・医療・福祉に携わる関連職種との連携・協働について理解できる。
4. 私生活の場に第三者が介入することの意味を考え、療養者および家族に配慮した行動がとれる。
5. 療養者が在宅で生活し続けるための在宅看護のあり方と在宅ケアシステムや社会資源について考察できる。

成績評価方法

- 提出物
- 実習記録
- 授業外レポート
- 実習評価表

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							25
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							75

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>2週間のうち訪問看護ステーション4日，地域連携室半日，居宅介護支援事業所半日，通所リハビリテーション1日の実習を行う。</p>	<p>知識確認テスト</p>
<p style="text-align: center;">授業外学習</p>	
<p>実習開始前に知識確認テストがあります。講義資料、テキストを復習してください。  実習事前準備として学習をし、積極的に実習に取り組んでください。  課題に沿ってレポートを作成し、実習の振り返りを行ってください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護学臨地実習ガイドブック在宅看護論実習2017年度</p>	<p>在宅看護論、在宅看護論</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	総合看護実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	必修	1	4年	前期			
担当者名	原田 博子、看護学科教員		関連する資格				
<b>授業概要</b> これまでの病院や施設または行政での実習を通して見出した自らの課題を明確にした上で、主体的に実習をすすめ、さらに実践能力を高める。							
<b>到達目標</b> 1．看護チームメンバーが協力し、効率的に看護を展開していくための、目標共有、役割分担、情報伝達のありようを理解する。 2．看護チームの目標達成に向けたチームメンバー間のコーディネートのあるありようを理解する。 3．ヒューマン・ケアリングの視点から施設の特徴を見出し、看護チームのチームケアの課題や強みを見出し、その根拠および解決策を考え提示する。 4．看護技術の構成要素を看護実践の中から考察する。				<b>成績評価方法</b> 60点以上で単位認定とする。 臨地実習は、目標達成状況、レポート、実習態度などを総合して評価する。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照</p>	
授業外学習	
<p>事前に技術試験を実施するため今まで学習した内容から本実習に必要な技術を復習し習熟しておくこと、実習内容については、別途オリエンテーションを設ける 実習終了後記録のまとめを要する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>看護管理、医学書院</p>	<p>看護管理、各領域臨地実習、総合看護実習</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	総合看護実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	必修	1	4年	後期
担当者名	原田 博子、看護学科教員	関連する資格		

授業概要

総合看護実習 での学びをさらに深め、看護の対象（患者）を多角的・統合的に把握し、対象の健康上・看護上のニーズを充足させるための援助を展開する。1年次から学んだ看護の集大成として、看護技術や知識を再確認し、実践に応用できる能力を養うとともに自らの看護観をまとめる。

到達目標

1. チームの一員として看護師と一緒に行動し、チームリーダーとメンバーの役割を把握する。
2. 看護職の役割や責任、倫理について考察し、自己の看護観をまとめる。

成績評価方法

臨地実習100点、知識試験100点として、各々60点以上で合格とする。  
臨地実習は、実習目標の達成状況、レポート、実習態度を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）		アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照 最終まとめの際には、実習グループ毎のまとめのグループワークをします。		
授業外学習		
臨地実習に必要な学習を行うこと。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
看護管理医学書院	各領域臨地実習 総合看護実習	

課題に対するフィードバック

備考

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	1	3年	後期
担当者名	佐藤 美幸、安成 智子	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

看護における研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論について、実践を通して理解を深めるとともに、これまでの学習を通して芽生えた問題意識を研究テーマへと発展させる。また課題の究明に求められる研究的な学習の進め方、研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法を学ぶ。

到達目標

- 1) 看護における研究の意義、必要性を理解できる。
- 2) 研究を通して、科学的・論理的思考を修得する。
- 3) 研究の展開方法について理解できる。
- 4) 各研究方法論の概要について理解できる。
- 5) 研究論文のクリティークを行うことができる。
- 6) 研究計画書の書き方について理解できる。
- 7) 研究における倫理的配慮の重要性について理解できる。

成績評価方法

試験およびレポートで評価する

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○		○			80
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート			○				10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク			○		○		10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 全体オリエンテーション/研究とは、研究の意義、研究過程の外観、リサーチクエスション 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
2) 文献検索の意義と方法、文献の読み方 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
3) 概念枠組み【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
4) 看護研究方法1 実験研究 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
5) 看護研究方法2 調査研究 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
6) 看護研究方法3 質的研究 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
7) 看護研究方法4 事例研究 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
8) 看護における倫理的問題 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
9) 研究計画書の作成 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
10) データ整理の方法 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
11) 論文の書き方と発表の仕方 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	
12) 文献講読 1 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	グループワーク・レポート
13) 文献講読 2 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	グループワーク
14) 文献講読 3 【予習・復習】 教科書の該当ページに目を通して来ること（15分）	グループワーク
15) まとめ	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
山口瑞穂子、石川ふみよ編：ひとりで学べる看護研究、照林社	

課題に対するフィードバック

授業内でコメントする

備考

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	4年	通年(前期)
担当者名	佐藤 美幸、看護学科教員	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

研究計画書の作成を通して、各自の課題に対して問題解決を図る方法を身につけるとともに、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。また、その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法など研究に必要な知識を身につける。

到達目標

- 1) 研究計画書を作成することができる。
- (1) 研究課題を明確にすることができる。
- (2) 研究目的を設定することができる。
- (3) 文献検索を行い、研究の背景を明確にすることができる。
- (4) 研究の意義を明らかにすることができる。
- (5) 研究方法を記述することができる。
- (6) 研究デザインを記述することができる。
- 2) 論理的・科学的思考を修得することができる。
- 3) 看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。
- 4) 研究における倫理的配慮の重要性を修得できる。
- 5) 看護における科学的根拠を示す方法としての研究の必要性および重要性が理解できる。

成績評価方法

評価表(要項に添付)による。  
評価は、指導教員が行い、科目責任者が認定する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 指導教員による個別・グループ指導（別紙、研究要項による） 自己学習・作業時間を各回60分程度確保する必要がある。	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
演習	必修	2	4年	通年(後期)
担当者名	佐藤 美幸、看護学科教員	関連する資格	看護師国家試験受験資格	

授業概要

研究計画書の作成を通して、各自の課題に対して問題解決を図る方法を身につけるとともに、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。また、その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法など研究に必要な知識を身につける。

到達目標

- 1) 研究計画書を作成することができる。
- (1) 研究課題を明確にすることができる。
- (2) 研究目的を設定することができる。
- (3) 文献検索を行い、研究の背景を明確にすることができる。
- (4) 研究の意義を明らかにすることができる。
- (5) 研究方法を記述することができる。
- (6) 研究デザインを記述することができる。
- 2) 論理的・科学的思考を修得することができる。
- 3) 看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。
- 4) 研究における倫理的配慮の重要性を修得できる。
- 5) 看護における科学的根拠を示す方法としての研究の必要性および重要性が理解できる。

成績評価方法

指導教員による評価をもとに科目責任者が認定する。  
研究計画書を作成し、提出すること。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 指導教員による、個別・グループ指導	
2)	
3)	
4)	
5)	
6)	
7)	
8)	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	公衆衛生看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	4	3年	前期
担当者名	立川 美香、滝川 洋子、山崎 千鶴 代	関連する資格		

授業概要

- ・人びとが自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ること（セルフケア力の向上）を支援するための保健指導方法の基本的考え方と実践方法について演習等を通して学ぶ。
- ・集団における教育方法の基本的考え方と実践方法についてグループワーク等を通して学ぶ。
- ・地域の人びとや医療、福祉などの他職種、機関との協働のあり方とその実践方法を学ぶ。

到達目標

- ・地域住民に対する個別的指導方法を理解し、説明できる。
- ・対象別に必要な集団保健指導方法を理解し、説明できる。
- ・対象が必要とする健康教育を実践するためのプロセスを理解し、演習としてグループワークを経てプレゼンテーションができる。
- ・地域の人びと、関係者・機関との協働について理解し、説明できる。

成績評価方法

- 授業態度・授業参加度（10%）  
 グループワーク・プレゼン（20%）  
 レポート内容（10%）  
 定期試験結果（60%）  
 上記を基準として総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 地域で展開される公衆衛生看護活動の実際	グループワーク レポート
2) 公衆衛生看護活動の展開方法、公衆衛生看護活動の場、対象、健康レベル	
3) 保健指導（目的・対象・技術）	
4) 健康相談（目的・対象・技術）	
5) 健康相談の場面と面接技術・実践・評価・フォローアップ	
6) 健康診査の目的・対象・技術・進め方	
7) 家庭訪問の目的・対象・看護過程の展開	レポート
8) 家庭訪問における家族の捉え方とエコマップ	
9) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
10) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
11) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
12) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
13) 家庭訪問 演習（グループワーク）	グループワーク
14) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：エコマップ）	プレゼンテーション
15) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：訪問場面）	プレゼンテーション
16) 家庭訪問 演習（プレゼンテーション：訪問場面）	プレゼンテーション
17) 健康教育の目的・対象・技術・進め方	
18) 健康教育の理論と実践	
19) 健康教育 演習（グループワーク）	
20) 健康教育 演習（グループワーク）	

21) 健康教育 演習 (グループワーク )	
22) 健康教育 演習 (グループワーク )	
23) 健康教育 演習 (中間プレゼンテーション)	
24) 健康教育 演習 (グループワーク )	
25) 健康教育 演習 (グループワーク )	
26) 健康教育 演習 (グループワーク )	
27) 健康教育 演習 (プレゼンテーション )	
28) 健康教育 演習 (プレゼンテーション )	
29) 地域組織活動の展開	
30) セルフヘルプグループ活動とその支援	

授業外学習

授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。グループワークに必要な知識の強化と資料収集をしてください。また、グループワークの時間内に円滑な学習経過が迎れない場合は、次回のグループワークまでに遅延を取り戻してください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す。	公衆衛生学、公衆衛生看護概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、憲法・人権論、地域社会学、生涯発達心理学、人間関係論、保健医療福祉行政論、家族論・家族関係論

課題に対するフィードバック

--

備考

--


科目名	公衆衛生看護学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	4	3年	前期			
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、山崎 千鶴 代、尾家 重治、新開 奏恵		関連する資格	保健師			
<b>授業概要</b> ライフサイクル（母子・成人・高齢者）に応じた保健活動や健康問題（精神・感染症・難病・障害児者等）に対する保健活動、社会集団（学校・産業）を対象とした保健活動等の法的根拠や政策をもとに、それぞれの対象への保健指導の基本や実践について講義、グループ学習（学生相互の学び合い）・プレゼンなどを通して理解する。							
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象別保健の動向・施策や制度が理解できる。</li> <li>対象別の健康課題と保健指導の内容が理解できる。</li> <li>産業保健の職域の特徴と対象者の健康課題が理解できる。</li> <li>産業保健における保健師の職務と役割が理解できる。</li> <li>学校保健の対象と健康課題が理解できる。</li> <li>学校保健における養護教諭の職務と役割が理解できる。</li> <li>住民の健康の保持増進の為に保健師の役割や職域との連携・協働が理解できる。</li> </ul>			<b>成績評価方法</b> ・出席状況、授業態度、プレゼン、グループワーク、演習、試験結果等を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							5
プレゼンテーション							10
グループワーク							5
演習							5
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 母子保健活動；母子保健指導の動向	
2) 母子保健活動；母性各期の健康課題と保健指導	
3) 母子保健活動；乳幼児期の成長発達と保健指導	プレゼンテーション グループワーク
4) 母子保健活動；ハイリスクの母子への保健指導	
5) 成人保健活動；成人保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
6) 成人保健活動；成人期の保健活動・保健指導	
7) 高齢者保健活動；高齢者保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
8) 高齢者保健活動；高齢者の生活と保健指導	
9) 高齢者保健活動；在宅要援護高齢者と家族への保健指導	プレゼンテーション グループワーク
10) 精神保健活動；精神保健の動向	
11) 精神保健活動；精神障害者の生活上の障害と保健指導	プレゼンテーション グループワーク
12) 精神保健活動；社会病理を背景とする主な疾患	
13) 障害者（児）保健活動；障害者保健の動向	プレゼンテーション グループワーク
14) 障害者（児）保健活動；障害者保健施策と保健活動	
15) 難病保健活動；難病対策の動向	プレゼンテーション グループワーク
16) 難病保健活動；難難病患者の生活と保健指導	
17) 感染症保健活動；感染症保健の動向	
18) 感染症保健活動；感染症保健施策と保健活動	
19) 感染症保健活動；疾病管理	
20) 感染症保健活動；感染症集団発生	演習

21) 歯科保健活動；歯科保健の動向と保健活動の実際	
22) 産業保健活動；産業保健の動向	
23) 産業保健活動；産業保健の制度とシステム	
24) 産業保健活動；産業保健における健康課題	
25) 産業保健活動；産業保健の展開	
26) 学校保健活動；学校保健の動向	
27) 学校保健活動；学校保健の制度とシステム	
28) 学校保健活動；学校保健・看護の現状と健康課題	
29) 学校保健活動；養護教諭の職務と保健室の機能	
30) 総括	

**授業外学習**

・事業計画に沿って、テキストの該当単元を予習し、授業終了後復習しておくこと。  
 ・第2回にプレゼンテーションの課題をいくつか提示、その中から自ら選択し、レポート作成すること。レポートに沿って、授業開始時発表、その後発表内容についてグループ討議を行う。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す	保健医療福祉行政論、疫学保健統計、公衆衛生学、社会保障論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、栄養と運動

**課題に対するフィードバック**

--

**備考**

--


科目名	公衆衛生看護学			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	3年	後期
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、山崎 千鶴 代	関連する資格		

授業概要

地域に顕在あるいは潜在している健康問題の把握方法、地域看護診断に基づく活動計画と評価、さらに住民ニーズの施策化など、組織的に解決する方法について学習する。また、地域の人々が自ら健康問題を意識し、主体的に問題解決ができるようになるためのグループの育成支援の方法や地域ケアシステムづくりについて学習する。そのための学習手段として、グループワークや学生間での意見交換等を積極的に導入する。

到達目標

- ・ 地域看護診断の方法を理解し、地域の健康課題をアセスメントできる。
- ・ 看護活動の計画・実践・評価について理解できる。
- ・ 事業計画の策定、進行管理、評価の方法が理解できる。
- ・ 公衆衛生看護管理の目的およびその機能を理解できる。
- ・ 健康危機管理・リスクマネジメントについて理解できる。

成績評価方法

授業態度・授業参加度（10点）  
グループワーク（30点）  
レポート（10点）  
定期試験（50点）  
上記を基準として総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							5
宿題、授業外レポート							5
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							15
グループワーク							15
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 公衆衛生看護活動論	
2) 公衆衛生看護活動の発生源と考え方	
3) 公衆衛生看護の概念・機能・対象・活動の場	
4) 公衆衛生看護の概念・機能・対象・活動の場	
5) 公衆衛生看護学での看護過程の使い方	
6) 地域看護診断の概念と理論	
7)	
8) 地域の捉え方と地域看護診断の考え方	
9) 地域看護診断 演習	グループワーク
10) 地域看護診断 演習	グループワーク
11) 地域看護診断 演習	グループワーク
12) 地域看護診断 演習	グループワーク
13) 地域看護診断 演習	中間プレゼンテーション
14) 地域看護診断 演習	グループワーク
15) 地域看護診断 演習	グループワーク
16) 地域看護診断 演習	グループワーク
17) 地域看護診断 演習	グループワーク
18) 地域看護診断 演習	グループワーク
19) 地域看護診断 演習	グループワーク
20) 地域看護診断 演習	プレゼンテーション

21) ヘルスケアシステムの概要	
22) 保健計画と実践（福祉政策含む）	
23) 地区視診 演習	プレゼンテーション
24) 地区視診 演習	プレゼンテーション
25) 地域看護診断の概要解説	
26) 公衆衛生看護管理の概念・目的・機能	
27) ヘルスプロモーションの概要と実践	
28) 公衆衛生看護管理：業務管理と情報管理	
29) 公衆衛生看護管理：予算管理・人材管理・人材育成	
30) 公衆衛生看護管理：健康危機管理	

授業外学習

授業計画に沿って、テキストの該当単元を熟読してきてください。また、授業後はテキスト該当単元を復習してください。グループワークに必要な知識の強化を図ってください。

テキスト、参考書、教材	関連する科目
開講時に示す。	公衆衛生学、疫学、保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方

課題に対するフィードバック

--

備考

--


科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	1	3年	後期			
担当者名	立川 美香、滝川 洋子、山崎 千鶴 代	関連する資格					
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族及び集団の健康課題への支援を通して地域看護診断を行い、地域の健康課題を明確にするための実際について学ぶ。</li> <li>・ 地域の人びとの健康課題への支援のための事業計画立案を実際に学ぶとともに、保健活動に参加し、支援の実際について学ぶ。</li> <li>・ 地域の健康課題の解決に向けた健康教育の計画・実施・評価までの実際を学ぶ。</li> <li>・ 常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b> 対象（個人・家族・集団）に対して、根拠に基づいた健康相談、家庭訪問、健康教育等の手法を用いた健康問題の解決への支援を理解することができる。 を通して、地域看護診断の必要性や集団・組織・地域社会への保健活動を思案することができる。				<b>成績評価方法</b> 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：看護学臨地実習ガイドブック参照	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方

課題に対するフィードバック

備考

科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	3	4年	前期			
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、山崎 千鶴 代		関連する資格				
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民全体の健康の保持増進を目的とした、公衆衛生看護の基本理念と活動の特性を理解し、看護専門職として保健サービスを提供できる基礎的能力を育成する。</li> <li>・市保健センターにおいて、地域の健康課題およびヘルスニーズ、活動の方法、地域ケアシステムの概要を学ぶ。更に、健康問題の社会的諸条件についての理解を深め、地域における健康に関連する問題を組織的に解決する公衆衛生看護の活動方法を理解する。</li> <li>・常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市における保健・医療・福祉システムを学び、保健師の役割と活動内容を理解する。</li> <li>・市における健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。</li> <li>・直接的な支援（訪問指導、健康教育等）を学習する。</li> <li>・保健師としての態度を身につける。</li> </ul>			<b>成績評価方法</b> 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：公衆衛生看護学実習 ・ ガイドブック参照	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方、公衆衛生看護学実習

課題に対するフィードバック

備考

科目名	公衆衛生看護学実習						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
実習	選択	1	4年	前期			
担当者名	滝川 洋子、立川 美香、山崎 千鶴 代	関連する資格					
<b>授業概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民全体の健康の保持増進を目的とした、公衆衛生看護の基本理念と活動の特性を理解し、看護専門職として保健サービスを提供できる基礎的能力を育成する。</li> <li>・保健所の活動の方法、地域ケアシステムの概要を学ぶ。更に、健康問題の社会的諸条件についての理解を深め、地域における健康に関連する問題を組織的に解決する公衆衛生看護の活動方法を理解する。</li> <li>・保健所における健康危機管理の現状と保健師の活動と役割について学ぶ。</li> <li>・常に意見交換を実施し、グループダイナミックスを最大限活用する。</li> </ul>							
<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所の機能及び役割を理解する。</li> <li>・保健所保健師の役割と、保健所で働く他職種の活動内容を理解する。</li> <li>・保健所管轄地域の健康に関する情報を収集し、地域の健康問題を解決する方法やその過程を理解する。</li> <li>・地域の健康問題に対して、保健所で実施している対人サービスを学習する。</li> <li>・保健師としての態度を身につける。</li> </ul>				<b>成績評価方法</b> 態度・参加度（10点）、実習前・中の態取組状況（30点）、記録物（50点）、その他提出物（10点）で総合評価をする。			
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
別冊：公衆衛生看護実習 ・ ガイドブック参照	
授業外学習	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	公衆衛生学、疫学・保健統計、保健福祉行政論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、公衆衛生看護学、データの科学的な見方、公衆衛生看護学実習、公衆衛生看護学実習

課題に対するフィードバック

備考

科目名	教育社会学						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	選択	2	2年	後期			
担当者名	白石 義孝		関連する資格	養護教諭一種免許状			
<b>授業概要</b> 教育社会学の理論および方法、また具体的な研究成果の現状について、受講者によるテキスト概要の報告と質疑応答により知識の定着をはかる。 様々な教育活動は社会全体の動きと無関係ではない。本講義では、教育社会学という学問領域の特徴を学ぶことにより、教育と社会の関わりについて考えることのできる素養を養う。受講者が各人の学校体験を無責任に「熱く」語るのではなく、報告の分担を通じて、冷静な事実認識ができるように、社会学的な「目」を培うことを目的とする。							
<b>到達目標</b> 1. 社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる問題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解できる。 2. 学校と地域の連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解できる。 3. 学校の管理下で起きる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づき、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解できる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験（40%）、小テスト、授業内レポート（10%）、宿題、授業外レポート（30%）、プレゼンテーション（20%）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 学校と社会をめぐる様々な状況の変化 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 高学歴社会における教育機会と費用負担 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 子どもの貧困について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 新学習指導要領にみる学校教育の変化 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 国際化と小学校英語必修化について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 諸外国の教育制度（我が国との違い） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 少子高齢社会における学校の変化 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 教育から職業への移行と就職活動 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 少年犯罪といじめ問題について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 学校と地域との連携の意義と協働の仕方 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 開かれた学校づくりへの取り組み 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 学校における事件・事故の現状と課題 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) 学校における安全管理と安全教育の取り組み 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：最終課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 半径5メートルからの教育社会学（片山悠樹ほか編、大月書店） 参考書・参考資料等 ・最新の学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） その他講義中において適宜紹介する。	教職概論、教育課程論、教育原理、教育相談・カウンセリング、教育方法・技術論、特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む）、特別支援教育論、生徒指導論、学校体験活動、ボランティアと社会

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

科目名	教育原理						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	2	1年	後期			
担当者名	白石 義孝		関連する資格	養護教諭一種免許状			
<b>授業概要</b> 教育の意義と目的を理解し、教育に携わるものとしての基本的な教育学の考え方や態度を身につけるとともに、現代の教育が抱える教育問題について考察し、主体的に問題解決に取り組めるよう深い見識を養う。そのため子どもを見る視点、学力やジェンダーなどの課題、学校の在り方などの多様なトピックを扱う。これらを通して、教育への関心を高め、将来の目指すべき教師像の形成の足掛かりとする。							
<b>到達目標</b> 1. 教育の基本的概念を身に付け、教育を成り立たせる諸要因との相互関係を理解できる。 2. 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関りや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 3. 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関りを理解できる。			<b>成績評価方法</b> 定期試験（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)	○	○		○			40
小テスト、授業内レポート	○	○		○			10
宿題、授業外レポート	○	○	○	○			30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション	○	○	○	○	○		20
グループワーク		○	○		○		
演習		○	○		○		
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション - 教育とは何か？（教育を考える視点の概説） 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) 人間にはなぜ教育が必要なのか考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 教育を社会の視点から考える（競争社会・格差社会） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 子どもという存在（教育の思想にみる子どもの発見と人間の育ち） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 教育の方法の歴史（家庭・社会・学校における教育の理論と実践） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 教育を受ける権利とは（教育の機会均等と子どもの権利） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) 子どもの学びを支える仕組み（学校と教育行政の組織と運営） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 「子どものための学校」に求められること（地域社会との連携・協働） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 学校では何を学ぶのか（教育課程と学習指導要領） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) よい先生について考える（教員養成制度と理想的な教師像） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 子どもとのかかわり方について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) 子どもの「学び」について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 生涯学び続けられる社会とは（生涯学習・社会教育・大学開放） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) 教育と学校の未来について考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：最終課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
テキストの中に出てくる重要事項について事前に調べておく	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いからはじめる教育学（勝野正章・庄井良信著、有斐閣）</li> </ul> <p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）</li> </ul> <p>その他講義中において適宜紹介する。</p>	<p>教職概論、教育課程論、教育相談・カウンセリング、教育方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術論、特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む）、</li> <li>特別支援教育論、生徒指導論、教育社会学、学校体験活動、</li> <li>ボランティアと社会</li> </ul>

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

科目名	教職概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	1年	前期
担当者名	伊藤 一統	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

社会情勢の変化もあって、現代の学校教育においては教職の役割の多様性、重要性の高まりが著しい。そうした中での教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について概説し、それらの基本的な理解をすすめる。また、法令等で定められる「教育職員（教員）」の責務を踏まえ、教職に携わる者に相応しい資質や知識・技能の獲得を図り、教職に携わる者としてふさわしい教育観を有し、力量の形成を行うことができるようになる。そのうえで、教職という職業について、自分の適性、能力等について考え、進路選択について考える。

到達目標

教育職に就く際に必要とされる基本的な内容を理解する。  
 今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。  
 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解し、適切な子ども観、教育観を持つ。  
 学校内外での連携・協働をすることで現代の学校を取り巻く状況に対応することの重要性を理解する。  
 教職に関して得た技能や知識を活用して、教育に関して考えることができる。

成績評価方法

提出物、受講態度、試験等を総合して評価する。  
 試験60%、提出物20%、ワーク20%を総合して評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	○						60
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート	○	○					20
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク		○	○				20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：受講に際しての留意事項 / 本講義の目指すところ	
2) 学校教育の位置づけ：公教育としての学校教育	適宜、対話形式を用いる
3) 職業としての教員：仕事をするということ / 教員の職業的特性	適宜、対話形式を用いる
4) 教員を取り巻く制度（１）：学校教育の法制度上の位置と教員	適宜、対話形式を用いる
5) 教員を取り巻く制度（２）：教員に関する法制度	適宜、対話形式を用いる
6) 教員の職務と服務（１）：教員としての職務の概要 / 服務上・身分上の義務及び身分保障	適宜、対話形式を用いる
7) 教員の職務と服務（２）：児童・生徒の指導・支援 / 学校組織と職務 / 校務分掌	適宜、対話形式を用いる
8) 教員としての職能向上：研修の位置づけ・重要性 / 職務階梯と職能	適宜、対話形式を用いる
9) 子ども理解や教育相談における連携・協働：教員間SCやSSW等の専門家との連携	適宜、対話形式を用いる
10) 児童生徒の健康・安全への対応：学校運営協議会（コミュニティスクール）やNPO、地域組織等との連携	適宜、対話形式を用いる
11) 学校現場における養護教諭の職務・役割：ラウンドテーブル 現職養護教諭に聞く	外部講師（予定）
12) 教職観と教員の力量（１）：教師文化と倫理 / 使命感・責任感、教育的愛情 / 社会性や対人関係能力 / 生徒理解や学級経営	適宜、対話形式を用いる
13) 教職観と教員の力量（２）：授業を創る力量 / 教科の理解 / 保健授業案	適宜、対話形式を用いる
14) 学校教育の現状と教職：学校評価・教員評価の現状 / 教員研修 / 教育改革	適宜、対話形式を用いる
15) まとめ～教職への道、教職としての道：求められる教員像 / 教員採用と教職としての人生	適宜、対話形式を用いる
授業外学習	
<p>【予習・復習】講義内容に関連する報道や記事等について、関心をもって接すること。講義中で示されたテキストや資料の内容について振り返ってみること。（20時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育職の在り方について考えたり、他者と論じたりする時間を持つこと（10時間）</li> <li>・教職や学校をめぐる最新の法制度について、関係省庁のウェブサイト等で確認しておくこと（15時間）</li> <li>・適宜、「学習指導要領」、「教育小六法」等の参考図書において、講義と関連する事項について確認すること（15時間）</li> </ul>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>テキスト 「はじめて学ぶ教職論」ミネルヴァ書房（予定） 参考資料 講義中で配布する資料のほか、適宜紹介する。</p>	<p>教職科目 養護教諭専門科目 教職実践演習</p>

課題に対するフィードバック

提出課題等を求めた際は、講義中のコメントでもってフィードバックする

備考

外部講師による講義は、日程変更の可能性があります。

科目名	教育課程論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	2	1年	後期
担当者名	伊藤 一統	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解する。また、各学校や地域の実情に合わせて教育課程の編成を含むカリキュラム・マネジメントを行うことの意義・方法について学習する。

到達目標

学習指導要領を中心として、学校教育の動向を理解し、教育課程の位置づけ、役割、編成の意義について理解する。  
 教育課程の編成方針を理解し、現代の教育課題に対応した教育課程の編成の実際についての知見を得る。  
 カリキュラム・マネジメントの重要性・意義を理解し、教育課程の設計・改善ができる。

成績評価方法

試験70%、提出課題等20%、授業内ワーク等10%

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							20
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション??授業の概要・受講に際する留意事項、教育課程を学ぶ意義	
2) 学習指導要領の性格と教育課程の位置づけ	適宜、対話形式ですすめる
3) 教育課程の意義と社会・生活	適宜、対話形式ですすめる
4) 教育課程の編成原理	適宜、対話形式ですすめる
5) 教育内容の選択と教育課程	適宜、対話形式ですすめる
6) 教育課程と教育環境	適宜、対話形式ですすめる
7) カリキュラム・マネジメント	適宜、対話形式ですすめる
8) 教育課程と評価	適宜、対話形式ですすめる
9) 各学校種の教育課程	適宜、対話形式ですすめる
10) 効果的な教育活動と教育課程	適宜、対話形式ですすめる
11) 地域や学校の特性と教育課程の実際	適宜、対話形式ですすめる
12) 教育課程の歴史	適宜、対話形式ですすめる
13) 学習指導要領の変遷	適宜、対話形式ですすめる
14) 教育課程改革の動向	適宜、対話形式ですすめる
15) まとめ これからの教育と教育課程	適宜、対話形式ですすめる
授業外学習	
【予習・復習】講義内容に関連する報道や記事等について、関心をもって接すること。講義中で示されたテキストや資料の内容について振り返ってみること。（20時間）	
【その他】?最新の教育制度および施策について、関係省庁のウェブサイト等で確認しておくこと（10時間）	
?学習指導要領及びその解説の類、「教育小六法」等の参考図書において、講義と関連する事項について確認すること（10時間）	
?教育課程の編成について実際に試作したり、他者と論じたりする時間を持つこと（10時間）	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>&lt;テキスト&gt;「基礎からわかる教育課程論」大学図書出版（予定）</p> <p>&lt;参考書&gt;文部科学省「幼稚園教育要領解説（最新版）」「小学校学習指導要領解説（最新版）」「中学校学習指導要領解説（最新版）」「高等学校学習指導要領解説（最新版）」</p> <p>その他 適宜、講義中において紹介する。</p>	教育方法の研究

課題に対するフィードバック

課題を出した場合、ピックアップして講義中にコメントする。

備考

科目名	特別活動の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	吉岡 一志	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

特別活動は学校生活の中でもとくに印象深く我々の記憶の中に残っている。当時の記憶やこれまでの議論を辿りながら、特別活動とは何か、なぜ子どもたちの心を惹きつけるのかを教科教育や総合的な学習の時間など学校における様々な活動との関連を踏まえて検討する。このことを通して、特別活動の歴史や今日的意義を捉え、教育課程のなかの特別活動の位置づけを俯瞰するとともに、これらの理論を踏まえ、実践に向けた方法的視点を深める。

到達目標

- 1．特別活動の意義と内容及び特別活動と教科等との関連を理論的に理解することができる。
- 2．実践のための方法的視点や具体的手立てを深めることができる。

成績評価方法

授業態度、レポート、プレゼンテーション等の成績を総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							40
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ガイダンス、特活の概説 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
2) 特別活動の今日的課題 現代社会の課題から特活の意義を考える 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
3) 特別活動の内容 学習指導要領から特活の内容を整理する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
4) 特別活動の方法 集団に関する理論を整理して実践する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
5) 小括1 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	レポート作成
6) 「個性」を考える 理論を踏まえ、個性形成に資する活動を実践する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
7) 「主体性」を考える 映画を見ながら、主体性に関する理論を整理する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
8) 子ども集団と教師 仲間集団と教師の関係をゲームをしながら確認する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
9) 求められる教師像 教師が登場する漫画を分析し、あるべき教師像を模索する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
10) 小括2 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	レポート作成
11) 特別活動の歴史と変遷 特活の歴史を確認し、現代の活動を相対化する視点を見出す 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
12) 学習発表会を計画しよう 学習指導要領から教育目標を定めて、指導案を作成する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
13) 学習発表会の準備しよう 発表会準備を通して計画の問題点を探り、改善する 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク
14) 学習発表会 学習の成果を発表し、評価する視点を養う 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	グループワーク プレゼンテーション
15) 総括 授業内容を振り返り、小レポートの作成をする 【予習】学習指導要領を読む(30分)【復習】授業の要点をノートにまとめる(60分)	レポート作成
授業外学習	
特別活動に関する様々な理論を講義中に紹介する予定です。難解な理論も多いので、必ず復習すること。また、適宜参考文献を紹介するので、興味がある理論については文献を読むこと。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
小学校学習指導要領 小学校学習指導要領解説・特別活動編 必要に応じて資料を配布予定	教職科目

課題に対するフィードバック

授業内に個別にコメントを行う。

備考

科目名	教育方法の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	白石 義孝	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

子どもや学校を取巻く環境の大きな変化にともない、学校教育の内容・方法も問われている。これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付けるために、学校教育における教える・学ぶ活動を中心に据え、そこで展開されるさまざまな形態や方法・技術・手法について事例紹介とワークを踏まえて学んでいく。さらに、今日における教育目的・内容と教育方法を考察し、アクティブラーニング、学習環境のデザイン、ICTの活用、教育の質的評価などといった小中学校から大学まで、今日の教育者に必要とされる最新の教育技術を理解する。

到達目標

1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解できる。
2. 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付けることができる。
3. 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付けることができる。

成績評価方法

定期試験（40％）、小テスト、授業内レポート（10％）、宿題、授業外レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（％）
定期試験(中間・期末)							40
小テスト、授業内レポート							10
宿題、授業外レポート							30
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							20
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：役割分担 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
2) インストラクショナルデザインとは何か 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
3) 授業構想の検討 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
4) 多様な学力の見方・考え方 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
5) 教材研究の方法 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
6) 学習指導案の書き方 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
7) テストの形式と教育評価の種類 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
8) 教師の振る舞いの基礎基本 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
9) 学習意欲を高める方法 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
10) 協同的な学びをデザインする 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
11) 情報社会に適応する 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
12) アクティブラーニングの手法を用いた授業デザインを考える 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
13) 授業分析の方法 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
14) これからの教師に求められる授業力 予習：テキストの指定したページを読む 復習：授業内で指示した課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
15) 総括（授業全体の振り返り、レポート作成） 予習：テキストの指定したページを読む 復習：最終課題を作成する	グループワーク プレゼンテーション 個人ワーク
授業外学習	
発表するテーマに関する資料収集を行い、レジュメとしてまとめること	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト ・稲垣忠ほか著『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房、2015年 参考書・参考資料等 ・最新の学習指導要領（小学校・中学校・高等学校） その他講義中において適宜紹介する。	教職概論、教育課程論、教育原理、教育相談・カウンセリング、特別活動論（道徳及び総合的な学習を含む）、特別支援教育論、生徒指導論、教育社会学、学校体験活動、ボランティアと社会

課題に対するフィードバック

プレゼンテーションや提出課題について毎回質疑応答を行い、フォローアップを行うとともに、課題に対する理解を深める。

備考

科目名	生徒指導の研究			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	脇 貴典	関連する資格		

授業概要

近年、学校現場においていじめ、不登校など多くの問題が起こっており、学校教育で生徒指導の果たす役割の重要性が増している。そこで、本講義では、生徒指導の意義、原理、方法についての理解を深め、今日の生徒指導上の諸問題に適切に対応できる能力の育成をめざすことを目的とする。授業では、生徒指導の基本的な姿勢や取り組み方等について、グループディスカッションや、具体的事例や実践例をもとに検討し理解を深める。

到達目標

生徒の問題行動の背景を理解し自分なりに説明ができる。  
 学校教育の現場において生徒指導の果たす役割の重要性を理解する。  
 生徒指導上の諸問題に適切な対応が理解できる。

成績評価方法

小テスト、授業内レポート（20%）、定期試験（60%）、授業態度・授業参加度（10%）、グループワーク（10%）

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 生徒指導とは 【予習】「生徒指導」について知りたいことをまとめる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
2) 生徒指導の原理・基本的な考え方 【予習】「生徒指導の原理」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
3) 児童生徒の問題行動の理解 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
4) 児童生徒の問題行動への対応 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
5) 児童生徒理解の考え方と生徒指導の方法 【予習】問題行動を示す児童生徒の背景について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
6) 「いじめ」問題の理解 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
7) 「いじめ」問題への取り組み 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
8) 「いじめ」への対応 【予習】「いじめ」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
9) 児童生徒の示す様々な問題行動の理解と対応 【予習】生徒指導の対象となる「問題行動」について調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
10) 「不登校」問題の理解 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
11) 「不登校」問題への取り組み 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
12) 「不登校」への対応 【予習】「不登校」の問題について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
13) 生徒指導体制の確立と運営 Positive Behavior Supportの紹介 【予習】学校の生徒指導体制について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
14) 生徒指導体制の確立と運営 校内連携による支援の実際 【予習】学校の生徒指導体制について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
15) 総括 【復習】これまでの授業内容についてまとめ統括する（90分）	授業内レポート
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布する資料について、熟読しておく。</li> <li>・毎授業終了時にキーワードを提示し授業内容について各自まとめる。</li> </ul>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 必要に応じて資料を配布する。 参考書・参考資料等 石黒康夫・三田地真実 参画型マネージメントで生徒指導が変わる 図書文化社 2015年	

課題に対するフィードバック

授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	教育相談・カウンセリング						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	2	1年	後期			
担当者名	脇 貴典		関連する資格				
<b>授業概要</b> 教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。 幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。また、援助に必要なカウンセリング概念と基礎的な技術と理論的な背景についてロールプレイと講義を組み合わせで学習する。							
<b>到達目標</b> 学校における教育相談の意義と理論を理解し説明できる。 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解し説明できる。 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し説明できる。 専門職としてかかわる中で必要なコミュニケーション技術とカウンセリングの基本がわかる。			<b>成績評価方法</b> 小テスト、授業内レポート（20%）、定期試験（60%）、授業態度・授業参加度（10%）、グループワーク（10%）				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合（%）
定期試験（中間・期末）							60
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							10
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション：授業の進め方・教育相談とは 【予習】「教育相談」について知りたいことをまとめる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
2) 教育相談の基本的な考え方とその意義 【予習】「教育相談」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
3) 教育相談に関わる基礎的な理論とカウンセリングマインド 【予習】「カウンセリングマインド」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
4) 児童生徒への支援 アセスメント 【予習】「アセスメント」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
5) 児童生徒への支援 ケースフォーミュレーション 【予習】「ケースフォーミュレーション」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
6) 児童生徒への支援 心理教育プログラム 【予習】「心理教育プログラム」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
7) スクールカウンセリングの基礎的な姿勢や技法 受容 【予習】「スクールカウンセリング」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
8) スクールカウンセリングの基礎的な姿勢や技法 傾聴・共感的理解 【予習】「スクールカウンセリング」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
9) スクールカウンセリングの基礎的な姿勢や技法 問題解決 【予習】「スクールカウンセリング」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
10) 校内連携による教育相談的対応 メンタルヘルスコンサルテーション 【予習】「コンサルテーション」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
11) 校内連携による教育相談的対応 行動コンサルテーション 【予習】「コンサルテーション」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
12) 児童生徒の諸問題への対応（危機介入） 【予習】「学校危機介入」について参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
13) 教育相談システムの構築と組織的取り組み 【予習】学校内の支援システムについて参考資料等を調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート
14) 地域における専門家との連携による相談体制と教師のメンタルヘルス 【予習】地域の支援機関についてネット等を用いて調べる（45分） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめる（45分）	授業内レポート グループワーク
15) 統括（学校における教育相談活動の在り方） 【復習】授業内容をふりかえり、内容についてまとめ総括する（90分）	授業内レポート
授業外学習	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布する資料について、熟読しておく。</li> <li>・毎授業終了時にキーワードを提示し授業内容について各自まとめる。</li> </ul>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
テキスト 必要に応じて資料を配布する。 参考書・参考資料等 黒沢幸子・森俊夫・元永拓郎 明解！スクールカウンセリング 金子書房 2013年	

課題に対するフィードバック

授業内レポートはコメントをつけて返す。

備考

科目名	健康相談活動			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	新開 奏恵、佐伯 里英子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

学校教育の現場で児童、生徒の抱えるストレスや悩み等から起こる心身の健康問題、不登校等の現状について理解し、その対応について理論と事例検討を通して学ぶ。

到達目標

- ・養護教諭が行う健康相談の意義について理解する。
- ・健康相談の理論を学び、方法について考える。

成績評価方法

出席状況、授業態度、グループワーク参加度、宿題、レポート、定期試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	5	15		5			25
小テスト、授業内レポート		10	5				15
宿題、授業外レポート		10	5				15
授業態度・授業参加度			10		5		15
プレゼンテーション							0
グループワーク			5	5	5		15
演習		5	5	5			15
実習							0

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) ・オリエンテーション(授業の目的・すすめ方・履修カルテの確認) ・健康相談の目的と意義について、複数の文献を参考にグループディスカッションを行いまとめる。	グループワーク レポート
2) 社会の変化と子どもの健康問題の変遷、子どものヘルスニーズについて文献をもとに、グループディスカッションを行いまとめる。	グループワーク レポート
3) 発達段階別の心身の健康問題の特徴を理解し、健康相談の実践事例について学ぶ。「発熱クラブ」の実践記録を読み、養護教諭の対応をまとめる。	グループワーク レポート
4) 頭痛・腹痛の健康相談のロールプレイのシナリオづくりをする。	グループワーク 演習 レポート
5) 体調不良による頻回来室における健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク 演習 レポート
6) 喘息による健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク 演習 レポート
7) けがやスポーツ障害のケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する	グループワーク 演習 レポート
8) 「保健室登校」の実践記録を読み、養護教諭の対応をまとめておく。(事前学習)不登校や保健室登校に対する健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
9) 友だち関係のトラブルやいじめにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する	グループワーク レポート
10) 特別支援教育について学び、障がいをもつ子どものケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
11) アレルギーや慢性疾患のケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
12) いじめ・虐待・非行傾向生徒のケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
13) 摂食障害や自傷行為のケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
14) 性の問題を抱える生徒のケースにおける健康相談についてグループディスカッションで検討し発表する。	グループワーク レポート
15) この授業を通して学んだこと、更に努力すべきことを、振り返りを通して明らかにし、履修カルテに記録する	履修カルテ
授業外学習	
事前学習 30分 授業資料を読み、内容を理解する。 事後学習 30分 配布資料をもとに、健康相談活動における養護教諭の役割についてまとめる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「養護教諭の行う健康相談活動」（第11版）大谷尚子 森田光子編著 「教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き」文部科学省 機関誌「保健室」本の泉社	学校保健、養護概論、精神保健、小児看護学、教職科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	学校保健			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	前期
担当者名	新開 奏恵、友定 保博	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

学校教育における学校保健の目的、意義、実際の活動について理解し、学校保健安全法等に定められる学校保健管理及び学校環境衛生の概略を学習する。また、子ども及び教職員の健康と安全の保持増進を図るため、また、子どもの健康に生きる力を育むための保健管理、保健教育、保健実践活動の進め方や実際について、主としてグループワークで学ぶ。

到達目標

学校教育と学校保健の概略を理解するとともに、学校保健活動を実践していくうえで必要な各論的知識を身につける。

成績評価方法

討論や話し合いへの参加状況、授業における課題提出と定期試験により行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	30						30
小テスト、授業内レポート	10						10
宿題、授業外レポート		10					10
授業態度・授業参加度			10				10
プレゼンテーション				10			10
グループワーク	10		20				30
演習							0
実習							0

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション～学校保健とは何か？ ・学校保健の活動（事項・内容・方法等）について、これまでの体験を想起し記述。KJ法でまとめ、受講生の「学校保健」理解の現状を知る。	付箋紙1枚に1項目、思いっただけ書き出し、全員でKJ法による整理・分析
2) わが国の学校保健制度の歴史に学ぶ。 ・学校医制度/身体検査/学校清潔方法/学校看護婦の誕生/衛生教育	
3) 学校保健安全法を読み解く。 ・保健管理、環境衛生、学校安全の根拠となる法令から何を学ぶか	
4) 児童生徒に多い疾病異常、事故傷害、体力の実態 ・実態から出発し、学校保健活動の内容・方法等、対応を考える。	統計資料等から問題点を捉え実践課題のグループ検討
5) 児童生徒の心身の健康状態の把握と対応 ・健康診断、健康観察、健康相談、保健指導のつながりを理解する。	
6) 子どもの健康、発達の現状について統計資料等から課題を明らかにし、求められる取り組み（組織活動を含む）の内容について討論する。	統計資料等から問題点を捉え実践課題のグループ検討
7) 学習指導要領に基づく学校における健康に関する指導 ・総則/教科（体育・保健体育）保健学習/総合的な学習/特別活動	
8) 養護教諭が行う保健学習・指導 教科書の性に関する内容を題材に ・学級や集団を対象とした保健指導の実際	保健だよりの作成演習
9) 養護教諭が行う保健学習・指導 病気の予防教育を題材に ・学級担任や保健体育教師とのチームティーチング学習指導案づくり	保健だよりのコンペ 授業づくりワークシート
10) 模擬授業の実施と評価	授業評価シートで相互評価 講評
11) 模擬授業の実施と評価	授業評価シートで相互評価 講評
12) 学校環境・安全管理の内容と方法 ・学校環境衛生基準/学校事故災害/スポーツ振興センター災害共済制度	
13) 学校における不審者・自然災害等の危機管理マニュアル ・養護教諭が作成する学校感染症マニュアル	学校でノロウイルス感染症（疑い）が発生したら？
14) 学校保健組織活動～異業種連携教育の推進 ・保健主事/学校保健委員会/地域保健委員会	
15) 履修カルテへの記録 ・この授業を通して学んだこと、更に努力すべきことを振り返り記録する。	
授業外学習	
事前学習 30分 学校保健に関する法令や学校保健活動についてワークシートに整理する。 事後学習 30分 配布資料をもとに学習の振り返りを行う。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
新訂版 学校保健実務必携 プリント資料	小児看護学、養護概論、養護実習指導、教職実践演習

課題に対するフィードバック

備考

科目名	養護概論			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	選択	2	2年	後期
担当者名	新開 奏恵	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

児童・生徒の心身の健康を保持増進させるために求められる、養護教諭の専門性と役割及び保健室の機能について学ぶ。また、学校保健活動においては、学校内外の関係者や関係機関との連携、ネットワークづくりが重要であり、関係職員、関係機関の特性と役割について正しく理解し、養護教諭の専門性について深く考える。さらに養護教諭の職務内容を学び、資質能力を向上するために必要な知識や理論、実践的な力量の内容について明らかにする。

到達目標

養護教諭の職務内容とその専門性を理解する。  
 実際の養護活動場面を想定して、指導計画を立て、必要な教材研究を行い、自ら実施することができる。

成績評価方法

出席状況、授業態度、宿題、レポート、定期試験により評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)	15	5					20
小テスト、授業内レポート		10	5				15
宿題、授業外レポート		10	5				15
授業態度・授業参加度			5		10		15
プレゼンテーション		10		10			20
グループワーク			5		10		15
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) オリエンテーション 「養護教諭とは」について、複数の研究者や実践者の文献を読み、グループディスカッションで検討し、「養護教諭観」をレポートにまとめる。	グループワーク レポート
2) オリエンテーション 「養護教諭観」を発表する。社会人としてのマナーや、教員に求められる資質について学ぶ。	レポート
3) 養護教諭の歴史と役割及び保健室の歴史と機能、現在の養護教諭の職務について学ぶ。	レポート
4) 学校で実際に起きている事故やけがについて調べ、アセスメントや救急処置について学び、グループディスカッションで検討しまとめる。	グループワーク レポート
5) 健康診断の法的根拠、目的、内容、方法を調べ、健康診断の実施計画を作成する。	実施計画作成
6) 子どもの健康実態から健康課題を把握するための分析方法や、子どもの健康課題の改善、解決のための取り組みについて学ぶ。外部講師	レポート
7) 健康診断の実施計画をもとに、計画提示方法についてグループディスカッションで検討し、グループ単位で発表する。	グループワーク 実施計画作成
8) 学校環境衛生活動の法的根拠、目的、内容、方法を調べる。熱中症予防のための環境衛生活動についてグループディスカッションで検討し、具体的な対応を考える。	グループワーク レポート
9) 保健室経営や保健計画立案等、養護教諭の実践について事例を通して学び、保健室経営案を作成する。	グループワーク 保健室経営案作成
10) 感染症や児童生徒が罹患することがある疾病について学ぶ。グループディスカッションで検討し、これらの疾病をもつ児童生徒の学校における管理や、感染症対策についてまとめる。	グループワーク レポート
11) 保健教育の実践について学ぶ。養護教諭の専門性を活かした指導について、グループディスカッションで検討し、まとめる。	グループワーク 保健指導案(冬休み課題)
12) 子どもの健康実態から健康課題を把握するための分析方法や、子どもの健康課題の改善、解決のための取り組みについて学ぶ。外部講師	レポート
13) 保健指導案をもとに、グループディスカッションで検討し修正する。	グループワーク 保健指導案作成
14) 模擬授業を実施し、お互いに評価し合う。	模擬授業 プレゼンテーション
15) 養護概論の学びを振り返り、養護実習に向けての事前学習内容について確認する。	個人評価表 レポート
授業外学習	
事前学習30分 授業内容に関する法令や内容について実務必携を参考に調べておく。(事前ワークシート有)	
事後学習30分 配布資料をもとに授業内容の振り返りを行う。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「学校保健実務必携」 「新養護概説」	小児看護学 教職科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	養護実習指導			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講・演	選択	1	3年	前期
担当者名	新開 奏恵、佐伯 里英子	関連する資格	養護教諭一種免許状	

**授業概要**

事前指導では、養護実習の目的、意義の理解を深めるとともに、実習に必要な知識、技術について、総合的に学び、充実した実習になるよう準備をする。  
 また、子どもの健康問題について考え、そこから課題を明らかにし、課題解決に向けてどのように取り組むか、実際の学校現場の実践から学ぶと共に、授業づくり、模擬授業を行う。

**到達目標**

- ・養護実習の目的、意義が理解でき、実習に必要な技術が習得できる。
- ・実習目標、実習計画を立てることができる。
- ・演習や模擬授業で、学生相互が学び合うことができる。
- ・社会人としての自覚をもち、自己管理ができる。

**成績評価方法**

出席状況(無断欠席や遅刻は減点対象)、グループワーク、プレゼンテーション、演習を含む授業参加態度とレポートにより行う。

評価項目	評価基準						評価割合 (%)
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート	10	10					20
宿題、授業外レポート	10						10
授業態度・授業参加度			10		10		20
プレゼンテーション	10			10			20
グループワーク			5		5		10
演習		10		10			20
実習							0

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) 「実習の手引き」をもとに、養護実習の目的、意義及び留意事項を確認し、実習生調査書を作成する。前年度の「実習報告集」を参考に、保健指導のテーマを決定する。	保健指導案(宿題)
2) 保健室における養護教諭の執務について学ぶ。 養護教諭の一日の職務や医薬品の管理について資料を参考にグループワークにおける討議を通してまとめる。	グループワーク
3) 救急処置について、実際に起きたケースを学ぶ。 いくつかの救急処置の場面を想定し、実技練習を行う。(外科的なもの)	グループワーク 演習
4) 救急処置について、実際に起きたケースを学ぶ。 いくつかの救急処置の場面を想定し、実技練習を行う。(内科的なもの)	グループワーク 演習
5) 救急処置について、実際に起きたケースを学ぶ。 いくつかの救急処置の場面を想定し、実技練習を行う。(アレルギー対応・吐物処理)	グループワーク 演習
6) 健康診断項目の身体測定・視力測定・聴力検査・四肢の検査等の実技演習を行う。	グループワーク 演習
7) 環境衛生検査項目の水質検査・照度検査・騒音検査等の演習を行う。	グループワーク 演習
8) 集団対象の保健指導案を個人で作成し概略を発表し、意見交換を行う。グループディスカッションでの気づきを参考に、指導案・ワークシート・教材を修正する。	グループワーク
9) 保健指導の模擬授業を行い、全体で授業検討を行う。	プレゼンテーション ほけんだより(宿題)
10) 保健指導の模擬授業を行い、全体で授業検討を行う。	プレゼンテーション
11) 保健だより作成を通じて、紙面を用いた保健指導について考える。	プレゼンテーション
12) 統計ソフト「えがお」を活用した統計処理やスポーツ振興センターへの災害報告等学ぶ。	プレゼンテーション
13) 1日の学校生活における児童生徒の発達に即した指導や支援について学ぶ。児童生徒とのコミュニケーションの取り方をロールプレイを行い全体で評価する。	グループワーク 演習
14) 実習において学びたい内容について、具体的な養護教諭の執務も含めて再度確認する。現職の養護教諭の実践例から小・中学校での活動の実際や、課題について学ぶ。	レポート
15) 実習校の学校長及び関係者への礼状/養護実習の実際と成果や課題等の整理/学内発表会での報告、学校や校種による養護教諭の仕事の違いや特徴などについて、学びを共有	グループワーク プレゼンテーション
授業外学習	
事前学習 30分 養護概論で学んだ養護教諭の執務内容を確認する。	
事後学習 30分 演習を振り返り、養護実習で正確に実践できるように練習する。指導案や教材を作成する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
本学作成の「実習の手引き」 本学作成の「養護実習の学び2018」報告集 「学校保健実務必携」 「新養護概説」	養護実習、小児看護学 教職科目

課題に対するフィードバック

備考

科目名	養護実習			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	選択	4	3年	前期
担当者名	新開 奏恵	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

養護実習は、小・中・高のいずれかの学校において、養護教諭の指導のもとに、実際に学校での児童・生徒の健康管理や保健指導を行い、養護教諭としての実践力を養うことを目的とする。具体的には、児童・生徒の理解を深めるとともに、保健室の実習を中心として、学級運営や学習指導の観察・参加、保健指導なども体験する。このことを通して、大学で学んだ知識や技術を実践と統合させ、応用できる能力を養い、養護教諭としての自覚を高める。事前、事後指導も行う。

到達目標

児童・生徒の学校生活の実態や心身の健康問題・発達課題を理解し、適切な判断・処置・指導を行うことが出来る。

成績評価方法

出席状況・実習評価表と学生が提出した実習日誌およびレポートをもとに評価し、審議して成績を決定する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習	○	○	○	○	○	○	100

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<p>実習校で作成した「実習計画」にしたがって実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習 3時間 指導案及び教材を作成する。</li> <li>・事後学習 3時間 実習記録や資料の整理を行い、実習の振り返りを作成する。</li> </ul>	
授業外学習	
<p>実習校で作成された実習計画を確認する。保健指導や保健だより作成の準備をしておくこと。特に 指導案作成や教材づくりについて、事前に準備をしておくこと。学校保健安全法に基づく養護教諭の職務内容について確認する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
<p>「学校保健実務必携」第一法規          本学作成「養護実習の学び2018」</p>	<p>養護実習指導、学校保健、養護概論、健康相談活動、小児看護学、教職科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	学校体験活動			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	自由	1	1年	通年(前期)
担当者名	新開 奏恵、白石 義孝	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

教員を志願する学生が、早い時期で教員という職の魅力を実感することにより、教育に対する意欲を高め、今後の学びに対して目的や意義が明確となり、3年次の教育実習にも自信と見通しをもって取り組むことを目的とする。具体的には、教職員の姿から教師としての姿勢や職務を学び、児童・生徒の理解を深めるとともに、学級運営や学習指導の観察・参加なども体験する。このことを通して、大学で学んだ知識や技術を実践と統合させ、応用できる能力を養い、教員(養護教諭)としての自覚を高める。

到達目標

児童・生徒の学校生活の実態に対して、学校運営や教師の資質を理解し、適切な判断・指導についての理解を深める。  
教員をめざすための自分の課題を知る。

成績評価方法

出席状況と学生が提出した報告書およびレポートをもとに単位認定を行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校で作成した「実習計画」にしたがって実施する。</li> <li>・事前学習30分 学校体験活動の概要についてホームページ記載事項を確認しておく。</li> <li>・事後学習30分 学習内容を整理しておく。</li> </ul>	
授業外学習	
<p>「教員をめざす学生の学校体験制度」の趣旨等を確認する。  山口県教育委員会ホームページ「山口県教育推進の手引き」を確認する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	<p>養護実習指導、学校保健、養護概論、健康相談活動、小児看護学、教職科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	学校体験活動			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
実習	自由	1	1年	通年(後期)
担当者名	新開 奏恵、白石 義孝	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

教員を志願する学生が、早い時期で教員という職の魅力を実感することにより、教育に対する意欲を高め、今後の学びに対して目的や意義が明確となり、3年次の教育実習にも自信と見通しをもって取り組むことを目的とする。具体的には、教職員の姿から教師としての姿勢や職務を学び、児童・生徒の理解を深めるとともに、学級運営や学習指導の観察・参加なども体験する。このことを通して、大学で学んだ知識や技術を実践と統合させ、応用できる能力を養い、教員(養護教諭)としての自覚を高める。

到達目標

児童・生徒の学校生活の実態に対して、学校運営や教師の資質を理解し、適切な判断・指導についての理解を深める。  
教員をめざすための自分の課題を知る。

成績評価方法

出席状況と学生が提出した報告書およびレポートをもとに単位認定を行う。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合(%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）（実習）	アクティブラーニング
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習校で作成した「実習計画」にしたがって実施する。</li> <li>・事前学習30分 学校体験活動の概要についてホームページ記載事項を確認しておく。</li> <li>・事後学習30分 学習内容を整理しておく。</li> </ul>	
授業外学習	
<p>「教員をめざす学生の学校体験制度」の趣旨等を確認する。  山口県教育委員会ホームページ「山口県教育推進の手引き」を確認する。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
	<p>養護実習指導、学校保健、養護概論、健康相談活動、小児看護学、教職科目</p>

課題に対するフィードバック

備考

科目名	教職実践演習（養護教諭）			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講・演	選択	2	4年	前期
担当者名	新開 奏恵、友定 保博	関連する資格	養護教諭一種免許状	

授業概要

教育実習や学部における教職・教科専門科目についての学びを振り返り、知識・理解を補足し、自己の実践的課題を明らかにする。社会が変化の中で多様な健康課題、児童生徒の心身の発達課題に対応するために、養護教諭の仕事の内容や役割等についての実践事例をもとに、グループ討論を通して理解を深める。また、自らの社会人としての自覚、人間関係能力についても授業を通して深く考え、教職への適性を含め、卒業後のキャリアを考える契機とする。

到達目標

4年間を通しての教職課程ならびに学部教育の学びを振り返り、養護教諭の様々な場面でのしごとについて理解を深める。同時に自らの学習活動そのものを振り返り、今後の仕事や生き方にどう活かすか、展望をもつ。

成績評価方法

教員の4つの資質能力に関する評価と、グループワークや課題への取組等により、総合的に評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							0
小テスト、授業内レポート							0
宿題、授業外レポート		10	10				20
授業態度・授業参加度					20		20
プレゼンテーション							0
グループワーク	10	20	10				40
演習	20						20
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容(時間)	アクティブラーニング
1) オリエンテーション ・授業の目的・すすめ方・履修カルテの確認	岡山大学方式と矢野潔子作成の自己評価票を使用
2) 本学での学習や養護実習を振り返り、各人の自己評価一覧を開示し、他者との比較も合わせて、自他の課題を明らかにする。	グループワーク～教員に求められる4つの資質能力に関する到達度を確認する。
3) 養護教諭のスキル(知識・技術)を11の職務別と、新人期から熟練期の4段階に示したスキルラダーを参考に、グループディスカッションで自分たちの現状を振り返り課題を明らかにする。	討論は司会と記録係を交代し行う。 の資料は事前配布(次週までに読んでくること)
4) 「救急処置」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	以降も同様に実施する。
5) 「健康診断」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	最初に前回の討論記録の配布と、教員の補足説明。以降も同様に実施する。
6) 「疾病・予防管理」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
7) 「安全管理」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
8) 「環境衛生」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
9) 「ケースマネジメント」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
10) 「保健室経営」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
11) 「保健組織活動」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
12) 「保健教育」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録 ・教員のコメント	
13) 「健康相談活動」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	
14) 「自己研鑽」のスキルラダー ・意見発表～実習の振り返りと課題事例を読んだ感想を記録	宿題；社会人になる自分に対して「自己研鑽の課題」をテーマに400字作文を書いてください。
15) 講義：1)「チーム学校」における養護教諭の専門性と役割 2) これからの教師に求められるもの～あなたへのメッセージ10～	
授業外学習	
事前学習 30分 授業に関連する内容を養護実習記録から抽出し、整理する。 事後学習 30分 他者の意見や配布資料を参考に、今後の仕事や生き方にどう活かすかをまとめる。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
教材資料；養護教諭のスキルラダー(スキルラダー研究会『健康教室』東山書房 2016年4月～2017年3月 連載) 本学作成「養護実習の学び2018」	学校保健、養護概論、健康相談活動

課題に対するフィードバック

備考

科目名	生物学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	祐村 稔子	関連する資格		

授業概要

高校生物の学習内容から、専門科目の学習に必要な生物学の基礎知識をピックアップし、復習と演習問題で知識の確認と定着をめざします。

到達目標

看護に関連する生物学の基礎学力を身につける。

成績評価方法

期末試験結果に加え、出席状況および宿題、演習問題の学習状況を加点して総合評価を行います。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							20
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）		アクティブラーニング
1) 人体のなりたち（細胞・組織） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
2) 人体のしくみ（循環系・呼吸系） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
3) 人体のしくみ（排出系） 問題（30分）	【復習】演習	演習問題
4) 人体のしくみ（消化系と代謝） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
5) 人体のしくみ（感覚器官と神経系） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
6) 人体のしくみ（骨格・筋肉系） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
7) 人体のしくみ（内分泌、免疫） 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
8) 遺伝の基礎 習問題（30分）	【復習】演	演習問題
9)		
10)		
11)		
12)		
13)		
14)		
15)		
授業外学習		
講義で扱った項目に関する演習問題を宿題とします。		
テキスト、参考書、教材	関連する科目	
プリント配布	生物学、いのちの科学、人体の構造と機能	

課題に対するフィードバック

演習問題の採点結果を返却

備考

科目名	化学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	田中 経彦	関連する資格		

#### 授業概要

文明人として看護師として、正しい医学・栄養学を知ることには大変重要です。なぜかと言えば患者さんだけでなく自分や家族の健康を守るためでもあるからです。気を付けていれば防げる病気もあるからです。正しい医学・栄養学とは、この世に存在する色々な物質の性質の正しい知識、すなわち化学知識の上に成り立っています。例えば、一口にアルコールと言っても、エタノール（あるいはエチルアルコール）と、メタノール（あるいはメチルアルコール）は、物質として違っていると習いませんでしたか？エタノールはお酒に入っています。70%エタノール水溶液は、殺菌消毒に使います。一方、メタノールは、燃料等に使用されますが、これを飲むと失明したり、死んだりすると習ったと思います。ですが、海外ではまだ、メタノールを混ぜた密造酒が売られる事件が再々あり、死亡者、失明者がでます。原子・元素の構造と機能から有機化学の基礎までを中心に学習します。さらに教養教育の化学を学んで、栄養学・薬理学等の講義に備えるための基礎を学習します。

#### 到達目標

- 1) 元素記号と分子の構造の表し方が分かる。
- 2) 浸透圧、沸点上昇、凝固点降下等の現象が分かる。
- 3) 酸塩基が分かる。
- 4) 酸化還元が分かる。
- 5) 濃度の計算法が分かる。

#### 成績評価方法

期末考査、小テスト 等による

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							70
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 物質について 原子・元素の構造と機能、化学式の表し方 復習30分	
2) 化学反応式 物質の状態変化 物質質量 復習30分	
3) 気体の性質 溶液の性質（溶解、濃度）復習30分	小テスト（15分程度） 1）2）の範囲
4) 溶液の性質（沸点上昇、凝固点降下、浸透圧）復習30分	
5) 化学平衡 酸と塩基の反応 復習30分	小テスト（15分程度） 3）4）の範囲
6) 酸化・還元反応 電池 電気分解 復習30分	
7) 有機化合物（脂肪族）復習30分	小テスト（15分程度） 5）6）の範囲
8) 有機化合物（芳香族） 期末考査（50分）	
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
プリントにある問題を解いてみる。プリントにある必要事項を覚える。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
プリント 「学びなおし生・物・数・化」	看護の勉強に役立てる。

課題に対するフィードバック

小テストは翌週ポイント解説をいたします。

備考

科目名	物理学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

後期の「物理学」の授業を理解するために必要な基本的な物理の事柄を学んでいきます。  
特に、看護の物理で最も必要となる「圧力」を重点的に解説します。  
グループ討議を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

看護師、保健師で必要となる物理の基本的な事柄がわかる。

成績評価方法

毎回行う小テスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							30
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 物体の運動、トルク、運動の法則、仕事 その1 予習；物理の基礎の資料全体を概観する（30分）。復習；物体の運動について理解すること（30分）。	
2) 物体の運動、トルク、運動の法則、仕事 その2 予習；運動全般を概観する（30分）。復習；物体の運動について理解すること（30分）。	
3) 物体の運動、トルク、運動の法則、仕事 その3 と小テスト 予習；運動全般を概観する（30分）。復習；物体の運動について理解すること（30分）。	小テスト
4) 熱と気体の運動、比熱計算 予習；熱と気体の運動について調べておく（30分）。復習；熱、比熱などの計算問題を解いてみる（30分）	
5) 圧力 その1 予習；圧力全般について調べておく（30分）。復習；圧力の基本単位を理解する（30分）。	
6) 圧力 その2 予習；動圧、静圧について調べておく（30分）。復習；表面張力と濡れ現象について確認すること（30分）。	
7) 濃度計算と音 予習；濃度と音について調べておくこと（30分）。復習；濃度計算をやってみる（30分）。	
8) 確認テストと解答の解説 予習；物理の基礎資料の全体を読み返して、計算問題が解けるようになっておくこと（1時間）。	確認テスト
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
授業計画に沿って、テキスト・資料の該当単元を熟読してきてください。 テキスト・講義資料を復習して下さい。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
看護に必要な 「やりなおし数学・物理」照林社。 資料はウェブ上よりダウンロードしてください	数学の基礎、物理学、地球の現在・過去・未来

課題に対するフィードバック

備考

科目名	数学の基礎			
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期
講義	自由	1	1年	前期
担当者名	松本 治彦	関連する資格		

授業概要

看護に必要な数学の知識として、基本的な数の概念、計算のルール・式のルールを確認する。  
また、看護師国家試験に出題されている問題をもとに、解くために必要な基本的な知識を解説する。  
毎回、グループ討議の時間を設定している。自分の考えを主張して積極的に参加する。

到達目標

看護の専門科目の理解を容易にし、看護師国家試験に出る数学の問題を解く。

成績評価方法

毎回行うテスト、レポート、グループ討議の態度、定期試験で総合的評価する。

評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							40
宿題、授業外レポート							
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 基本ルール（範囲、計算順序、倍数、単位数）、小テスト 予習；数学の基礎資料、全般を概する（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	
2) 分数の計算1（分数 少数、通分、約分）、小テスト 予習；分数の計算全般を概観する（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
3) 分数の計算2（分数種類、帯分数、掛算等）、小テスト 予習；分数の計算について調べておく（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
4) 比例（比、比例、比例の性質）、小テスト 予習；比例計算について調べておく（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
5) 割合（百分率、歩合、割合、基準にする量）、小テスト 予習；割合の計算について調べておく（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
6) 速さ（求め方、単位変換、道のり、時間等）、小テスト 予習；速さの計算について調べておく（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
7) 調査（全数・標本調査、母集団、推定等）小テスト 予習；調査全般について調べておく（30分）。復習；小テストの内容を完全に理解する（30分）。	テストの結果で自分の現在の實力を知る。
8) 看護に必要な計算の確認テスト 予習；看護国家試験の過去問を調べておく（1時間）。復習；テストの内容を完全に理解する（30分）。	確認テストの結果で自分の現在の實力を知る。
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
<p>授業時間内に疑問点を克服できない人は、オフィスアワーに解決する。授業計画に沿って、テキスト・資料の該当単元を熟読してきてください。テキスト・講義資料を復習して下さい。            テスト結果を見て、間違った箇所をの確認してください。看護師国家試験の計算問題（過去問）が確実に解けるように自宅でも筆算を中心とした復習をしてください。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
「やりなおし数学・物理」照林社	物理の基礎、物理学、データの科学的な見方、保健統計

課題に対するフィードバック

備考

科目名	英語の基礎						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	1	1年	前期			
担当者名	内海 俊祐 (大学)		関連する資格				
<b>授業概要</b> 4技能の運用に必要な基礎的文法知識を身に着けるための授業を展開する。また、日常生活や地域の問題を取り上げた英文を読み、速読直読の習慣を身に付ける。さらに、パラグラフ・リーディングおよびライティングを行い、英語の文章構成を理解する。							
<b>到達目標</b> 英語の基礎的文法を理解することが出来る。 異文化を理解し、英語で簡易なコミュニケーションを図ることが出来る。			<b>成績評価方法</b> 定期試験、レポート、授業態度、発表で評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							50
小テスト、授業内レポート							20
宿題、授業外レポート							10
授業態度・授業参加度							10
プレゼンテーション							10
グループワーク							
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) 英語の文法事項についての概要的説明 文法事項 1 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
2) 英語の学習法についての助言 文法事項 2 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
3) 英語リーディングについての説明 文法事項 3 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
4) 英語ライティングについての説明 文法事項 4 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
5) 英語リスニングについての説明 文法事項 5 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
6) 英語スピーキングについての説明 文法事項 6 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
7) 英語プレゼンテーションについての説明 文法事項 7 テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
8) 文法事項 8 総括およびテスト テキストの問題を60分程度で予習・30分程度で復習を行うこと。	think-pair-share
9)	
10)	
11)	
12)	
13)	
14)	
15)	
授業外学習	
予習は必ず行うこと。英文の読みや訳は適時評価する。	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
A Shorter Course in English Grammar Check 5分間 基本 英文法確認トレーニング 佐藤誠司著 南雲堂	エッセンシャルイングリッシュ

課題に対するフィードバック

課題は点数化し成績評価に組み込み、その点数は必要に応じて学生に個別に開示する。課題は分析後、その良い点と改善点を総評する。

備考

未知の表現に出会ったら辞書で調べるように習慣づけること。電子辞書はもちろんスマートフォンの辞書機能や辞書のサイトを使用することもこの授業では可。

科目名	ナーシングスタディ						
授業形態	履修形態	単位数	年次	開講期			
講義	自由	1	4年	後期			
担当者名	坂井 浩美、柿並 洋子、山崎 啓子、山崎 千鶴代、橋本 茂子、看護学科 教員		関連する資格				
<b>授業概要</b> 基礎看護学、成人看護学、小児看護学、母性看護学、老年看護学、精神看護学、在宅看護論及び公衆衛生看護学の担当で4年間の看護学の総まとめを行う。具体的には特に重要なポイントを再度説明し、学生がグループワーク等を通して知識の再確認を行う。							
<b>到達目標</b> 1. 4年間の看護学の就学内容のまとめができる。 2. 4年間の看護学の知識において自分の課題を見出し、苦手科目を克服できる。 3. 卒業後、看護専門職業人としての心構えを養う。			<b>成績評価方法</b> 1. レポートなど提出物すべてを対象とする。 2. 出席状況、授業態度 上記項目を総合して評価する。				
評価項目	評価基準						
	試験理解	思考判断	関心意欲	技能表現	態度	その他	評価割合 (%)
定期試験(中間・期末)							
小テスト、授業内レポート							
宿題、授業外レポート							50
授業態度・授業参加度							20
プレゼンテーション							
グループワーク	b						30
演習							
実習							

授業計画と概要、予習・復習内容（時間）	アクティブラーニング
1) オリエンテーション・学習計画の進捗について	
2) 人体の構造と機能	
3) 人体の構造と機能	
4) 疾病の成り立ちと回復の促進	
5) 疾病の成り立ちと回復の促進	
6) 基礎看護学	
7) 基礎看護学	
8) 成人看護学?	
9) 成人看護学	
10) 老年・在宅・精神看護学	
11) 小児・母性・公衆衛生看護学	
12) 国際・災害・看護管理・医療安全	
13) まとめ 国家試験の翌日を予定しています。	
14) 看護専門職として旅立つ前に（１） 病院における医療安全 国家試験の翌々日を予定しています。	
15) 看護専門職として旅立つ前に（２） 看護職としての倫理・守秘義務・情報管理 国家試験の翌々日を予定しています。	
授業外学習	
<p>自らが立案した学習計画をもとに事前学習（60分以上）と事後学習（60分以上）が必要です。 学習計画の記録は、4年生チューターを通して返却いたします。</p>	
テキスト、参考書、教材	関連する科目
系統別看護師国家試験問題（医学書院）	4年間の履修科目全て

課題に対するフィードバック

備考

4年生の総まとめの学習を行うとともに、看護職として社会に旅立つ準備の講義をします。